

4. 名古屋市の野生生物の現状

維管束植物

維管束植物

① 名古屋市における維管束植物の概況

名古屋市に野生状態で生育している維管束植物（小葉類・大葉類シダ植物・大葉類種子植物）は、まだ完全な植物目録が完成していないため正確な数を把握できないが、およそ表 6 のとおりである。本来自生する変種以上の維管束植物は日本全体で約 7,500、愛知県で約 2,260 であるから、前者の約 14%、後者の約 45%が名古屋市に生育していることになる。名古屋市に生育している維管束植物の数は、尾張東部、西三河、東三河の市町村に比べれば少ないが、それは最高地点が東谷山の 198m にすぎず、市域のほとんどが開発されて、自然度の高い場所はわずかしが残存していない名古屋市の条件を考えれば当然のことで、むしろ名古屋市は、地理的な条件の割に多くの植物が生育していると考えべきである。

名古屋市の植物が比較的多いのは、主として、愛岐丘陵の末端にあたるため山地性の植物がある程度生育しているからである。名古屋市にある植物の中で、愛岐丘陵には比較的多いが丘陵地にはほとんど見られなくなる山地性植物としては、東谷山だけにあるウラジロガシ、サワオトギリ（中村区でも採集されている）、オオウラジロノキ、タマミズキ、マルバノホロシ、オオカメノキ、タニギキョウ以外にも、ウチワゴケ、ウスヒメワラビ、タニヘゴ、タニソバ、マンサク（日進長久手にもある）、コアジサイ、イワガラミ、コクサギ（知多南部にもある）、ギンリョウソウモドキ、タニウツギ、オトコエシ（知多南部にもある）、ツルニンジン、オクモミジハグマ、イナカギク（知多南部にもある）、カシワバハグマ、チゴユリ、ミヤマナルコユリ、ヒメドコロ、スルガテンナンショウ（日進長久手にもある）、ミヤマウズラ、クモキリソウなど、相当の数に上る。ヤマネコヤナギ、クロウメモドキ、カタクリ、アズマナルコなどは、愛岐丘陵にも比較的小さい。しかしこれらの植物は、名古屋市ではいずれも生育地や個体数がきわめて少なく、ほとんどがこのレッドデータブックに掲載されている。それに対して、名古屋市には尾張での分布が限られるような顕著な暖地性植物は少なく、イシカグマ、ホソバニセジュズネノキなどがあげられるにすぎない。

表 6 名古屋市の維管束植物※1

植物群		小葉類	大葉類					計
			シダ植物	裸子植物	被子植物			
					初期分岐群	単子葉類	真正双子葉類	
在来	種※2	10	100	+	20	340	550	1,020
	品種	0	+	0	+	20	50	70
	雑種	0	10	+	0	10	30	50
外来種※3		+	+	+	10	110	350	480
計		10	120	10	30	480	980	1,630

※1：10 以下の数は四捨五入。+は 0 でないことを示す。そのため縦横の合計値は、計算値と必ずしも一致しない。
※2：移入の可能性が高い植物を除き、亜種・変種を含む。
※3：正確な種名が未同定のものを含む。愛知県の「移入種」に相当する。

名古屋市東部の丘陵は、新生代第三紀瀬戸層群の粘土と礫の互層からできている。現在では大部分の場所はコナラやアベマキの落葉広葉樹二次林におおわれているが、一部には貧弱なアカマツが生育するやせ山状態の場所が辛うじて残っており、オキアガリネズ、ワタゲカマツカ、ミカワツツジ、ウンヌケなどが生育している。谷部に点在する小湿地には、サクラバハシノキ、モウセンゴケ、ハルリンドウ、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、ヌマガヤ、ミカヅキグサ、イトイヌノハナヒゲ、サギソウなどのほか、東海地方固有または準固有のヘビノボラズ、トウカイコモウセンゴケ、クロミノニシゴリ、シラタマホシクサなどが生育している。しかし、シデコブシ、フモトミズナラは分布域の末端が市の北東部にやっと達している状態で、ミカワシオガマはすぐ近くまであるが、市内にはない。熱帯系の植物でしかもこの地方を特徴づける植物であるナガバノイシモチソウとヒメミミカキグサは、緑区に生育していたが絶滅してしまった。小さい谷にはため池が多く作られており、ガガブタ、イヌタヌキモ、ウキシバなどの水草が生育し、秋期干上がった底土上にはイヌノヒゲ類、ヌマカゼクサ、シロガヤツリ、メアゼテンツキ、アオテンツキ、トネテンツキなどが群落を作る。しかしこれらの植物も、名古屋市ではほとんどのものが個体数が少なくなり、このレッドデータブックに掲載されている。

草地性植物については、名古屋市でもかつては丘陵地の谷戸田周辺に里草が点在しており、多くの種の生育場所になっていたと思われる。しかし、愛知みどりの会収蔵標本の基礎となった愛知県植物誌調査会が発足した 1990 年代初めには、既にそのような草地はほとんど消失していた。市の東部を流れる愛知用水の幹線水路沿いは、管理上の必要から毎年草が刈られるため、カワラナデシコ、タカトウダイ、コガンピ、クサレダマ、オミナエシ、リュウノウギク、カセンソウ、オオアブラススキなど、多くの草地性植物が生育していたが、愛知用水の改修工事のため、ほとんどの植物は絶滅、あるいは激減し、やはりこのレッドデータブックに掲載されるような状態になってしまった。

一方、市の西部は濃尾平野になり、本来は低湿地が広がっていた場所である。その南側は、伊勢湾に面している。そのようなわけで、低湿地性の植物や塩湿地性の植物も、代表的なものは一通り生育している。ただしこれらの植物も、開発や水の汚れによって絶滅、あるいは激減してしまったものが多く、ほとんどはこのレッドデータブックに掲載されるような状態に追い込まれている。

そのようなわけで、名古屋市の維管束植物は、種類数はそれなりにあっても、現状はきわめて危機的である。以下に、市内の地域ごとに、それぞれの状況を記述する。

ア 東谷山

東谷山は名古屋市の東端にあり、トウゴクシダとシダミコザサの基準標本産地である。標高は 198m で、市内の他地域と異なって古生代後期の砂岩、粘板岩や中生代白亜紀の伊奈川花崗岩からなり、名古屋市では唯一の山地的な地形を持つ場所である。山の北側は、庄内川に向かって急傾斜地になっており、かなり人間の手加わっているが、それなりに自然度の高い林が残存している。瀬戸市との境界に谷があり、多少は陰湿な場所を好む植物も見られる。

庄内川の川岸は、庄内川が愛岐丘陵を刻んでできた古虎溪の末端部になっており、岩場にはカワラハシノキ、ケイリュウタチツボスミレ、ツクバスゲなどが生育している。

山の南側はやや傾斜が緩く、ほとんどが造林地になっているが、瀬戸市との境界となる谷の下部に湧水湿地があり、ここにシデコブシのまとまった群落がある。この場所は、以前は開け

た湿性草地があり、レンゲツツジ、コシンジュガヤ、カキランなどが生育していた。しかし、現在ではすっかり湿地林状態になってしまい、低木や草本はほとんど消滅した。

イ 東部丘陵地とその周辺

名古屋市の東側は、かつては低い丘陵地が連なり、湧水湿地も点在しており、東海地方固有種を含む多くの植物が生育していた。過去の状況を示す資料は少ないが、現在はすっかり市街地化されている千種区覚王山で 1932～34 年に採集された標本がある程度まとまって残されており、その中にはオミナエシ、アキノキリンソウ、ヌカボシソウ、タチモ、アブノメ、ホザキノミミカキグサ、サワヒヨドリ、ミズギク、サギソウなどが含まれていて、当時は自然の豊かな丘陵地であったことがうかがえる。第二次世界大戦後も 1975 年頃までは、天白区や緑区では丘陵地の地形が連続的に残されていた。しかし現在では宅地化が著しく進行し、いくつかの残存緑地が島状に残されているだけである。一方、残された緑地では里山としての利用や管理が行われなくなったために森林化が進行し、少し前までのやせ山状態はほとんど失われた。

森林公園周辺の緑地

名古屋市の丘陵緑地の中では最も市街地から離れており、湿地やため池も多く、自然も多く残されている。かつてはヒツジグサ、ノタヌキモ、シズイ、カガシラ、ミズトンボなども生育していた。現在でも、減少したとは言ってもまださなざまな植物が生育している。フモトミズナラ、ガンピ、タチモ、ムカゴニンジン、ヌマダイコン、ツクシクロイヌノヒゲなどは、名古屋市では現在のところこの緑地でしか確認できない。

才井戸流と庄内川

中志段味の才井戸流は、庄内川に沿った崖から多量の水が湧き出して清流となり、ミクリ、ヤマトミクリ、ミズタガラシなどが生育している。崖地にはニガキ、ノダケなどが生育し、流れに沿った水田にはミズトラノオ、マツカサススキなどが見られ、地形的にも大変重要な場所であった。しかし、水源部の地形は名古屋市上下水道局の産業廃棄物処分場建設により改変されてしまい、周辺の水田も開発が進行中である。庄内川の礫の河川敷にはカワラサイコ、シベリアアメドハギなどが生育し、堤防の草地にはイヌハギ、フシグロ、ヒトツバハギ、ヤマハッカ、タツナミソウなどが生育していたが、それらの一部はすでに消失してしまった。

小幡緑地・吉根・大森

守山区の丘陵前縁に位置する緑地で、ため池の周囲にマメナシが多い。しかし、最大の自生地である蛭池では、公園化のため現存する個体は保存されても繁殖の条件が失われ、将来の絶滅が約束されたような状態になっている。コガクウツギ、アキノギンリョウソウ、ニシノホンモンジスゲなどは、名古屋市ではこの地域だけに生育している。シデコブシもわずかに生育している。しかし、丘陵の西側は開発が進行しており、いくつかの植物がきわめて危機的な状況に追い込まれている。小幡緑地の中にはいくつかの湧水湿地があったが、最も大きかったものは公園整備のため埋め立てられた。

猪高緑地

長久手市との境界にあり、ゴルフ場や大規模な運動公園がないという点で貴重な緑地である。緑地内にはため池が多く、ジュンサイ、ガガブタ、イヌタヌキモなどの水草やヒナノカンザシ、ヒメアオガヤツリ、ウキヤガラ、マネキシシジュガヤ、ミズニラなどの湿性植物が生育していたが、それらの一部は池の改修や遷移の進行により消失してしまった。林内にはギンラン、クサコアカソ、イナカギク、ムラサキニガナなどが生育していたが、タケ類が増加し、現存を確認できなくなったものもある。

牧野ヶ池緑地

牧野ヶ池緑地は大きな緑地であるが、中央部がゴルフ場にされており、そのため生物多様性保全の場としての価値が著しく損なわれている。牧野池にはイヌタヌキモなどの水草が生育している。ゴルフ場周辺部の林にはウスバシケンサ、カエデドコロ、ウバユリなどが生育していたが、近況は充分確認されていない。

東山公園・平和公園

丘陵地の最前縁に位置し、中央部は墓地や動植物園になっているが、周辺部にはそれなりに林が残されている。20年ほど前まではヒメコウホネの茂る小池やシラタマホシクサ、ムラサキミミカキグサ、イヌセンブリなどの生育するいくつかの湿地があり、タイムスリップしたかのような農耕地も残されていたが、森林化が進行して、現在ではエンシュウムヨウランなどが目につく程度になってしまった。

荒池緑地・島田緑地

荒池にはウキシバが多く、周辺ではオオアブノメなども確認されている。西側にある島田緑地は、かつてはいろいろな植物が生育していたが、公園化されて自然度が低下してしまった。

相生山緑地

ゴルフ場や大規模な運動公園がなく、まとまった面積が確保されているという点で、猪高緑地とともに貴重な緑地である。林内にはウスバシケンサの大きな群落があり、ヤナギイノコヅチ、エンシュウムヨウラン、オカウコギなども生育している。緑地内に湧水湿地はないが、近くには地下水がしみ出している場所があり、以前はミカワシシジュガヤなども生育していた。

みどりが丘公園とその周辺

みどりが丘公園の西側には愛知用水が通っており、その土手にはキスゲ、オオアブラススキ、タカトウダイ、リュウノウギク、オミナエシなど多くの草地性植物が生育していた。しかし、用水の改修によって土手の草地が失われ、これらの植物もほとんどが消失してしまった。

大高緑地とその周辺

緑区には滝ノ水湿地など多くの湧水湿地があり、全国的にも希少なナガバノイシモチソウ、ヒメミミカキグサをはじめ多くの湿地性植物が生育していたが、開発によりほとんどが失われてしまった。最大の残存緑地である大高緑地は大部分が公園化されているが、水辺にキヌヤナ

ギの群落があり、ハナショウブが植えられた湿地にも雑草としてヒメタイヌビエ、ナガバノウナギツカミなどが生育している。周辺の小緑地にはウラシマソウなどが生育している。

ウ 中部市街地

名古屋市の中部はすっかり市街地化されているが、名古屋城と熱田神宮に大きな緑地がある。

名古屋城

名古屋城は名古屋市街地では最大の緑地である。大部分は公園化されているが、石垣など人が接近しにくい場所にはいろいろな植物が生育している。石垣の植物で特に目立つのはツメレンゲで、本来の自生ではないかもしれないが、愛知県では最大の群落である。ウチワゴケ、トキワトラノオ、チャセンシダなどのシダ植物も生育しており、特にチャセンシダは尾張では唯一の自生地である。堀の土手斜面には、キクムグラの小群落がある。堀にはフサタヌキモなど多くの水草が生育していたが、現在では水が汚れてほとんど絶滅してしまった。しかし現在でも、オニバス、ヒメビシなどが僅かに残存している。水辺の湿地には、ゴキヅルが多い。堀川は庄内川からの導水によって清流が蘇り、オグラノフサモをはじめヤナギモ、アイノコイトモなどの水草が見られるようになった。

熱田神宮とその周辺

市街地南部の熱田神宮にも、よく茂った社叢がある。社叢内は立ち入りが制限されているため十分に調査できなかったが、過去にはアズマガヤが確認されている。他の樹木等について持ち込まれた可能性は否定しきれないが、数m四方の群落があり、尾張では唯一の自生状生育地であった。周辺にもいくつかの社叢や古墳があり、カゴノキ、シロダモ、ウラシマソウなどが生育している。

エ 西部低地

北区から西区にかけての庄内川右岸は、もともとは広い水田地帯であった。しかし現在では住宅地化が進行し、住宅地の間に僅かに残存していた水田もほとんど消失した。このような水田では強力な農薬が使用されないためにミズネコノオなども残存していたが、このような水田雑草も消失した。中川区や港区の水田、水路、小河川では、サンショウモ、トチカガミ、コウガイモなどの水草が生育していたが、水の汚れによって絶滅してしまった。ウスゲチョウジタデなど、海部郡の水田では普通にみられる植物も、名古屋市内では希少である。低湿地性植物が将来もある程度残存する可能性があるのは、庄内川などの河川敷と庄内緑地だけであろう。海岸部は著しく改変が進み、砂浜的な部分は全く残されていない。しかし、河口部や入江には泥質の場所があり、大都市域の割には比較的多くの塩湿地性植物が生育している。

庄内川河川敷

庄内川河川敷は耕作地や公園になっている部分が多く、まとまったヤナギ林は残されていない。しかし、愛知県から琵琶湖岸にかけての固有種であるキヌヤナギが、個体数は少ないが点々と生育している。点々と高木があるオオタチヤナギも、他の地方のものに比べると葉が著しく幅広く、保全上の配慮を要する。低湿地性の草本植物は河川規模の割に少なく、河口部以外で

はミゾコウジュなどが見られるにすぎない。

庄内川・日光川河口部

庄内川河口部には広いヨシ原があり、良好な自然景観が保たれている。生育している植物の種類はそれほど多くないが、カワラニンジン、シオクグ、イセウキヤガラなどは個体数が多い。一部の場所ではシバナの群落がある。藤前干潟は植物に関してはほとんど注目すべきものがないが、そこに流入する日光川の河口部には、ウマスゲなどが僅かに残存している。

名古屋港東側の沿海地

南区加福町の貯木場跡地は、放棄後次第に自然状態が回復し、伊勢湾の愛知県側では唯一の個体であったハマボウ、愛知県では数カ所しか生育していないハマアカザをはじめ、ホソバハマアカザ、ウラギク、シオクグなどかなりの塩湿地性植物が生育していたが、名古屋市の廃棄物最終処分場建設により埋め立てられてしまった。現在多少なりとも塩湿地性植物が生育しているのは大江川と天白川の河口部だけで、ここではイセウキヤガラ、アキノミチャナギなどが見られるほか、コギシギシが多く生育している。

(執筆者 芹沢俊介)

② 名古屋市における絶滅危惧種の概況

リスト掲載種の数を集計して、表 7 に示した。

表 7 名古屋市版レッドリスト（維管束植物）掲載種数

カテゴリー 分類群		絶滅 (EX)	絶滅のおそれのある種				準絶滅 危惧 (NT)	計	参考 国リス ト・県 リスト 掲載種
			絶滅 危惧 I A 類 (CR)	絶滅 危惧 I B 類 (EN)	絶滅 危惧 II 類 (VU)	小計			
維管束植物（計）		75	49	58	72	179	38	292	11
小葉類		0	1	0	0	1	0	1	0
大葉類	シダ植物	2	1	3	6	10	3	15	1
	裸子植物	0	1	0	0	1	0	1	0
	被子植物	3	5	1	0	6	3	12	1
		29	21	23	20	64	10	103	2
		41	20	31	46	97	22	160	7

かつて名古屋市に生育していた維管束植物の中ですでに絶滅したと判定されるもの（絶滅／野生絶滅）は 75 種、現在生育している、あるいはまだ生育している可能性があるが絶滅が危惧される状態にあると判定されたもの（絶滅危惧 I A 類、絶滅危惧 I B 類、絶滅危惧 II 類）は 179 種、現時点で直ちに絶滅が危惧されるほどではないが、今後の状況によっては絶滅危惧種に移行する可能性がある種（準絶滅危惧）は 38 種となった。また、環境省が 2015 年に発行するレッドデータブック 2014 植物 I（維管束植物）、愛知県が 2015 年に発行するレッドリストあいち 2015 に掲載される種のうち、名古屋市での生育状況から絶滅危惧に該当しないと判定されたものはミズオオバコ、ミズマツバ、カワヂシャの 3 種、名古屋市に生育するものは全て移入または逸出で評価の対象にならないと判定されたものはマツバラ、ニッケイ、シラン、ナラガシワ、ヤキヤナギ、アサザ、ハクサンボクの 7 種（他に、オグラフサモが同定上の理由で掲載）であった。

植物群ごとに見ると、園芸目的で採取されることが多いラン科、ユリ科、水草や湿地性植物の多いトチカガミ科、ヒルムシロ科、ホシクサ科、カヤツリグサ科などを含む単子葉類は、他の群に比べて絶滅危惧種の割合が高くなった。ラン科は特に絶滅種、絶滅危惧種の割合が高く、名古屋市の自生種のほとんどが今回のリストに掲載された。それに対してシダ植物は、希少偶産種と判定されたものが多かったため、結果的に絶滅危惧種の割合が低くなった。生育環境別では特に水生植物が危機的で、タヌキモ類は 5 種中 4 種が絶滅、1 種が準絶滅危惧、スイレン科は 3 種中 2 種が絶滅（他に、コウホネも過去に名古屋市域に生育していた可能性がある）、1 種が絶滅危惧 I A 類、トチカガミ科は 10 種中 6 種が絶滅（他に、セキシヨウモもおそらくは過去に名古屋市域に生育していて絶滅したと思われるが、確実な資料がない）、1 種が絶滅危惧 II 類、1 種が準絶滅危惧である。

掲載種数を環境省 2014 年版レッドデータブック、および愛知県 2015 年版レッドリストと比較した結果を、表 8 に示した。

表8 レッドデータブック・レッドリスト掲載種数の比較

	自生種 総数	絶滅	絶滅のおそれのある種				準絶滅 危 惧	情報 不足	計	国・県 リスト
			I A	I B	II	小計				
名古屋市	1,020	75	49	58	72	179	38		292	11
愛知県	2,260	47	90	179	183	452	115	3	617	25
環境省	7,500	42	519	519	741	1,779	297	37	2,155	

自生種総数に対する絶滅・絶滅危惧種の数、および準絶滅危惧種を含むリスト掲載種総数の割合は、名古屋市ではそれぞれ約 25%および約 29%になった。この数字は、愛知県の場合それぞれ約 22%、約 27%、日本全国の場合それぞれ約 24%、約 29%であるから、名古屋市、愛知県、日本全国のリストはほぼ同等の水準で評価が行われていると判断される。

カテゴリー毎に見ると、リスト掲載種の中で絶滅／野生絶滅が占める割合は、日本全体で 1.9%、愛知県で 7.6%に対し、名古屋市は 25.8%で、割合が極めて高かった。これは、調査範囲が狭いことに加えて、大都市域で著しく開発が進んでいるという名古屋市の地域特性を反映していると考えられる。絶滅以外のカテゴリーについても、ほぼ同じ手法を用いた愛知県の結果と比較すると、全体的にランクの高いものの割合が大きい傾向があった。愛知県全体と比較して評価結果の逆転現象が生じた種はマメナシ（愛知県：絶滅危惧 I A 類、名古屋市：絶滅危惧 I B 類）だけで、これは日本全国に生育している個体の半数以上が名古屋市内に集中しているという特殊事情による。

減少の原因は各種ごとにそれぞれ記述したが、全体としてみると里山の二次林や草地の利用停止に伴う遷移の進行、開発による生育地の破壊（水の汚染による生育環境の破壊を含む）、園芸目的の採取が、植物を絶滅の危機に追い込んでいる三大要因である。このうち遷移の進行は、それ自体は自然現象である。しかし、遷移の進行が問題になる背景としては、その前段階として、人間が生活域を拡大する過程でさまざまな遷移段階を含む本来の自然環境を破壊し、それらの植物のもともとの生活場所を奪って、彼らを薪炭林や採草地、あるいは用水岸や河川堤防の草地などに追い込んできたという経緯がある。湧水湿地の植物にしても、治山事業等によって新たな湿地が形成される条件をなくせば、遷移に追われた植物は次の行き場を失ってしまう。東海豪雨の際にも東谷山などではいくつかの崩壊地ができたが、いずれもすぐに復旧工事が行われ、新たな湿地の形成には結びつかなかった。このような見方をすれば、一部の先駆種的な植物以外の大部分の種については、遷移の進行も人為的な環境破壊の一つの型と見なすべきである。

その意味で、用水路の岸、ため池の堰堤、河川の堤防などは管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、多くの草地性植物の貴重な生育地となっている。改修の際には、これらの場所が生物多様性保全に果たしている重要な役割を考慮し、適切な配慮を行うことが望まれる。

（執筆者 芹沢俊介）

③ 名古屋市で特に保全上の重要性が高い維管束植物

すでに述べたように、名古屋市に生育する維管束植物は、名古屋市では希少で絶滅が危惧される状態でも、周辺域に行けば普通種であることが多い。しかし中には、名古屋市を特徴づける、他地域では希少な種も存在する。代表的なものとしては、マメナシとミヤコミズがある。これらの植物は、他に代替がきかないという理由で、特に保全上の重要性が高い。

マメナシ *Pyrus calleryana* Decne. (バラ科)

マメナシは、日本、朝鮮半島中部、中国大陸中南部、ベトナム北部に隔離的に生育する樹木で、日本での生育地は愛知県、岐阜県、三重県に限られている。名古屋市では小幡緑地、大森蛭池などにまとまった生育地があり、その他にもところどころに生育している。おそらくは日本に現存する個体の過半数が名古屋市内に生育しているものと思われる。名古屋市に生育する維管束植物の中では、最も保全上の重要性が高いものである。本来ならば、名古屋市内に生育する全ての個体について個別に現状を確認し、モニタリング調査を継続すべきである。

ミヤコミズ *Pilea kiotensis* Ohwi (イラクサ科)

ミヤコミズは、西日本に分布するイラクサ科の1年生草本で、全国的に見ても希少な植物であり、生育が確認されている県は三重県、京都府、奈良県、和歌山県、兵庫県、岡山県、山口県、福岡県、大分県の9府県に限られている。名古屋市では名東区に小群落があるが、これが愛知県唯一の自生地であるとともに、分布の東限である。名古屋市に生育する維管束植物の中では、マメナシに次いで保全上の重要性が高い。

以上2種の他に地域固有性が高く、あるいは愛知県では生育地が限られているという理由で保全上重要と考えられるものには、ウスバシケシダ、オニバス、シデコブシ、ヤマユリ、ミノボロスゲ、センダイスゲ、ヒメアオガヤツリ、トネテンツキ、アズマガヤ、ヒメタイヌビエ、シダミコザサ、スハマソウ、ヒメビシ、コガクウツギなどがある。ヒメコウホネ、ミカワシンジュガヤなども、全国的にも愛知県でも希少な植物であった。それぞれの種の特徴や生育地は、各種の解説に記述されているが、以下に要約を記述する。

ウスバシケシダ *Deparia* sp. (イワデンダ科)

濃尾平野やその周辺の丘陵地を中心に分布するシダ植物で、シケシダに比べて根茎が長くはいい、葉は薄くて切れ込みが深い。名古屋市では相生山緑地に大きな群落があるが、この群落は既知の自生地の中でも最も大きなものの一つで、保全上特に重要である。天白区牧野ヶ池緑地、守山区才井戸流にも小群落がある。

オニバス *Euryale ferox* Salisb. (スイレン科)

日本では東北地方中部から九州までの池沼に生育する大型の水草で、全国的に減少傾向が著しい。名古屋市では名古屋城外堀に生育しており、ここが現存が確認できる愛知県唯一の自生地である。この場所も一時絶滅状態であったが、2012年に再出現した。

シデコブシ *Magnolia stellata* (Sieb. et Zucc.) Maxim. (モクレン科)

東海地方の丘陵地に生育する落葉小高木または低木。名古屋市では東谷山北麓に比較的大きな群落があるほか、吉根に2ヶ所、少数個体が生育している。本地域の代表的な固有種であり、愛知県における分布域の末端にあたるという点でも保全上の重要性が高い。

ヤマユリ *Lilium auratum* Lindl. (ユリ科)

林縁などに生育する多年生草本で、白色の大きい花をつける。東北地方から近畿地方まで分布しており、愛知県では東三河とそれに接する西三河の一部に生育しているが、それ以外では名古屋市と犬山市に少数個体が生育しているだけである。

ミノボロスゲ *Carex albata* Boott (カヤツリグサ科)

北方系の多年生草本。長野県や岐阜県まで行けば山地の踏み跡などに普通に生育しているが、愛知県では稀少で、東三河の3区画（豊根東部、鳳来北東部、豊川）で確認されているにすぎない。名古屋市では、小幡緑地内の路傍に2ヶ所群落がある。分布域の南限に近い自生地である。

センダイスゲ *Carex lenta* D. Don var. *sendaica* (Franch.) T. Koyama (カヤツリグサ科)

通常は海岸のクロマツ林内などに生育する多年生草本。愛知県では田原西部、美浜南知多などで確認されているが、どちらも匍匐枝の短いセンダイスゲモドキと呼ばれる型が多く、典型的なセンダイスゲは個体数がごく少ない。名古屋市では中区の名古屋城内に小群落がある。古い時代に持ち込まれたものかもしれないが、県内では貴重な植物である。

ヒメアオガヤツリ *Cyperus extremeorientalis* Ohwi (カヤツリグサ科)

関東地方以西のため池の岸などに生育する小型の1年生草本。愛知県では2002年の調査で猪高緑地に生育することが確認された。同じような場所に生育するシロガヤツリに紛らわしい植物なので、注意して探索すれば尾張の他市町でも確認される可能性があるが、現在のところ他に県内の確実な記録はない。

トネテンツキ *Fimbristylis stauntonii* Debeaux et Franch. var. *tonensis* (Makino) T. Koyama
(カヤツリグサ科)

秋期干上がったため池の岸に生育する小型の1年生草本。全国的にも愛知県でも稀少な植物で、県内では尾張部の丘陵地にある数カ所のため池で確認されているにすぎない。名古屋市では2013年に初めて生育が確認された。

アズマガヤ *Asperella longe-aristata* (Hack.) Ohwi (イネ科)

林内に生育する多年生草本。愛知県では東三河の山地に点在し、渥美半島にも自生地があるが、それ以外では名古屋市が唯一の生育地である。名古屋市では熱田神宮境内に、数m四方の群落があった。

ヒメタイヌビエ *Echinochloa crus-galli* (L.) P.Beauv. var. *formosensis* Ohwi (イネ科)

日本から東南アジア、インドにかけて広く分布する水田雑草であるが、識別がやや難しいこともあって、愛知県では今まで未記録であった。今回の調査で、大高緑地に生育することが確認された。ただし雑草的な植物なので、注意して探索すれば他市町でも確認される可能性がある。

シダミコザサ *Sasa samaniana* Nakai var. *yoshinoi* (Koidz.) S.Suzuki form. *hidejiroana* (Koidz.) S.Suzuki (イネ科)

名古屋市産の標本をもとに記載されたミヤコザサの一型で、葉裏、節、桿鞘に毛があり、葉鞘に毛がない。愛知県では愛岐丘陵だけに分布しており、三河山地には見られない。名古屋市では守山区の東谷山上部に生育しており、ここが基準標本産地と思われる。

スハマソウ *Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai form. *variegata* (Makino) Kitam.

(キンポウゲ科)

早春白色の花をつける、小型の多年生草本である。東北地方中部から四国まで分布しているが、園芸目的の採取により全国的に減少している。名古屋市では1ヶ所にかかなり大きい集団がある。愛知県では生育地が限られており、名古屋市以外では、尾張、西三河の4区画で確認されているにすぎない。

ヒメビシ *Trapa incisa* Sieb. et Zucc. (ミソハギ科)

日本では本州～九州の池沼に生育する浮葉性の水草。ヒシ属は水草の中では比較的汚染耐性があるが、本種だけは汚染に弱いらしく、全国的に減少傾向が著しい。愛知県では名古屋城外堀に僅かに残存しているほか、豊田市旧市域東部の3ヶ所に生育しているだけである。

コガクウツギ *Hydrangea luteo-venosa* Koidz. (アジサイ科)

近畿地方以西と伊豆半島に分布する落葉性の小低木。愛知県は2つの分布域をつなぐ重要な生育地である。しかし県内では、名古屋市守山区に1株と、豊橋市北部に少数株が生育しているにすぎない。

すでに絶滅してしまった維管束植物の中では、ナガバノイシモチソウ（紅花）とヒメミミカキグサが日本では東海地方だけに分布していて、しかも東海地方でも生育地の少ない植物であり、フサタヌキモが全国的に希少で、愛知県では名古屋市以外では確実な記録がないものであった。

以上のほか、ヘビノボラズ、クロミノニシゴリ、シマジタムラソウ、シラタマホシクサ、ウンヌケなどは、東海地方に固有の、あるいは東海地方に分布の中心を持つ植物であり、レッドリストでの評価の割に保全上の重要性が高い。また、この他に愛知県版レッドリストに掲載されている種も、県全体として絶滅が危惧される状態にあるという点で、県全体としてリスト外の種よりも相対的に保全上の重要性が高いと考えるべきである。

(執筆者 芹沢俊介)

④ レッドリスト掲載種の解説

レッドリストに掲載された各種について、形態的な特徴や分布、市内の状況等を解説した。記述の項目、内容等は以下の凡例のとおりとした。準絶滅危惧、国リスト・県リストの種についても、これらが目にふれる機会が多いことを考慮し、絶滅種・絶滅危惧種とほぼ同じ様式で記述した。

【掲載種の解説（維管束植物）に関する凡例】

【分類群名等】

対象種の分類上の位置を示す門、綱、科名等を各頁左上枠外に記述した。科の範囲、名称、配列は一部を除き「日本維管束植物目録」（米倉浩司著、北隆館、2012年）に準拠した。

【和名・学名】

対象種の和名及び学名を各頁上の枠内に記述した。和名及び学名は「第三次レッドリスト レッドリストあいち 2015」（愛知県 2015）、及び「レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 8 植物 I（維管束植物）」（環境省 2015）と同様、原則として「日本の野生植物」（平凡社）に準拠した。科内の配列は、学名のアルファベット順とした。

【カテゴリー】

対象種の名古屋市におけるカテゴリーを各頁右上枠内に記述した。参考として「第三次レッドリスト レッドリストあいち 2015」（愛知県 2015）の愛知県での評価、及び「レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 8 植物 I（維管束植物）」（環境省 2015）の全国でのカテゴリーも併記した。

【選定理由】

対象種がレッドデータブックなごや 2015 掲載種として選定された理由について記述した。評価の基礎になった個体数、集団数、生育環境、人為的圧力、県内分布の階級値、および補正を行った種については補正值と補正理由も示した。

「国リスト・県リスト」の種については【除外理由】として、対象種が名古屋市では絶滅危惧種と判断されなかった理由を記述した。

【形態】

対象種の形態の概要を記述した。この部分の記述は、特に断っていない限り全国的な資料に基づくものである。

【分布の概要】

対象種の分布状況について、市内・県内・国内・世界での概要を記述した。市内の分布は、原則として 1985 年以後に生育が記録された場所を区単位で示し、その裏付けとなる標本をより詳細な採集地と共に引用した。ただし標本は、全ての確認地点で採集されているわけではない。また、必要に応じて 1984 年以前に採集された標本はあるがその後確認されていない区、記録はあるが確認できない区を付記した。一部の、詳細な分布情報を公表すべきではないと判断された種については、区以下の地名表記を避けた。

標本の所在は、以下の略号で表記した。

無表記：愛知みどりの会（AICH）

CBM：千葉県立中央博物館

MAK：首都大学東京牧野標本館

NBC：なごや生物多様性センター

TI：東京大学総合研究博物館／大学院理学系研究科附属植物園

CBM と NBC については、それぞれの機関の標本登録番号を併記した。

1990 年以前の記録があるが名古屋市産の標本が確認できない一部の種については、当時愛知県内で標本資料を集積できるシステムが構築されていなかったことを考慮し、確実と思われるものだけに文献をそのまま引用した。

市内分布図は、各区の境界を実線で表示し、自生個体の現存が確認された、または現存の可能性が大きいと判断された区を 、絶滅、または絶滅の可能性が高いと判断された区を 、何らかの人為により移入されたと判断される外来個体のみが存在する区のみを  で示した。現存が確認されなかったが定性的に評価した種は、「絶滅」と判定されていないにもかかわらず、全

ての区で絶滅表示となっている場合がある。

県内分布は、行政区分をもとに、原則として 50km² 未満の市町村は併合し、200km² 以上の市町村は分割して、県内（名古屋市を除く）を 55 に分けた区画（361 頁参照）を用いて、現在、または過去に分布が確認されている区画を示した。ただしこの部分の記述は、市町村合併に伴う区画割りの変更などのため再集計中なので、一部不確実なところがある。文献として引用する場合は、事前に必ず愛知みどりの会に問い合わせしてほしい。

【生育地の環境／生態的特性】

対象種の生育環境及び生態的特性について記述した。

【現在の生育状況／減少の要因】

対象種の名古屋市における現在の生育状況、減少の要因等について記述した。最近の生育状況が確認されていない一部の種については、過去の生育状況を記述した。

絶滅種については【過去の生育状況／絶滅の要因】として、対象種の名古屋市における過去の生育状況、絶滅の主な要因について文献、標本調査、野外調査等の結果に基づき記述した。

【保全上の留意点】

対象種を保全する上で留意すべき主な事項を記述した。

【特記事項】

異名、近似種との識別点、調査の際の留意事項、2014 年 4 月公表のレッドリスト（案）と評価が異なる場合は前の評価区分と変更理由等、以上の項目で記述できなかった事項を記述した。

【引用文献】

記述中に引用した文献を、著者、発行年、表題、掲載頁または総頁数、発行機関とその所在地（または雑誌名と掲載巻・頁）の順に掲載した。

【関連文献】

対象種の理解の助けになる一般的文献を、著者、発行年、表題、掲載頁、発行機関とその所在地（または雑誌名と掲載巻・頁）の順に掲載した。

多くの種に関連する文献については、以下の略号を用いた。

保シダ：田川基二．1959．原色日本羊歯植物図鑑．保育社，大阪．

保草Ⅰ：北村四郎ほか．1957．原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ．保育社，大阪．

保草Ⅱ：北村四郎ほか．1961．原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ．保育社，大阪．

保草Ⅲ：北村四郎ほか．1964．原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ．保育社，大阪．

保木Ⅰ：北村四郎ほか．1971．原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ．保育社，大阪．

保木Ⅱ：北村四郎ほか．1979．原色日本植物図鑑 木本編Ⅱ．保育社，大阪．

平シダ：岩槻邦男．1992．日本の野生植物 シダ．平凡社，東京．

平草Ⅰ：佐竹義輔ほか．1982．日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類．平凡社，東京．

平草Ⅱ：佐竹義輔ほか．1982．日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類．平凡社，東京．

平草Ⅲ：佐竹義輔ほか．1981．日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類．平凡社，東京．

平木Ⅰ：佐竹義輔ほか．1989．日本の野生植物 木本Ⅰ．平凡社，東京．

平木Ⅱ：佐竹義輔ほか．1989．日本の野生植物 木本Ⅱ．平凡社，東京．

環境庁：環境庁．2000．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 ―レッドデータブック― 8 植物Ⅰ（維管束植物）．同庁，東京．

SOS 旧版：愛知県植物誌調査会．1996．植物からの SOS―愛知県の絶滅危惧植物．同会，刈谷．

SOS 新版：愛知県自然史研究連絡会．2002．自然からの SOS―レッドデータブック愛知・植物編解説．愛知みどりの会，刈谷．

愛知県：愛知県環境調査センター（編）．2009．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 ―レッドデータブックあいち 2009― 植物編．同県環境部自然環境課，名古屋．

維管束植物 <シダ植物 デンジソウ科>

デンジソウ *Marsilea quadrifolia* L.

カテゴリー

【選定理由】

全国的にも減少傾向の著しい水生植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

夏緑性の水生シダ植物。根茎は細く、泥土上を長く横走して不規則に分岐する。葉柄は緑色で長さ10～15cm、葉身は4つ葉のクローバーに似て直径2.5～4cm、4枚の小葉が「田」の字に並ぶ。小葉は倒三角形、上端はゆるやかな円形で両側は直線に近く、基部は広くさび形となる。葉柄の基部より少し上から出る短い枝に、長さ4～5mmで豆のような形をした1～3個の胞子のう果をつけ、その中に数個の胞子のう群をつける。胞子には雌性の大胞子と雄性の小胞子がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

北区（楠町，大形 昌 s.n., 1979-10-10）、西区（五才美町，高木順夫 s.n., 1981-10-11）に生育していた。昭和区川名公園の池にあるが、これはどう見ても植栽起源と思われる。

【県内の分布】

豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、豊田北西部、岡崎北部、西尾南部、江南丹羽、春日井で確認されているが、かなりの区画で既に絶滅していると思われる。新城、田原西部、あま大治で採集された古い標本もある。かつては普通の水田雑草だったと思われるが、資料はほとんど残されていない。

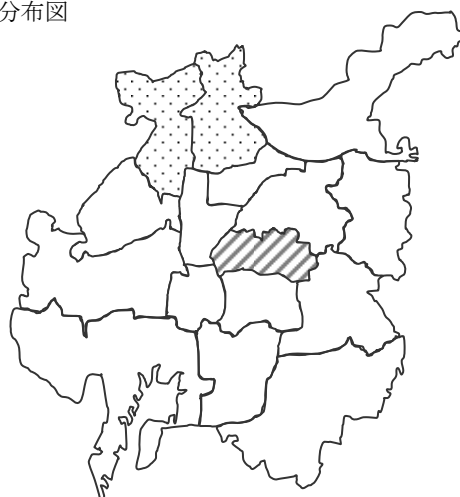
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州と奄美大島に生育していたが、近年減少傾向が著しい。

【世界の分布】

ヨーロッパ、インド北部～東アジアに分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

水田やその周辺の水路などに生育し、水が浅いところでは挺水植物、やや深いところでは浮葉植物になる。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

量的な状況は不明である。どちらの場所でも水田の宅地化により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市内では生育できる環境がほとんど残されておらず、再発見は困難と思われる。近年のビオトープ・ブームにより原産地不明の系統があちこちに持ち込まれているので、仮に再発見されても、真の自生とは判断しにくい。生育環境の創出は望ましいが、創出した場所に生物を人為的に持ち込んだら、自然の再生にはならない。

【特記事項】

手作業の除草では容易に駆除できない植物であるが、除草剤の使用により激減した。カタバミモの名もある。

【関連文献】

保シダ p.170, 平シダ p.283, 環境庁 p.429, SOS 旧版 p.42, SOS 新版 p.114, 愛知県 p.157.
倉田 悟・中池敏之（編）. 1987. 日本のシダ植物図鑑 5:778-782. 東京大学出版会, 東京.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <シダ植物 サンショウモ科>

サンショウモ *Salvinia natans* (L.) All.**【選定理由】**

全国的にも減少傾向の著しい水生植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

一年生の水生シダ植物。茎はところどころで分岐し、長さ5～15cmになる。浮葉は単葉で楕円形～長楕円形、長さ0.8～2cm、平坦または少し水中側へ曲がり、基部は円形で短い柄があり、2枚が対生状につく。水中葉は細かく枝分かかれし、根のような形態と機能をもつ。胞子のう群は秋に水中葉の基部に集まってつく。

【分布の概要】**【市内の分布】**

千種区（東山、鈴木辰夫 s.n., 1947-8-4）、中川区（富田町戸田、高木順夫 558, 1992-9-23）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、豊橋北部、下山、豊田東部、豊田北西部、岡崎北部、瀬戸尾張旭、東海知多、小牧、岩倉西春日井、一宮西部、あま大治、海部西部の標本があるが、現況は十分把握されていない。瀬戸尾張旭、あま大治では絶滅し、そのほかにもいくつかの区画ですでに絶滅したものと思われる。かつては普通の水田雑草で、更に多くの区画で生育していたものと思われるが、資料はほとんど残されていない。

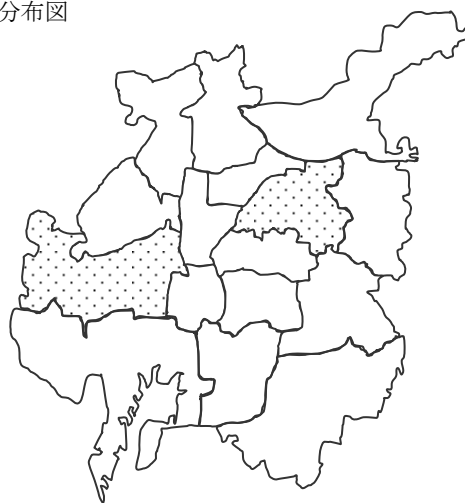
【国内の分布】

本州、四国、九州の低地に生育するが、近年減少傾向が著しい。

【世界の分布】

ヨーロッパ、アジア、アフリカに分布し、北アメリカからも記録されている。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

平野部の水田、ハス田やその周辺の水路に生育する浮遊植物で、しばしば栄養的に繁殖して水面を覆う。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

少し前までは、名古屋市内でも普通に見られる水田雑草であったと思われる。耕地整理に伴う乾田化や除草剤の使用によって減少し、最終的には生活排水の流入による水質悪化のため絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市内では生育できる環境がほとんど残されておらず、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

県内では稀に、大型のオオサンショウモ *S. molesta* D.S.Mitch.が逸出野生化している。アカウキクサとオオアカウキクサも市内に生育していたと思われるが、標本等は確認できない。

【関連文献】

保シダ p.171, 平シダ p.284, 環境庁 p.430, SOS 旧版 p.43, SOS 新版 p.143, 愛知県 p.158.
倉田 悟・中池敏之（編）. 1987. 日本のシダ植物図鑑 5:796-801. 東京大学出版会, 東京.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 初期分岐群 スイレン科>

ヒメコウホネ *Nuphar subintegerrima* (Casp.) Makino**【選定理由】**

全国的にも愛知県でも減少傾向の著しい水生植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

多年生の水草。地下茎は太くて白く、水底の地中を横にはう。葉は束生し、長くて中空の葉柄があり、水中葉の葉身は薄く、辺縁は波状になる。水上葉は水面に浮かぶが水位が低下すると水上に出て、葉身は広卵形、長さ 6~10cm、幅 5~8cm、やや厚く、基部は矢じり形にへこみ、表面は無毛で光沢がある。花期は6~9月、花柄は長く伸び、水上に出て、先端に1個の花をつける。花は黄色で直径3~4cm、がく片は通常5枚である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味竈池、村松正雄 18170, 1998-9-13）、天白区（八事裏山、鳥居ちゑ子 646, 1994-6-18）、緑区（徳重、浜島繁隆 1080, 1968-8-30）に生育していた。

【県内の分布】

東三河、西三河、尾張に点在するが、尾張とそれに隣接する西三河の丘陵地に比較的自生地が多く、それ以外では極めて少ない。尾張では名古屋市のほか瀬戸市尾張旭、豊明東郷、大府東浦、東海知多、半田武豊、常滑、犬山、春日井で採集された標本があるが、いくつかの区画ではすでに絶滅していると思われる。

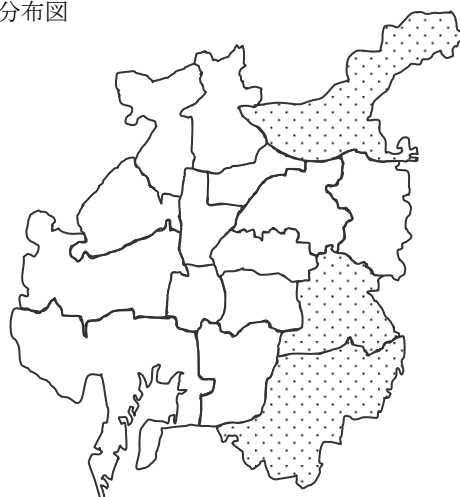
【国内の分布】

典型的なものは、本州（関東地方~東海地方）に分布する。コウホネやオグラコウホネとの中間のような型は、本州西部や四国にも分布している。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

丘陵地の浅い池沼に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

竈池は市内では最後まで残存していたが、水質の悪化に加えて東海豪雨で大きな被害を受け、絶滅した。天白区八事裏山では、小さい池に一面に生育していたが、急激に減少し絶滅した。森林化が進行し、水収支が崩れたこと、池が樹木に覆われて光条件が悪化したことが原因ではないかと思われるが、はっきりしない。県全体でも、ほとんどの自生地で開発が迫っていたり水質が悪化していたりして、存続が懸念される。栽培目的で盗掘されることも多い。

【保全上の留意点】

愛知県西部の丘陵地のため池では、一方で各種開発に伴う埋め立て、水の汚染、公園化・調整池化などの改修工事により、他方で利用停止に伴う管理放棄により、急速に生物多様性が失われている。現在良好な状態が保たれているため池は、文化遺産としての価値もあり、注意して保全する必要がある。

【特記事項】

典型的なものに限定すれば、全国的に見ても極めて危機的な植物である。

【関連文献】

保草Ⅱp.252, 平草Ⅱp.94, 環境庁 p.455, SOS 旧版 p.52+図版 21, SOS 新版 p.123, 愛知県 p.329.
角野康郎, 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.43. 文一総合出版, 東京.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 初期分岐群 スイレン科>

ヒツジグサ *Nymphaea tetragona* Georgi**【選定理由】**

山間部のため池に多い水草で、名古屋市では過去に採集された標本があるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生の水草。太く短い地下茎から多数の葉を束生する。葉は長い柄があり、葉身は水面に浮かんで卵円形～楕円形、長さ8～19cm、幅5～12cm、基部は矢尻形に深く切れ込み、裏面は赤紫色である。花期は6～9月。花柄は長く伸び、先端に1個の花をつける。花は水面に浮かび、直径3～7cm、がく片は緑色で4枚、花弁は白色で8～15枚、長楕円形、長さ2.5～4cm、鈍頭である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味蛭池、飯尾俊介 31B, 1964-8-17, 下流の笥池にもあったという）、天白区（八事裏山、中沢 武 s.n., 1972-9-19, NBC-1313）に生育していた。

【県内の分布】

低山地～丘陵地に点在しており、作手、新城、豊橋北部、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし（絶滅）、額田、刈谷知立（絶滅）、瀬戸尾張旭、長久手日進、常滑、美浜南知多、犬山、春日井などで確認されている。

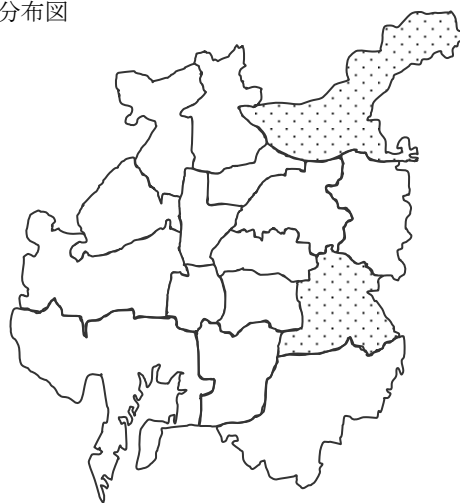
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

東アジアからインド、ヨーロッパにかけて分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

腐植栄養または貧～中栄養の湖沼やため池などに生育する浮葉植物。山間部の林に囲まれたため池に生育していることが多く、そのため減少傾向は愛知県全体ではそれほど著しくない。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

守山区では個体数は少なかったらしい。水の汚れにより絶滅したと思われる。天白区ではヒメコウホネと同じ池に生育していたらしいが、1990年代はじめにはヒメコウホネのみが群生し、ヒツジグサは見られなかった。

【保全上の留意点】

名古屋市内では本種の生育できそうなため池が残存しておらず、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

名古屋市内にヒツジグサが現存しているという情報もいくつか寄せられたが、確認できた範囲ではすべてスイレンであった。

【関連文献】

保草Ⅱp.251, 平草Ⅱp.95.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.109. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.50. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 初期分岐群 クスノギ科>

クロモジ *Lindera umbellata* Thunb.**【選定理由】**

愛知県東三河の山地では普通に見られる植物であるが、尾張では稀である。名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の低木。高さ数 m になる。若枝は黄緑色で無毛。葉は互生し、長さ 0.5~2cm の柄があり、葉身は倒卵状長楕円形、長さ 6~10cm、幅 2~3cm、先端は鈍端のことも鋭尖頭のこともある。葉裏にははじめ絹毛があるが成葉では無毛になり、やや白色を帯びる。花は 4 月に咲き、黄緑色で直径 6~7mm、十数個が散形につく。花柄は長さ 4~6mm で、白色の絹毛がある。果実は球形、直径 5~6mm、秋に黒色に熟す。

【分布の概要】**【市内の分布】**

天白区（土原、渡邊幸子 2647, 1996-5-27）で採集された標本がある。

【県内の分布】

東三河の山地には広く分布しており、豊橋北部などの低山地にも見られる。西三河では、東北部の山地には比較的多いが、それ以外の場所では少ない。尾張では、名古屋市以外は瀬戸尾張旭で確認されているだけである。

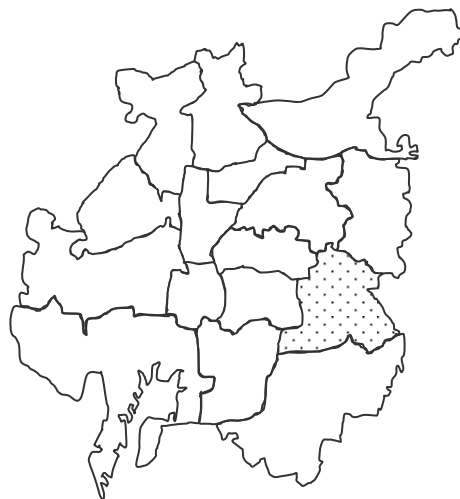
【国内の分布】

本州（関東地方以西）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

自然林、二次林、人工林の下層木として生育し、沢沿いから尾根まで見られる。山地には多いが丘陵地では稀である。ヒメクロモジと同じような場所に生育し、しばしば混生する。ただし尾張では、ヒメクロモジよりずっと稀である。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

竹林内に幼株があったというが、2009 年の調査では消失していた。都市化に伴う開発によって絶滅したが、名古屋市では定着していたと言い難く、偶然の変動の範囲内とも考えられる。

【保全上の留意点】

種子は鳥によって散布されるので、そのうちに他の場所で再出現する可能性がある。

【特記事項】

材に芳香があり、楊枝として使用される。ヒメクロモジからは、花序が大きく（従って秋期の花芽も丸くふくらむ）、小花柄の毛は白色、葉柄は概して長く、葉身先端部はしばしばあまり尖らず、葉裏は淡緑色で絹毛が少ないことで区別できる。偶産種的な植物で本来は評価の対象外であるが、木本であることを考慮し、絶滅種として掲載した。

【関連文献】

保木 II pp.191-192, 平木 I p.118.
 小山博滋. 1987. クロモジ群の分類と分布. 植物分類地理 38:161-175.
 芹沢俊介. 2009. クロモジとヒメクロモジ. くさなぎおごけ(3):8-10.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 トチカガミ科>

マルミスブタ *Blyxa aubertii* Rich.**【選定理由】**

全国的に減少傾向の著しい水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

沈水性の1年生草本。茎は短く、多数の葉を束生する。葉は線形、長さ8~20cm、幅4~6mm、先端はしだいに細くなり、辺縁に細かい鋸歯がある。花期は8~10月、花は葉の間に束生し、両性、苞鞘は円筒形で長さ3~5cmである。種子は楕円形で尾状突起がなく、長さ約1.5mm、表面には縦方向に稜があり、細かい突起が散在する。

【分布の概要】**【市内の分布】**

天白区（平針、井波一雄 s.n., 1967-9-16, CBM130670）に生育していた。

【県内の分布】

最近では豊田東部と春日井の各1地点で確認されているにすぎない。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陆、インド、オーストラリア。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

愛知県および岐阜県南部で確認した限りでは、生育地はいずれも水のきれいなため池である。名古屋市でもおそらくはそのような場所に生育していたと思われる。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明であるが、丘陵地の開発に伴うため池の埋め立て、あるいは水の汚染により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市では本種が生育できそうな水のきれいなため池がなくなっており、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

スブタからは種子に尾状突起がないことで区別されるが、この特徴を確認しない限り識別は困難である。

【関連文献】

保草Ⅲp.396, 平本Ⅰp.5, 環境庁p.560, 愛知県p.103.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.24. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.87. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 トチカガミ科>

スプタ *Blyxa echinosperma* (C.B.Clarke) Hook.f.

カテゴリー

【選定理由】

全国的に減少傾向の著しい水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

沈水性の1年生草本。茎は短く、多数の葉を束生する。葉は線形、長さ10～30cm、幅5～8mm、先はしだいに細くなり、辺縁に細かい鋸歯がある。花期は7～10月、花は葉の間に束生し、両性、円筒形で長さ4～5cmの苞鞘があり、花弁は3個で白色、狭線形、長さ約13mmである。種子は楕円形～紡錘形、長さ1.5～2mm、両端に長いものでは15mmに達する尾状突起があり、表面には細かい突起が散在する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（守山町小幡、井波一雄 s.n., 1932-10-1, CBM222823, 種子の突起はごく短い）、天白区（八事、井波一雄 s.n., 1949-9-11, CBM145658）、緑区（徳重、浜島繁隆 s.n., 1968-8-30）に生育していた。

【県内の分布】

豊川、豊橋南部、岡崎南部、刈谷知立、瀬戸尾張旭、長久手日進、春日井で確認されている。ただし刈谷知立は絶滅。このほか新城、蒲郡御津、豊橋北部、田原で採集された標本もある。かつては名古屋周辺の丘陵地のあちこちにあったという話も聞くが、資料はほとんど残されていない。

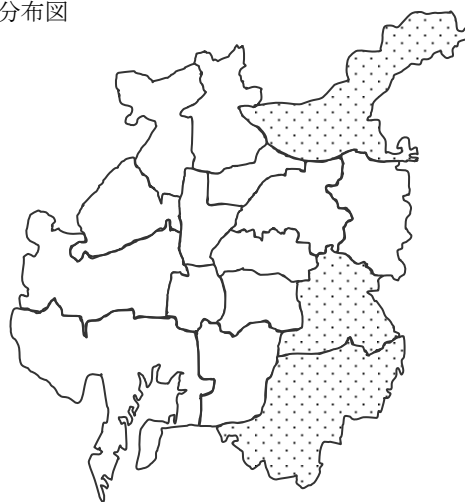
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸、インドシナ半島、インド、マレーシア、オーストラリア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

水のきれいなため池、谷戸田、その周辺の水路などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。開発により生育できる環境がなくなり、絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市内では本種が生育できそうな環境がほとんど残存しておらず、再発見は困難と思われる。

【関連文献】

保草Ⅲ pp.395-396, 平草Ⅰ pp.4-5, 環境庁 p.560, SOS 旧版 p.89, SOS 新版 p.126, 愛知県 p.431.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.24. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.86. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 トチカガミ科>

ヤナギスブタ *Blyxa japonica* (Miq.) Maxim.**【選定理由】**

水田や小水路に生育する水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

沈水生の1年生草本。茎は多少分岐し、長さ5~30cmになり、多くの葉をつける。葉は無柄で線形、長さ3~5cm、先はしだいに細くなり、辺縁には微細な鋸歯がある。花期は8~10月、花は葉の間に付き、両性、円筒形で長さ18~20mmの苞鞘があり、花弁は3個で白色、線形、長さ7~8mmである。種子は長楕円形、長さ約1.5mm、表面は平滑である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

天白区（八事、井波一雄 s.n., 1949-9-11, CBM149649）、緑区（徳重、浜島繁隆 s.n., 1968-8-30）に生育していた。

【県内の分布】

スブタ類の中では最も多い種類で、山間部から丘陵地にかけて点在している。尾張では瀬戸尾張旭、長久手日進、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で生育が確認されている。

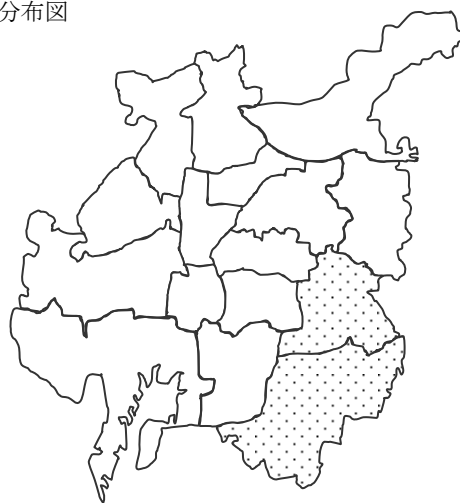
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

湧水のある谷戸田やその周辺の小水路などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。開発により生育できる環境がなくなり、絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

再発見は困難と思われるが、スブタに比べればまだ可能性は残されている。湧水のある場所を注意して探索する必要がある。

【関連文献】

保草Ⅲp.395, 平草Ⅰp.5.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.24. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.84. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 トチカガミ科>

トチカガミ *Hydrocharis dubia* (Blume) Backer

カテゴリー

【選定理由】

低地性の水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

水面に浮遊する多年生草本。茎は長く、水中を横にはい、節から根と数枚の葉を出す。葉は長さ4～20cmの柄があり、柄の基部に2個の托葉がある。葉身は円心形、直径4～7cm、全縁で、裏面の中央に気胞があり、水面に浮かぶ。花期は8～10月、花は柄が伸びて水面で開花し、雌雄異花、雄性の苞鞘内には約5個のつぼみができ、雌性の苞鞘内には雌花が1個だけ発達する。雄花、雌花ともに花弁は3個で白色、長さ10～13mmである。冬には水中茎の先端が長さ2～4cmの殖芽となり、水中に沈んで越冬する。

【分布の概要】

【市内の分布】

中川区（富田町戸田、高木順夫 446, 1992-9-6; 同長須賀、高木順夫 236, 1992-7-11）、港区（西福田戸田川、浜島繁隆 s.n., 1981-7-31）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋南部、西尾南部、東海知多、一宮西部、稲沢、津島愛西、海部南部の7区画で確認されているが、かなりの区画ですでに絶滅していると思われる。豊橋北部と常滑で採集された標本もある。濃尾平野では、以前はあちこちにあった水草らしい。

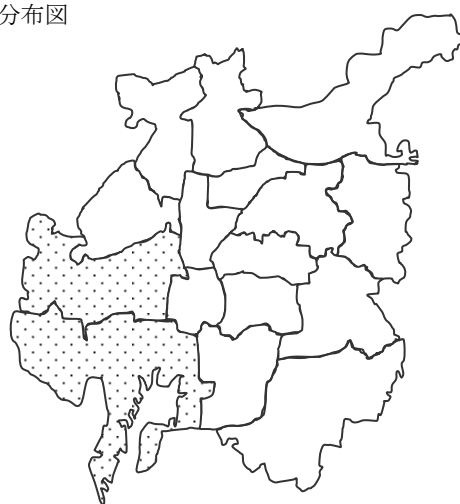
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本から南アジア、オーストラリアにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部の湖沼、ため池、水路などに生育する。一般に富栄養の、しかし過栄養でない水域に生育している。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

富田町の水田や水路にかなり生育していた。地形的には大きな変化はないので、除草剤の使用や生活排水が流入して水が汚染されたことにより絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

愛知県の水草は全般的に危急状態であるが、本種のような平野部に生育する水草は特に危機的である。平野部に「めだかの学校」が見られるような澄んだ水辺を取り戻すことは、絶滅危惧種があるなしにかかわらず、重要な課題である。

【特記事項】

「トチ」は、スッポンのことである。

【関連文献】

保草Ⅲp.396, 平草Ⅰp.4, SOS旧版p.90+図版22, 愛知県p.254.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.28. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.92. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 トチカガミ科>

ホッスモ *Najas graminea* Delile**【選定理由】**

名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。愛知県全体ではまだ比較的多く生育している。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

沈水性の1年生草本。茎は細くよく分岐し、下部の節から根を出す。葉は3輪生状、基部は短く葉鞘となり、葉鞘の上端は耳状に突出する。葉身は針形、長さ1.5～2.5cm、辺縁の鋸歯は低く小さい。花期は7～9月、雄花にも雌花にも苞鞘がなく裸出する。果実は通常1節に1個つく。種子は長楕円形、長さ約2mm、表面に不明瞭な細かい四角形の網目がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

緑区(徳重、浜島繁隆 s.n., 1968-8-30)に生育していた。

【県内の分布】

トリゲモ類の中では最も多い種類で、低山地～丘陵地に点在しており、尾張では瀬戸尾張旭、日進長久手、半田武豊、常滑、知多南部、犬山、小牧、春日井の8区画で確認されている。

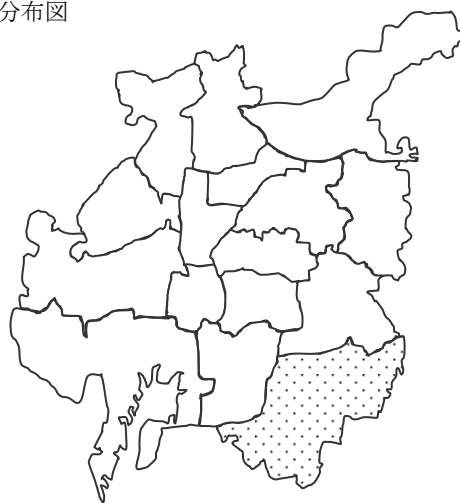
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

アジア、ヨーロッパ、北アフリカ、オーストラリアに分布し、北アメリカに帰化している。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

谷戸田やその周辺の小水路、水のきれいなため池などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。開発により生育できる環境がなくなり、絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

ていねいに探索すれば、再発見の可能性は残されている。

【特記事項】

トリゲモ類の中では最も葉縁の鋸歯が小さく、手ざわりもやわらかい。葉鞘の上端が耳状に突出するのも他の種にない特徴で、これらの点に注意すれば種子がなくても同定できる。

【関連文献】

保草Ⅲp.18, 平草Ⅰp.408.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.53. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.98. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 トチカガミ科>

コウガイモ *Vallisneria denseserrulata* (Makino) Makino

カテゴリー

【選定理由】

低地性の水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

沈水性の多年生草本。茎は短く、葉を束生し、やや太くて多数の小さいとげがある走出枝を出し、栄養的に繁殖する。葉は線形、長さ 80cm に達し、先端は鈍頭～鋭頭、辺縁は全体にわたり明瞭なとげ状の鋸歯がある。花期は 8～10 月、雌雄異株、雄性の苞鞘は長さ約 1cm、中に小さい花が多数でき、花柄が切れて水面に浮き上がる。雌性の苞鞘は円筒形、柄は水深に応じて長く伸び、水面に達して 1 個の花をつける。苞鞘の柄は花後らせん状に巻く。秋に、走出枝の先端に長さ 1～3cm の殖芽をつける。

【分布の概要】

【市内の分布】

港区（西福田戸田川、浜島繁隆 s.n., 1981-7-31）に生育していた。上流からの流下個体は、港区藤前（渡邊幸子 4470, 2000-9-9）でも採集されたことがある。

【県内の分布】

県内で現存が確認できるのは、現在のところ蟹江川（区画としては一宮東部、稲沢、あま大治、津島愛西、海部南部）だけである。濃尾平野の岐阜県側には多いところがある。

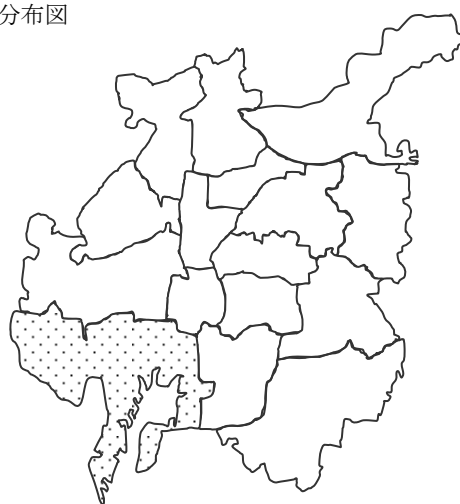
【国内の分布】

本州および九州に生育するが、関東地方と近畿地方以外では少ない。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部の池沼や小河川に生育する。セキシウモより大きい河川に生育していることが多い。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明。水質の汚濁により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

愛知県の水草は全般的に危急状態であるが、本種のような平野部に生育する水草は、特に危機的である。平野部に「めだかの学校」が見られるような澄んだ水辺を取り戻すことは、絶滅危惧種があるなしにかかわらず、重要な課題である。

【特記事項】

和名は、殖芽の形状が昔頭髮具として使われたこうがい に似ているからである。堀川では、最近本種によく似た移入種のコウガイセキシウモが増加している。

【関連文献】

保草Ⅲp.393, 平草Ⅰp.6, SOS 旧版 p.90, SOS 新版 p.142, 愛知県 p.432.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.56. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.104. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

サワラン *Eleorchis japonica* (A.Gray) F.Maek.

カテゴリー

【選定理由】

貧栄養の湿地に生育する植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。卵状の偽球茎がある。茎は細く、直立して高さ 15～30cm、基部近くに 2 個の鞘状葉がある。葉は 1 個につき、広葉樹でほぼ直立し、長さ 6～15cm、幅 4～8mm、縦の脈が目立ち、先端は鋭頭、基部は鞘となって茎をつつむ。花期は 7 月、花は茎の先端に通常 1 個つき、紅紫色で横向きに半開し、苞は三角形、長さ 2～3mm である。がく片と側花弁は倒披針形で、長さ 2～2.5cm、先端は鈍～鋭頭、唇弁は倒卵状楕円形、他の花被片とほぼ同長、先端で浅く 3 裂し、中裂片には縦の隆起線がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（東山、井波一雄 s.n., 1958-6-13, CBM195368）に生育していた。

【県内の分布】

東三河と西三河の 4 ヶ所で確認されている。

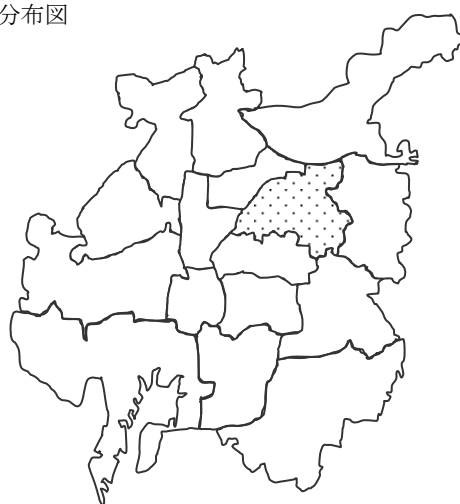
【国内の分布】

北海道、本州中部以北。

【世界の分布】

南千島、日本。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい貧栄養の湿地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

標本はよく発育した立派な個体である。愛知県では園芸目的の採取により激減しており、名古屋市でもおそらくは園芸目的の採取により絶滅したと思われる。

【保全上の留意点】

注目度の高い植物だけに、名古屋市内に未知の自生地が残存していることはほとんど期待できない。自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題である。

【特記事項】

アサヒランとも呼ばれる。

【関連文献】

保草Ⅲp.393, 平草Ⅰp.6, SOS 旧版 p.90, SOS 新版 p.142, 愛知県 p.432.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

ツチアケビ *Galeola septentrionalis* Rchb.f.

カテゴリー

【選定理由】

林内に生育する腐生植物で、名古屋市では過去に生育していたという記録があるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

腐生の多年生草本。地下茎は太く、横にはい、大型の鱗片葉をつける。地上茎は直立し、高さ40～80cm、褐色で多くの枝を出し、各枝は更に分枝して多数の花をつける。茎の上部や枝には、褐色の短毛が密生する。花期は6～7月、花は淡褐色で半開し、苞は披針形、長さ4～6mmである。がく片と側花弁はほぼ同形、長楕円形で長さ15～20mm、唇弁は広卵形で側花弁より短く、肉質、辺縁は細かく裂ける。果実はソーセージ状で長さ6～10cm、秋に赤く熟し、著しく目立つ。

【分布の概要】

【市内の分布】

「(守山区)上志段味の麓のコナラ林の腐植土上に確認」と報告されている(中部植生研究グループ1992)。果実の写真も掲載されているが、撮影データは示されていない。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には点在する。尾張では少なく、名古屋市のほかは瀬戸尾張旭で確認されているだけである。

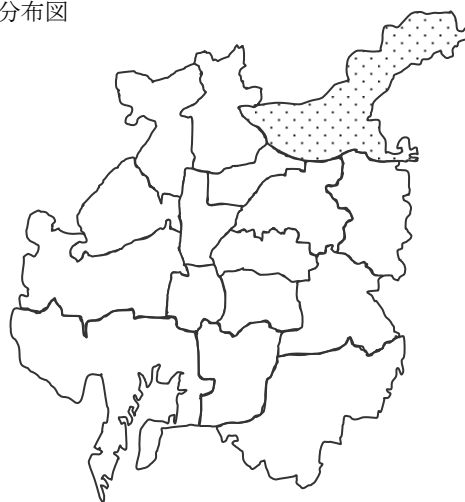
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。落葉樹林内に多いが、造林地やネザサ群落の中に生育することもある。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。個体数は少なかったものと思われる。

【保全上の留意点】

本種のような生育密度の低い種を保全するためには、森林環境を全体として保全する必要がある。

【特記事項】

現存が確認できないため「絶滅」と判定したが、里山の森林化が進行しているので、どこかで再発見される可能性はある。更に注意して探索する必要がある。

【引用文献】

中部植生研究グループ、1992. 名古屋市の植生自然度及び自然保護に関する調査報告 p.125. 名古屋市環境保全局。

【関連文献】

保草Ⅲp.24, 平草Ⅰp.206.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

ミズトンボ *Habenaria sagittifera* Rchb.f.

カテゴリー

【選定理由】

全国的に減少傾向の著しい湿地性植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

多年生草本。楕円形で長さ1~2cmの球茎がある。茎は3稜があり、直立して高さ40~70cm、時には150cm近くになる。葉は茎の下半分につき、鞘状のものを除いて数個が互生し、葉身は線形、長さ5~20cm、幅3~6mm、先端は長くとがり、基部は茎を抱いて葉鞘となる。上部の葉は小さく、鱗片状になる。花期は7~9月、花は茎の上部にやや多数が穂状につき、直径8~10mmで淡緑色、苞は線状披針形、長さ8~15mmである。背がく片は円心形、長さ約4mm、側がく片は長さ約5mm、幅約6mm、側花弁は斜卵形で、背がく片と並んで立つ。唇弁は長さ1.5~2cm、3裂して十字形となり、側裂片は上を向く。距は下垂し、長さ約15mm、先端は球状にふくらむ。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味蛭池、飯尾俊介 36, 1964-8-22）と天白区？（平針~白土~天白、稲垣貫一 s.n., 1947-8, CBM101191）に生育していた。

【県内の分布】

東三河の2ヶ所、西三河の数ヶ所、尾張の1ヶ所で生育が確認されている。

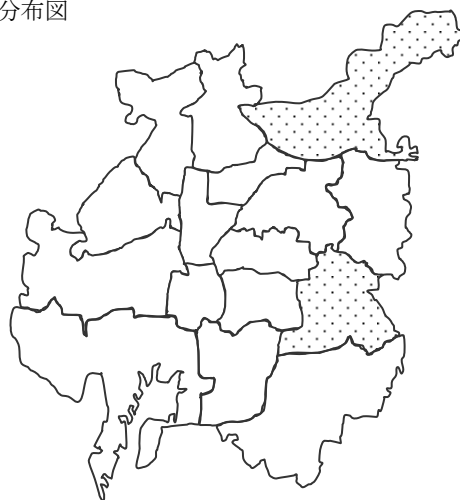
【国内の分布】

北海道南部、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地~山地の湿地に生育する。谷戸の休耕田に生育することもある。日あたりのよい場所に多いが、林縁部にも生育している。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

蛭池では池岸の湿地に数10株生育していたが、次第に減少し、最終的には大村池の水の落ち口の改修により絶滅したという。

【保全上の留意点】

再発見は困難と思われる。

【特記事項】

和名は、湿地に生育し、唇弁の形状がトンボに似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅲp.8, 平草Ⅰp.193, 環境庁 p.615, SOS 新版 p.111, 愛知県 p.493.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

トキソウ *Pogonia japonica* Rehb.f.

カテゴリー

【選定理由】

貧栄養の湿地に生育する植物で、園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。名古屋市でも過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

多年生草本。地下茎は細くてやや硬く、長く横にはう。地上茎は直立し、高さ10～30cmになる。葉は茎の中部に1個つき、無柄、葉身は披針形～線状長楕円形で、長さ4～10cm、幅7～12mm、先端は通常鋭頭、基部は次第に細まって茎に翼状に流れ、鞘をつくらぬ。花期は5～7月、花は茎の先端に1個つき、横向きに開いて淡紅色、苞は葉状で披針形、長さ2～4cmである。背がく片は長楕円状倒披針形、長さ1.5～2.5cm、幅3～5mm、先端は鈍頭、側がく片はやや幅が狭く、側花弁は長楕円形、がく片よりやや短い。唇弁はがく片と同長、3裂し、側裂片は三角形で翼状、中裂片は大きく、内面や辺縁に肉質の毛状突起が密生する。距はない。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（前池、飯尾俊介 35, 1964-6-31）、千種区（東山、犬飼 清 s.n., 1959-6-10）、緑区（滝ノ水湿地、浜島繁隆 s.n., 1971-6-20）に生育していた。名古屋産という個体の写真は、奥山（1960）に掲載されている。

【県内の分布】

名古屋市以外では15区画で記録されているが、かなりの区画ですでに絶滅していると思われる。

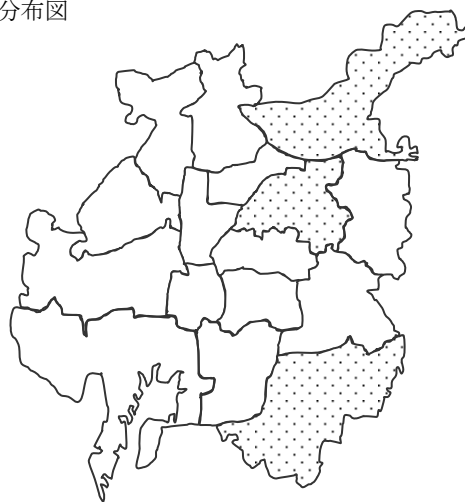
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育するが、北日本に多い。

【世界の分布】

千島列島、日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい貧栄養の湿地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

滝ノ水湿地ではかなり個体数が多かったらしいが、花が美しいため集中的に乱獲され、宅地造成のため湿地が破壊される前に絶滅したと言われる。どの湿地でも、人が入れば最初に消失するのは本種である。長く横走る根茎の途中から新株を出すため、繁殖力がそれほど弱いとは思えないが、採取圧はそれをはるかに上回っている。

【保全上の留意点】

注目度の高い植物だけに、名古屋市内に未知の自生地が残存していることはほとんど期待できない。本種に限らず多くのラン科植物は、園芸目的の採取により絶滅が危惧される状態に追い込まれている。販売目的の採取は言うまでもないが、個人が楽しむための採取も影響は甚大である。基本的には、国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルを問題にする必要がある。

【特記事項】

和名は、花色が代表的な絶滅危惧生物であるトキの羽色に似ているからである。植物の名のもとになったことからわかるように、トキもかつては普通に見られる野鳥であった。

【引用文献】

奥山春季. 1960. 原色日本野外植物図譜 2:pl.161. 誠文堂新光社, 東京.

【関連文献】

保草Ⅲp.25, 平草Ⅰp.205, 環境庁 p.621, SOS 旧版 p.114, 愛知県 p.297.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

ヤマトキシソウ *Pogonia minor* (Makino) Makino

カテゴリー

【選定理由】

湿った草地に生育する小型のラン科植物で、名古屋市では過去の記録はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下茎は細くてやや硬く、横にはう。茎は直立し、高さ10～20cmになる。葉は茎の中部に1個つき、無柄、葉身は長楕円形、長さ3～7cm、幅4～12mm、先端は鈍～鋭頭、基部は次第に細まって茎に翼状に流れ、鞘を作らない。花期は6～8月、花は茎の先端に1個つき、淡紅色～ほとんど白色、上向きでほとんど開かず、苞は葉状で披針形、長さ2～4cmである。がく片は線状倒披針形、長さ1～1.5cm、側花弁はほぼ同長であるが、やや幅が広い。唇弁は長楕円形、がく片や側花弁よりやや短くて花外に出ず、3裂するが側裂片は小型、中裂片は表面に肉質の毛状突起が密生する。距はない。

【分布の概要】

【市内の分布】

名古屋市内で撮影されたという写真が、安原（1990）に掲載されている。撮影地ははっきりしないが、守山区ではないと思われる。

【県内の分布】

東三河の4区画、西三河の3区画、尾張の4区画で生育が確認されている。名古屋市に隣接する長久手市や尾張旭市には現在も生育している。

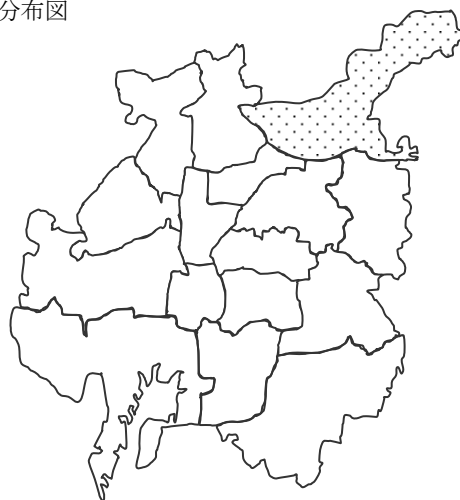
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい草地や湿地に生育する。愛知県では丘陵地の湧水湿地周辺、山間部の水田周辺の草地などに生育している。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。愛知県全体では、点在するがどの場所でも個体数は少なく、丘陵地の開発、草地の利用停止に伴う大型草本の繁茂などにより、減少傾向にある。ササ類などの繁茂で絶滅した、あるいは絶滅寸前の場所もある。トキシソウほどではないが、園芸目的で採取されることもある。

【保全上の留意点】

再発見の可能性は皆無ではない。更に注意して探索する必要がある。

【引用文献】

安原修次. 1990. なごや野の花 p.65. エフエー出版, 名古屋.

【関連文献】

保草Ⅲp.26, 平草Ⅰp.205, 愛知県 p.501.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

クモラン *Taeniophyllum glandulosum* Blume**【選定理由】**

樹枝に着生する小型の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

無葉の多年生草本。根は束生して基物上に放射状に広がり、長さ 2～5cm、偏平で葉緑素を含み、灰緑色となる。茎は極めて短い。花期は 6～7 月、細い花柄の先に、1～4 個の花を房状につける。苞は三角形で長さ約 1mm、花は淡緑色、花被片は基部で合着して筒型となり、長さ約 2mm である。果実は楕円形で長さ 5～6mm になる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（竜泉寺、井波一雄 s.n., 1935-1-3, CBM134214）で採集された標本がある。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地に点在する。尾張では少なく、瀬戸尾張旭で確認されているだけである。

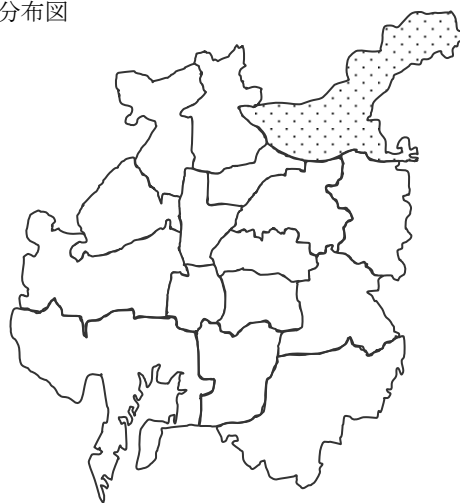
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸、ヒマラヤ、マレーシア。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

主として山間部の集落、果樹園などの、樹幹や枝に着生する。特にウメの木に着生することが多い。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

標本はこの種として平均的な大きさの 4 個体が、1 枚の台紙に貼られている。空中湿度の低下などにより絶滅したのではないかと思われるが、はっきりしない。

【保全上の留意点】

尾張における現在の分布状況から見て、再発見は困難と思われる。

【関連文献】

保草Ⅲp.63, 平草Ⅰp.232.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 キジカクシ科>

オオバギボウシ *Hosta montana* F.Maek.**【選定理由】**

山地性の植物で、名古屋市では生育していたという記録はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下茎は短くはう。葉は束生し、長さ 20～50cm の柄があり、葉身は卵形～卵状楕円形、長さ 15～30cm、先端は鋭尖頭、基部は円形～心形、葉脈は裏面に隆起し、脈上に多少の小突起がある。花期は 6～8 月、花茎は高さ 50～100cm になり、上部に多数の花をつける。苞は扁平で長さ 2.5～4cm、鋭頭、つぼみの時から開出し、星形になる。花は淡紫色またはほとんど白色、長さ 4～5cm、広筒部は急に、または次第に太くなる。果実はよく形成される。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区の愛知用水沿いで撮影された写真が、安原（1990）に掲載されている。標本資料は残されていない。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地に点在しているが、尾張では確実な標本資料はない。

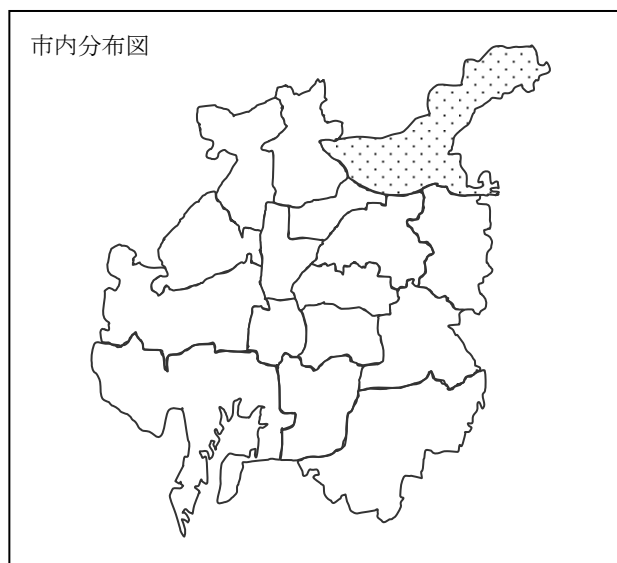
【国内の分布】

北海道西南部、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地の草地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。愛知用水の改修により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

再発見は困難と思われる。

【特記事項】

キヨスミギボウシに似るが、つぼみの時から苞が開出し、星形になることで区別される。しかし両者の関係については、更に検討が必要である。名古屋市ではキヨスミギボウシもかなり希少である。

【引用文献】

安原修次. 1990. なごや野の花 p.90. エフエー出版, 名古屋.

【関連文献】

保草Ⅲp.138, 平草Ⅰp.32.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 キジカクシ科>

ナルコユリ *Polygonatum falcatum* A.Gray

カテゴリー

【選定理由】

山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

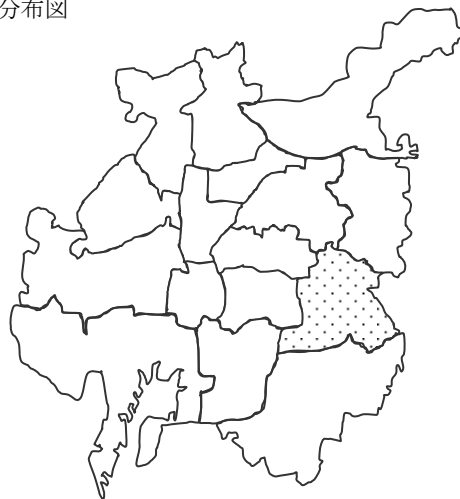
多年生草本。根茎は太く横にはう。茎は円柱形で稜はなく、無毛、上部は弓状に曲がり、高さ 50～100cm になる。葉は互生し、葉柄はごく短いまたは無く、葉身は披針形、長さ 8～15cm、先は尾状に伸び鈍端、基部はややくさび形で、裏面脈上に小突起がある。花期は 5～6 月、花は葉腋に 3～5 個ずつつき、下垂する。花筒は緑白色で長さ 17～23mm、先端は色が濃くなる。液果は直径 8～10mm で、黒紫色に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（天白町野並，渡邊幸子 2137, 1995-5-18）に生育していた。

市内分布図



【県内の分布】

東三河と西三河の山地には比較的多い。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、知多南部、犬山で確認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

相生山緑地の二次林内の道沿いに、少数株が生育していた。人の入り込みが多くなり、道幅が広がり、踏みつけによって消滅した。

【保全上の留意点】

自然とのふれあい活動は、それ自体が自然への負荷となる。緑地公園を利用する際には、このことを十分意識し、できるだけ負荷を減らすよう配慮する必要がある。

【特記事項】

花の大きいオオナルコユリ *P. macranthum* (Maxim.) Koidz. は、三河山地には点在するが、尾張では確認されていない。

【関連文献】

保草Ⅲpp.111-112, 平草Ⅰp.46.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ミズアオイ科>

ミズアオイ *Monochoria korsakowii* Regel et Maack

カテゴリー

【選定理由】

全国的に減少傾向の著しい低湿地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

1 年生草本。茎は多孔質でやわらかく、高さ 20～40cm になる。葉は根生または茎上に互生し、根出葉の柄は長く 10～30cm、茎葉の柄は短く 5～10cm、葉身は心形、長さ 5～10cm、幅 4～8.5cm、先端は鋭尖頭、基部は心形、辺縁は全縁、質は厚く、表面は深い緑色で光沢がある。花期は 9～10 月、茎の先に総状花序を作り、花は直径 1.5～3cm、花被片は 6 個で青紫色、基部まで離生し、楕円形、長さ 15mm 程度である。果実はさく果で卵状長楕円形、長さ約 10mm、先端につの状の花柱が残り、熟すと下向きになる。

【分布の概要】

【市内の分布】

北区（楠町、井波一雄 s.n., 1967-10-15, CBM165374）で採集された標本がある。「守山区の水田水口の泥浅水地に残る」という報告（中部植生研究グループ 1992）もある。

【県内の分布】

最近では海部西部と海部南部の木曽川河川敷攪乱地で一時的に生育したものが確認されているが、安定した生育地は知られていない。

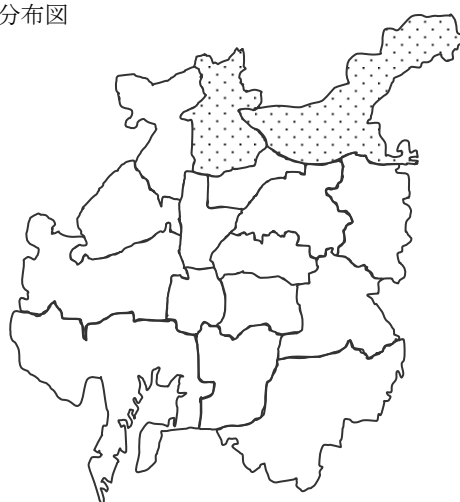
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部の水路や、低湿地のやや攪乱された場所などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明であるが、水田の宅地化や水の汚染によって絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

埋土種子集団を作る植物であるが、名古屋市では本種が生育できそうな水田そのものがなくなっており、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

和名は水湿地に生育し、葉がフタバアオイに似ているからである。

【引用文献】

中部植生研究グループ. 1992. 名古屋市の植生自然度及び自然保護に関する調査報告 p.128. 名古屋市環境保全局.

【関連文献】

保草Ⅲp.171, 平草Ⅰp.59, 環境省 p.572, SOS 旧版 p.96, 愛知県 p.238.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.147. 文一総合出版, 東京.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ホシクサ科>

オオホシクサ *Eriocaulon buergerianum* Körn.

カテゴリー

【選定理由】

西日本系の湿地性植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。名古屋市では過去に生育していたという記録があるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	リスト外

【形態】

1年生草本。茎はごく短い。葉は束生して斜上し、披針状線形、長さ8～20cm、基部で幅5～8mm、全縁、先端は次第に細くなり、やや鈍端となる。花期は8～10月、花茎は多数つき、高さ15～30cm、5～6本の肋があって少しねじれ、先端に半球形の頭花をつける。頭花は直径約6mm、多数の花からなり、総苞片は頭花より短く、広倒卵形、鈍頭、小花にははじめ白色の短毛があるが、後に少なくなる。子房と蒴果は3室である。

【分布の概要】

【市内の分布】

井波(1988)によれば、千種区池下にあったが絶滅したという。標本資料は未確認である。

【県内の分布】

現存する生育地は、春日井の1ヶ所だけである。ただしこの場所でも、2012年にはよく水が引いたにもかかわらず確認できなかった。

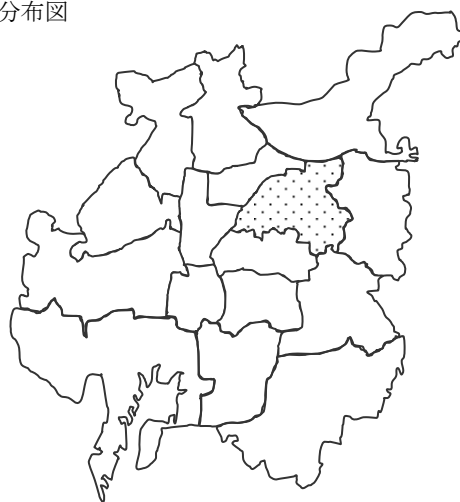
【国内の分布】

本州（愛知県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陆。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

干上がったため池の岸などの湿地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。都市化の進行により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

再発見は困難と思われる。

【特記事項】

シラタマホシクサに比べ、丈が低く、葉が幅広く、頭花は白色の短毛が少なく、淡黄褐色に見える。

【引用文献】

井波一雄. 1988. 三河や知多（ともに愛知県）にはヌマカゼクサは生育分布しない. 植物研究集録(24):7-13.

【関連文献】

保草Ⅲp.183, 平草Ⅰp.81, SOS旧版p.98, SOS新版p.119, 愛知県p.272.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ホシクサ科>

クロホシクサ *Eriocaulon parvum* Körn.

カテゴリー

【選定理由】

名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

1年生草本。茎はごく短い。葉は束生して通常ロゼット状に広がり、線形、長さ2~4cm、幅0.5~1.8mm、全縁、先端は細くとがる。花期は9~10月、花茎は多数つき、高さ8~15cm、5~6本の肋があって少しねじれ、先端に球形の頭花をつける。頭花は直径4~5mm、藍黒色、多数の花からなり、総苞片は頭花より短く、倒卵形、小花には白色の短毛がある。子房と蒴果は3室である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味大久手池、鳥居ちゑ子 1497, 1998-10-10）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊田東部と春日井で確認されている。ただし豊田東部では、貧弱な1個体が確認されただけである。豊川宝飯、豊橋北部で採集された標本もある。

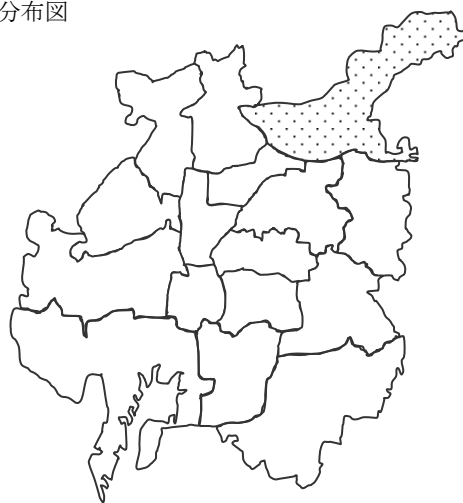
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

ため池の周辺や水田などの湿地に生育する。名古屋市の生育地は、干上がったため池の岸であった。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

比較的大きい群落があったが、ため池が改修されて水が引かなくなり、消失した。ただし池底に埋土種子が残存している可能性は残されている。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物や低湿地性生物の重要な生活場所になっている。水辺環境の保全が必要である。

【特記事項】

ホシクサ *E. cinereum* R.Br. と混生していることが多く、全体の形状はそれによく似ているが、頭花が黒く、小花に白色の短毛がある。名古屋市産の植物の彩色画は、2004年版図版10に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅲp.179, 平草Ⅰp.78, 環境庁p.375, SOS新版p.119, 愛知県p.420.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イグサ科>

ヌカボシソウ *Luzula plumosa* E.Mey. var. *macrocarpa* (Buchenau) Ohwi**【選定理由】**

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本があるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

株になる多年生草本。葉は束生し、線形で長さ5~15cm、幅3~5mm、辺縁に白色の長毛がある。花茎も束生し、高さ15~30cm、2~3個の茎葉がつく。花期は4~5月、茎頂の花の基部からほとんど散形状に3~5本の長さ1~3cmの細い側枝を分け、その先にも花を1個ずつつける。側枝先端の花の基部から、更に枝を出すこともある。花被片は6個で披針形、長さ約3mm、先端は鋭く尖り、中央部は褐色、辺縁は淡緑色で膜質となる。果実は卵形、長さ3~4mmである。

【分布の概要】**【市内の分布】**

千種区（覚王山、沢井輝男 s.n., 1934-5-13）に生育していた。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には普通にみられる。尾張では瀬戸尾張旭、犬山、春日井で確認されている。

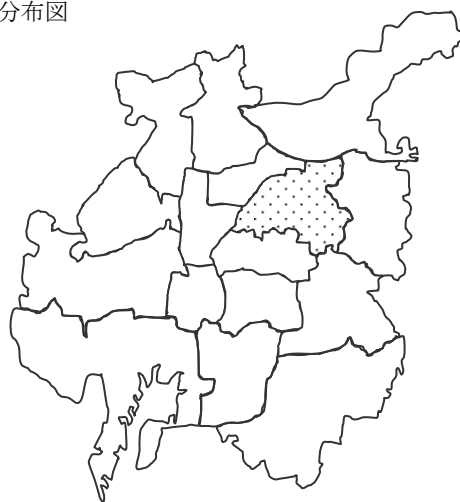
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、アムールからインドにかけて分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

明るい林内や林縁、草地などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明だが、丘陵地の開発により消失したことは明らかである。

【保全上の留意点】

目立たない植物なので、ていねいに探索すれば再発見の可能性は残されている。

【特記事項】

「こんな普通種が？」と思われる絶滅種の1例である。和名は、花がまばらに咲く状態を糠星にたとえたものである。

【関連文献】

保草Ⅲp.168, 平草Ⅰp.71.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

イトハナビテンツキ *Bulbostylis densa* (Wall.) Hand.-Mazz.**【選定理由】**

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

小さい株を作る1年生草本。茎は糸状で、多数束生し、高さ10~30cmになる。葉も茎の基部に束生し、糸状で茎よりも細い。花・果季は8~10月、小型の株では茎の先端に1個の小穂をつけるだけのことがあるが、通所は散房状に2~10個の小穂をつけ、頂小穂は無柄、側小穂には長さ2~5cmの柄がある。側小穂の基部から更に枝を出すこともある。苞葉は通常短く目立たないが、時に長さ4cmくらいになる。小穂は茶褐色、広披針形で長さ2~4mm、鱗片の先端は芒状にならない。

【分布の概要】**【市内の分布】**

千種区? (八事~東山の曙峠付近, 稲垣貫一 s.n., 1947-4, CBM110733) で採集された標本がある。

【県内の分布】

三河山地には点在する。尾張では少なく、瀬戸尾張旭、半田武豊、海部西部の3区画で確認されているにすぎない。

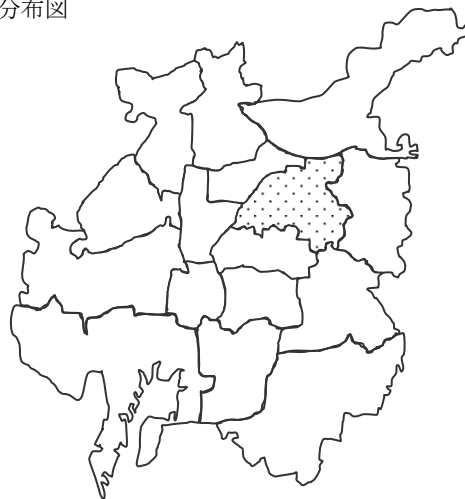
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸、インド。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

日当たりのよい、やや乾燥した裸地状の場所に生育する。愛知県では山道のわきなどに見られることが多い。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明だが、丘陵地の開発により消失したものと思われる。

【保全上の留意点】

注意して探索すれば、再発見の可能性は残されている。

【特記事項】

和名は線香花火状の花序に因む。

【関連文献】

保草Ⅲpp.237-238, 平草Ⅰp.173.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

ミクリガヤ *Rhynchospora malasica* C.B.Clarke**【選定理由】**

全国的に減少傾向の著しい湿地性植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	絶滅危惧ⅠB類

【形態】

多年生草本、地下茎は長くはう。茎は通常丹精して直立し、高さ 40～100cm、中部に多数の葉をつけ、花序のつかない茎もやや伸長する。葉は互生し、幅広い線形、幅 5～10mm、先は長くとがり、下部は長い鞘となる。花期は 6～7 月、頭状花序は球状で直径 1.5cm、無柄、茎の上部に 2～5 個がやや離れてつく。小穂は披針形、長さ 6～7mm、黄褐色である。果実は長さ約 2mm、披針状花被片は 6 個で、長さは果実体の 2 倍程度である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

千種区（田代、井波一雄 s.n., 1934-10-14, CBM72362）に生育していた。

【県内の分布】

現存が確認できるのは、豊橋北部の 1 ヶ所のみである。豊橋北部の他の場所で採集された標本も残されている。

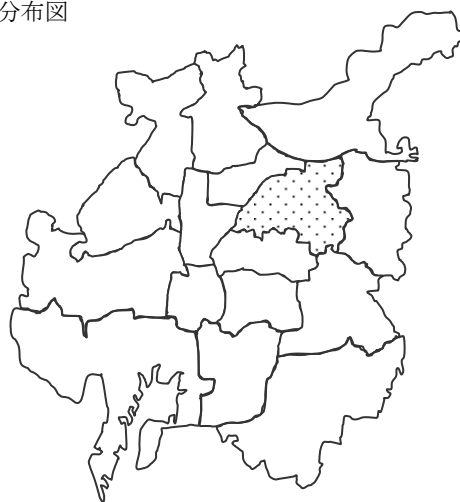
【国内の分布】

本州（東海地方以西）、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、マレーシア。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明だが、丘陵地の開発により消失したものと思われる。

【保全上の留意点】

丘陵地の破壊が進行しており、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

「日本の野生植物Ⅰ」152 図版には、豊橋市葦毛湿原で 1972 年に撮影された写真が掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅲp.252, 平草Ⅰp.170, 環境庁 p.392, SOS 新版 p.107, 愛知県 p.108.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

シズイ *Schoenoplectus nipponicus* (Makino) Soják

カテゴリー

【選定理由】

名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。水のきれいなため池に生育する植物で、愛知県全体でも減少傾向が著しい。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。根茎は細く、先端に小さい塊茎をつける。地上茎は単生または少数が束生し、高さ40～60cm、幅2～4mm、3稜形、下部に3～5個の葉をつける。葉は線形、茎よりやや短く、幅2～3mm、平滑で、断面は三角形となる。花期は7～10月、花序は散房状で、枝は2～3本、分枝しないか1～2回分枝し、長いものは4cmに達し、まばらに5～8個の小穂をつける。花序の基部につく苞は1個で、茎に続いて直立し、長さ10～20cm、そのため花序は側生状に見える。小穂は長楕円形、長さ1～1.7cm、幅5～7mm、先端は鋭頭、黄褐色、鱗片は狭卵形で、長さ4～5mmである。果実は倒卵形、レンズ状で長さ約2mm、暗褐色で光沢はなく、刺針状花被片は果実のほぼ2倍の長さである。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味算池、飯尾俊介 85, 1964-8-31）、千種区（茶屋ヶ坂、井波一雄 s.n., 1934-7-7, CBM71443）、緑区（桶狭間、稲垣貫一 s.n., 1947-6, CBM109995）に生育していた。

【県内の分布】

津具、作手、みよし、瀬戸尾張旭、長久手日進の5区画で確認されている。ただしみよしは絶滅。このほか、新城、刈谷知立で採集された標本もある。

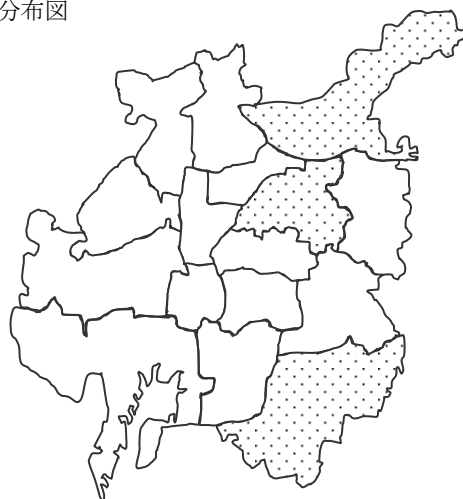
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の池沼の、浅い水中に生育する。愛知県では丘陵地の奥や山間部にある小規模なため池に生育していることが多い。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。水質の汚濁により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

愛知県では浅い丘陵地から山地まで見られるが、生育地は少なく、またどの場所でも個体数が少ない。名古屋市市内での再発見は困難と思われる。

【特記事項】

テガヌマイとも呼ばれる。この名は、千葉県の手賀沼に因むものである。

【関連文献】

保草Ⅲp.217, 平草Ⅰp.179, SOS旧版p.108, 愛知県p.482.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.201. 文一総合出版, 東京.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

ノグサ *Schoenus apogon* Roem. et Schult.

カテゴリー

【選定理由】

湧水湿地周辺部に生育する植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	リスト外

【形態】

1 年生草本。根茎はない。茎は束生して直立し、平滑で無毛、高さ 10～25cm になる。葉は根生するほか茎の中部にも 1～2 個つき、細い線形、幅約 0.5mm、葉鞘は長さ 1～2mm で一部赤紫色になる。花期は 6～8 月、花序は 2～3 個に分かれ、散状または頭状で、長さ幅ともに 0.8～1.5cm、数個の小穂をつける。小穂は披針形、長さ 4～6mm、偏平で一部赤褐色を帯びる。果実は球形、長さ約 1mm、白色、刺針状花被片は 6 個で、長さ約 2mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（東山、井波一雄 s.n., 1940-4-30, CBM70351）、緑区（鳴海町、井波一雄 s.n., 1941-5-18, CBM70352）に生育していた。

【県内の分布】

豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、西尾南部、半田武豊で確認されているが、武豊の壺町田湿地以外はどこも危機的で、すでに絶滅した区画もあると思われる。

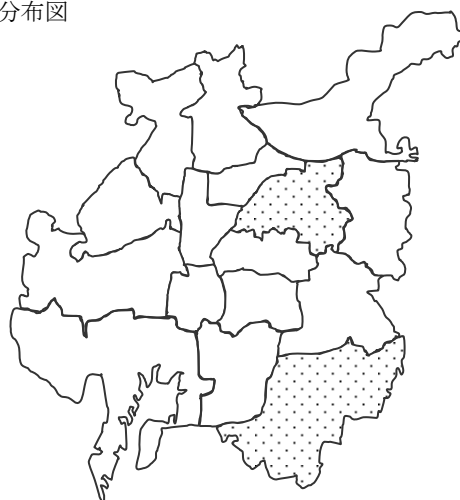
【国内の分布】

本州（千葉県以西）、四国、九州、琉球。ただし静岡県以東のものと愛知県以西のものは、外部形態も染色体数も異なると報告されている（矢野・池田 2012）。

【世界の分布】

日本、マレーシア、オーストラリア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の、日当たりのよい、やや湿った半裸地に生育する。愛知県の生育地は、西尾南部（佐久島）以外はいずれも湧水湿地周辺部である。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明だが、丘陵地の開発により消失したものと思われる。

【保全上の留意点】

丘陵地の破壊が進行しているだけでなく、残存地の森林化も進行しており、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

一部赤褐色を帯びる小穂が特徴である。

【引用文献】

矢野興一・池田博. 2012. カヤツリグサ科ノグサ属ノグサの分類学的研究. 日本植物分類学会第 11 回大会研究発表要旨集 96.

【関連文献】

保草Ⅲp.251, 平草Ⅰp.171, SOS 旧版 p.107, SOS 新版 p.109, 愛知県 p.290.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

カガシラ *Scleria caricina* (R.Br.) Benth.**【選定理由】**

全国的に減少傾向の著しい小型の湿地性植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

小型の1年生草本。根は赤褐色となる。茎は単生または基部でまばらに分枝し、高さ5~20cmになる。葉は5~10個が互生し、狭披針形、長さ1~4cm、幅1.3~4mm、先端は鋭頭、葉鞘は短く、長さ2~8mmである。花期は7~10月、花序は最下2~3個を除く葉の葉腋につき、小型で頭状、長さ、幅とも2~5mm、密に小穂をつける。小穂は長さ1.2~2mm、淡緑色、小花は単性で、花被片はない。果実は球形で直径約0.8mm、2個の小さい三角状卵形の鱗片に包まれ、熟すと鱗片とともに脱落する。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷山麓、高木順夫 s.n., 1981-10-3; 上志段味蛭池、飯尾俊介 60, 1964年）に生育していた。

【県内の分布】

新城、豊田東部の2区画で確認されている。豊川、豊橋北部、豊橋南部で採集された標本もある。

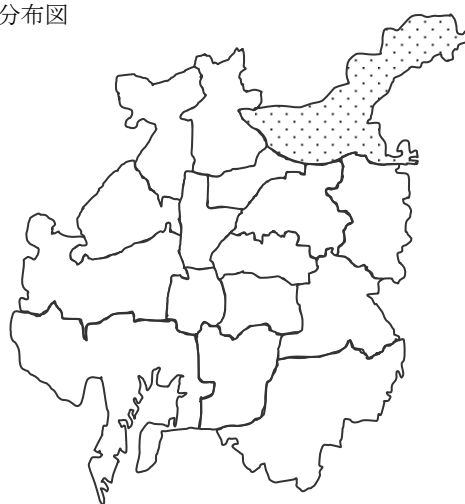
【国内の分布】

本州（千葉県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、マレーシア、インド、オーストラリア。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

丘陵地の湿地の、半裸地状の場所に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

東谷山では湿地の上部に生育していたらしいが、おそらくは遷移の進行により絶滅した。蛭池では池岸の湿地に群生していたという。上流にある森林公園内での農薬散布などによりため池の水質が悪化し、絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

再発見は困難と思われる。

【特記事項】

小型で目立たない植物なので、調査の際には注意が必要である。

【関連文献】

保草Ⅲp.254, 平草Ⅰp.168, 環境庁 p.393, SOS 旧版 p.108, 愛知県 p.129.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

ミカワシンジュガヤ *Scleria mikawana* Makino

カテゴリー

【選定理由】

湿地性植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

1 年生または多年生の草本。根茎はなく、根は赤紫色である。茎は少数が束生して直立し、灰緑色、3 稜形、高さ 30～100cm になる。葉は茎上に互生してほぼ直立し、細い線形、長さ 10～40cm、幅 2～5mm、先端は次第に細まり、葉鞘は長さ 2～7cm で密に茎を包み、稜は鋭いが翼はない。花期は 7～10 月、花序は茎の先端と上半部の葉腋につき、2～4 個、長さ 2.5～4cm、枝は斜めに立ち、腋生のものの柄はほとんど葉鞘内にかくれる。小穂は長さ約 5mm、花は単性で、花被片はない。果実は球形、直径 2～2.5mm、網目状の紋があり、はじめ緑白色であるが、熟すと黒灰色になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山麓、芹沢 56983, 1990-9-12）、天白区（海老山町、渡邊幸子 4922, 2001-10-13, NBC999）、緑区（鳴海町水広下池付近、芹沢 59849, 1991-8-23）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、豊橋北部、みよし、長久手日進、東海知多、半田武豊、常滑の 7 区画で確認されている。このほか、新城、豊橋南部、刈谷知立で採集された標本もある。

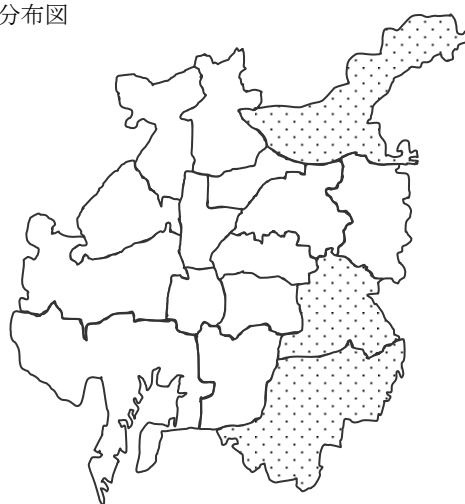
【国内の分布】

本州（千葉県以西）、九州の湿地にややまれに生育する。

【世界の分布】

日本、ニューギニア、インド、アフリカ。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の日あたりのよい湿地に生育する。多少攪乱された場所に生育していることが多い。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

守山区では小群落があったが、その後確認できない。天白区では造成地にややまとまった群落があったが、宅地化により絶滅した。緑区にもややまとまった群落があったが、宅地造成により埋め立てられ、絶滅した。

【保全上の留意点】

名古屋市に限ればすでに手遅れかもしれないが、一般論としては湧水湿地を、水源部の地形を含めて保全することが必要である。また豊橋市葦毛湿原では、一時ほとんど見られなくなったが、湿原回復のためイヌツゲを除去したところ、再度出現した。この例から判断すれば、富栄養化を伴わない軽度の攪乱は、本種の存続のためにはかえって好都合らしい。もちろん大規模な攪乱があれば、消滅してしまう。

【特記事項】

「ミカワ」の名があるが、西三河、東三河では少なく、むしろ尾張に多い植物である。

【関連文献】

保草Ⅲp.255, 平草Ⅰp.169, 環境庁 p.393, SOS 旧版 p.108, SOS 新版 p.107, 愛知県 p.483.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

コシンジュガヤ *Scleria parvula* Steud.**【選定理由】**

湿地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

1年生草本。根は赤紫色である。茎は細く、束生してひろがり、3稜形、長さ30～120cmになる。葉は茎上に互生し、線形、長さ5～35cm、幅2～7mm、先端は通常やや急に細まり、葉鞘は長さ2～7cmで広い翼があり、幅2～8mmになる。花期は8～10月、花序は茎の先端と葉腋につき、3～8個、長さ1.5～4cm、腋生のものには長い柄がある。小穂は長さ4～5mm、花は単性で、花被片はない。果実は球形、直径約2mm、網目状の紋があり、熟しても白色～淡灰褐色である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷山麓、芹沢 53843, 1989-10-10）に生育していた。

【県内の分布】

低山地～丘陵地に点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と美浜南知多で確認されている。

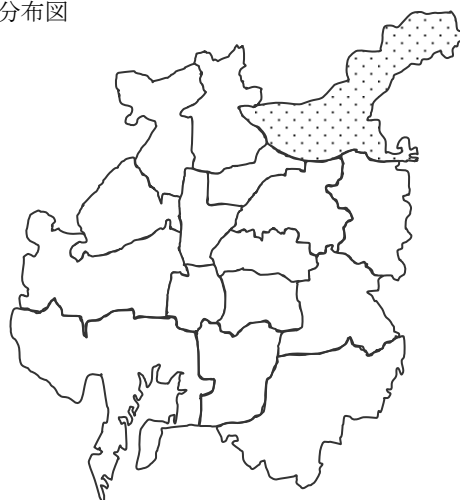
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、マレーシア、インド、アフリカ。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

日当たりのよい泥質の湿地に生育する。しばしば多少攪乱された場所に出現する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

小群落があった。遷移の進行により湿地の森林化が進み、消滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

現存が確認できないため「絶滅」と判定したが、造成地等にできた湿地に生育することもある植物なので、名古屋市でもそのうちに再度出現する可能性がある。注意して探索する必要がある。

【特記事項】

ミカワシンジュガヤ *S. mikawana* Makino からは、茎が直立せず、葉が幅広く、葉鞘に広い翼があることで区別できる。愛知県全体で見ればミカワシンジュガヤよりずっと多いが、名古屋市に限ればミカワシンジュガヤより希少であった。

【関連文献】

保草Ⅲp.255, 平草Ⅰp.169.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イネ科>

ヒナザサ *Coelachne japonica* Hack.**【選定理由】**

湿地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本があるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

小型の1年生草本。稈は細く、基部は横にはって分枝し、先は立ち上がって高さ5~20cm、節に短い毛がある。葉は互生し、葉身は披針形、長さ1~3cm、幅3~6mm、先端はとがり、基部は円形、両面とも無毛、葉鞘は節間より短く、ほとんど無毛、葉舌はない。花期は8~10月、花序は小さい円錐状で長さ1.5~3cm、枝は短く、4~20個の小穂がつく。小穂は長さ約2.5mm、淡緑色、1個の両性小花、または1個の両性小花と1個の雌性小花からなり、芒はない。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区(竜泉寺丘, 稲垣貫一 s.n., 1927-9-12, CBM98748)、千種区(東山, 井波一雄 s.n., 1940-10-7, CBM238305)、名東区(牧野池, 井波一雄 s.n., 1949-10-2, CBM198144)、天白区(天白村, 井波一雄 s.n., 1941-10-23, CBM251252)、緑区(黒石, 浜島繁隆 s.n., 1969-10-10)に生育していた。

【県内の分布】

作手、新城、豊田北西部、みよし、岡崎南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、春日井で確認されている。ただしみよしは絶滅し、このほかにもすでに消滅した区画があると思われる。豊川、豊橋北部で採集された標本もある。

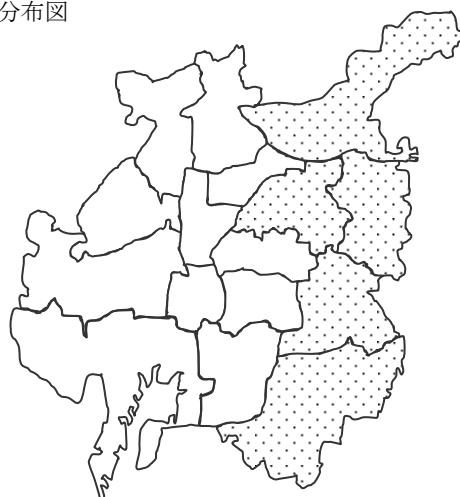
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

丘陵地の水のきれいなため池の周辺などの湿地や、時には浅い水中に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

緑区ではため池の岸に生育していたという。宅地造成により生育地の丘陵が崩され、絶滅した。

【保全上の留意点】

名古屋市では、本種が生育できそうなため池はほとんど残っていない。小型で目立たない植物であるが、再発見は困難であろう。周辺地域を含めても、本種が生育できるような生活排水が流入しない位置にあるため池は極めて少ない。良好な状態にあるため池を、一つでも多く保全することが必要である。

【特記事項】

愛知県全体では、管理放棄に伴うため池の消失によりなくなること多い。瀬戸市では5ヶ所に生育していたが、そのうち4ヶ所はこれが原因で消滅した。

【関連文献】

保草Ⅲpp.339-340, 平草Ⅰpp.96-97, SOS旧版p.99, SOS新版p.114, 愛知県p.448.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 pp.656-657. 平凡社, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イネ科>

コゴメカゼクサ *Eragrostis japonica* (Thunb.) Trin.**【選定理由】**

全国的に見れば希少な植物ではないが、愛知県ではどういうわけか少ない。名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

1年生草本。稈は束生して小さい株をつくり、無毛、高さ50～100cmになる。葉は叢生し、葉身は狭線形、長さ10～20cm、幅2～5mm、先端は細く尖り、葉鞘は無毛、葉舌は長さ約0.5mmである。花期は8～11月、円錐花序は長い柱状で、直立して長さ20～50cm、枝は多数あるが、やや短く、下部では輪生状となり、斜上またはほぼ直立して更に枝を分ける。小穂は多数つき、卵形で小さく、長さ1～2mm、幅1～1.2mm、淡緑色で一部紅紫色になり、3～7個の小花をつけ、芒はない。

【分布の概要】**【市内の分布】**

千種区（東山、井波一雄 s.n., 1941-10-1, CBM161689, 写真は2010年版図版1図4）で採集された標本がある。

【県内の分布】

現存しているのは犬山の1ヶ所のみである。名古屋市のほか、新城で採集された標本もある。

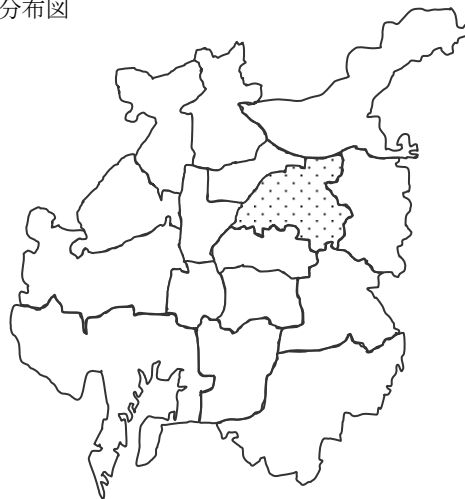
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島南部、中国大陆中南部、マレーシア、インド、アフリカ、オーストラリア。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

ため池の岸や水田の周辺などの湿地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

生育地はおそらくため池の岸で、開発による埋め立て、あるいは水の汚染により絶滅したと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市東部の丘陵地に残存するため池の秋期に干上がった岸には、本種以外にもヌマカゼクサ、ヒメシロガヤツリ、ヒメガヤツリ、トネテンツキ、ムラサキトキンソウなどの希少な植物が生育している。本種の有無にかかわらず、水辺地形や水質の保全、現在行われている水管理の継続が必要である。

【特記事項】

和名は、小穂が小さいからである。

【関連文献】

保草Ⅲp.332, 平草Ⅰp.105, 愛知県 p.451.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 pp.470-471. 平凡社, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イネ科>

コメガヤ *Melica nutans* L.

カテゴリー

【選定理由】

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。細い根茎があり、小さい株が集まって小群落を作る。稈は細くて直立し、高さ30～50cm、基部は紫色を帯びた葉鞘に包まれる。葉は茎の中部につき、細い線形でやわらかく、長さ5～15cm、幅2～5mmである。花期は4～5月、花序はほとんど総状になり、長さ8～15cm、数個～15個の小穂をつける。小穂は楕円形で米粒状、長さ6～8mm、白緑色で光沢があり、通常2個の完全な小花と1～2個の退化した小花をつける。包穎は膜質で周辺部は半透明になり、第一包穎は長さ3～4mm、第二包穎は長さ5～6mmで3脈、護穎は厚く、芒はない。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区？（八事～東山の曙峠付近、稲垣貫一 s.n., 1947-4, CBM110733）で採集された標本がある。

【県内の分布】

丘陵地、低山地にはやや普通にみられるが、三河北部の山地にはなく、平野部にもほとんどない。尾張では瀬戸尾張旭、犬山、江南丹波、小牧、春日井、尾西祖父江で確認されている。

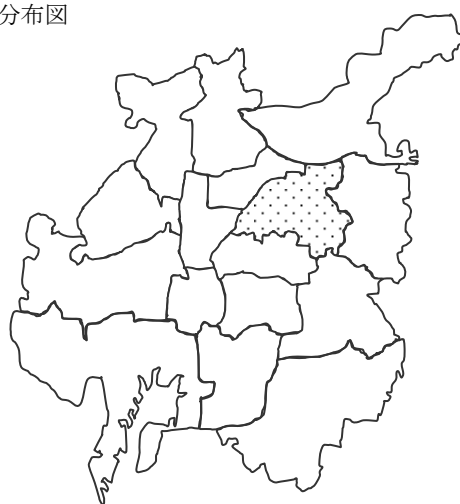
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、中国大陸からヨーロッパにかけて広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

明るい林内や林縁、草地などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明だが、丘陵地の開発により消失したのではないと思われる。

【保全上の留意点】

再発見の可能性は皆無ではない。注意して探索する必要がある。

【特記事項】

和名は、楕円形のふくらんだ小穂を米粒に見立てたものである。

【関連文献】

保草Ⅲp.330, 平草Ⅰp.109.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 pp.220-221. 平凡社, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イネ科>

オオアブラスキ *Spodiopogon sibiricus* Trin.**【選定理由】**

山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下茎は匍匐し、鱗片でおおわれる。秆は少数が束生して直立し、高さ約 1m になる。葉は互生し、葉身は線形、長さ 15~40cm、幅 8~15mm、葉舌は高さ 1~1.5mm である。花期は 8~10 月、円錐花序は直立し、長さ 15~25cm、主軸、枝とも平滑、枝は各節から 2~数本が出て、その上部に有柄と無柄の小穂が対になってつく。小穂は柄とともに短い毛があり、長さ約 5mm、護穎は深く 2 裂し、その間からねじれた長い芒が出る。

【分布の概要】**【市内の分布】**

緑区（鳴海町笹塚，渡邊幸子 1182, 1993-8-26）に生育していた。

【県内の分布】

東三河には点在するが、西三河と尾張では極めて少ない。尾張では名古屋市とそれに隣接する尾張旭市、豊明市の愛知用水沿いで確認されているだけである。

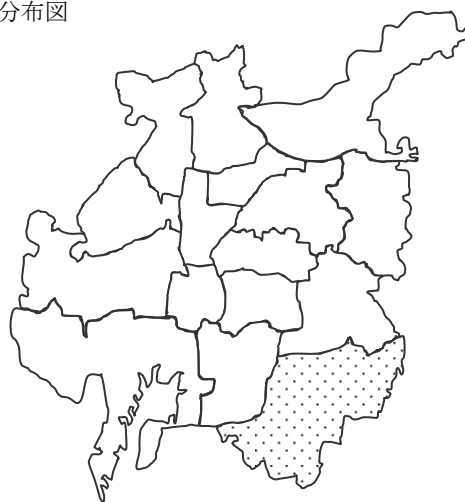
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸北部、シベリア。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地のやや乾いた明るい草地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

愛知用水土手の草地に小群落があったが、用水の改修により絶滅した。

【保全上の留意点】

尾張では極めて希少な植物で、再発見は困難と思われる。愛知用水の改修に際して生物多様性の保全における草地の重要性を十分意識していなかったことが絶滅の原因であり、この経験を今後の施策に生かす必要がある。

【特記事項】

オオアブラスキの名があるが、アブラスキと比較すればやや小型である。

【関連文献】

保草Ⅲp.386, 平草Ⅰp.94.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 pp.664-665. 平凡社, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科>

クサボタン *Clematis stans* Sieb. et Zucc.

カテゴリー

【選定理由】

山地性の植物で、名古屋市では過去の記録があるが、現存を確認できない。愛知県内でも生育地、個体数ともに少ない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の半低木。茎は高さ 1m くらいになり、下部は木化して冬になっても残る。葉は対生で長柄があり、1回3出複葉、小葉はほぼ卵形で3浅裂し、長さ4~13cm、先端は鋭くとがり、基部はくさび形~切形、辺縁には不ぞろいなあらい鋸歯がある。花期は7~8月、茎の先端や葉腋に集散状の花序を作り、多数の花を下向きにつける。花は長い鐘状、長さ1.2~2cm、がく片は4枚で、基部は合わさって筒状になり、先はそり返り、外面は短い白毛を密生し、内面は淡紫色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区の愛知用水沿いで撮影された写真が、安原（1990）に掲載されている。標本資料は残されていない。

【県内の分布】

東栄、豊橋北部の2区画に、各1ヶ所生育地がある。

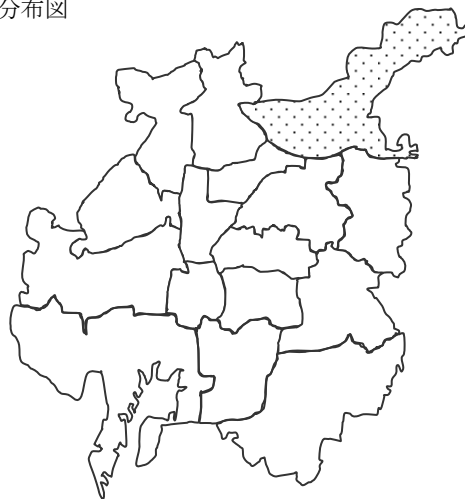
【国内の分布】

本州全域に分布する。四国、九州のものは、変種ツクシクサボタン *var. austrojaponensis* (Ohwi) Ohwi である。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

名古屋市では愛知用水沿いの草地に生育していたらしいが、一般的には林縁や崖状地に生育する。暖地では石灰岩地に多い。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

1株だけ生育していたが、愛知用水の改修により絶滅したという。

【保全上の留意点】

木曽川上流から水の流れて乗って偶然運ばれ、生育していたと思われる。希少偶産種と判断する方が適切かもしれないが、詳細な状況がわからないので、絶滅種として掲載しておく。愛知県では極めて希少な植物で、再発見は困難と思われる。愛知用水の改修に際して生物多様性の保全における草地の重要性を十分意識していなかったことが絶滅の原因であり、この経験を今後の施策に生かす必要がある。

【特記事項】

クサボタンの名はあるが、低木性である。

【引用文献】

安原修次. 1990. なごや野の花 p.128. エフエー出版, 名古屋.

【関連文献】

保草Ⅱp.223, 平草Ⅱp.73.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科>

オキナグサ *Pulsatilla cernua* (Thunb.) Bercht. et C.Presl

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

大陸系の草地性植物。名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。全国的にも愛知県でも、草地の減少と園芸目的の採取により、著しく減少している植物である。

【形態】

多年生草本。根は太く、地中深く伸びる。根出葉は束生し、長い葉柄があり、葉身は2回羽状複葉、小葉は深裂し、さらに欠刻がある。茎ははじめ高さ10cm程度であるが、花後伸長して30～40cmになり、茎葉は3枚が輪生し、無柄、基部は多少合着し、葉身は線状の裂片に分裂する。根出葉や花茎には長い白毛がある。花期は4～5月、花は茎の先端に1個つき、鐘形で下向きに開く。がく片は6枚で長楕円形、外面は白毛で覆われ、内面は暗赤紫色。花柱は花後伸長して、果時には長さ3～4cmになる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（竜泉寺、井波一雄 s.n., 1933-4-29, CBM222638）に生育していた。

【県内の分布】

4区画でそれぞれごく少数の株が生育していたが、いずれもごく最近の状況は十分確認されていない。かつては県中部の丘陵地、低山地に点在していたらしく、鳳来寺山自然科学博物館や豊橋市自然史博物館には富山、新城、豊川、豊橋北部で採集された標本が保管されている。また大原（1971）は、足助、豊田、蒲郡等も産地としてあげている。

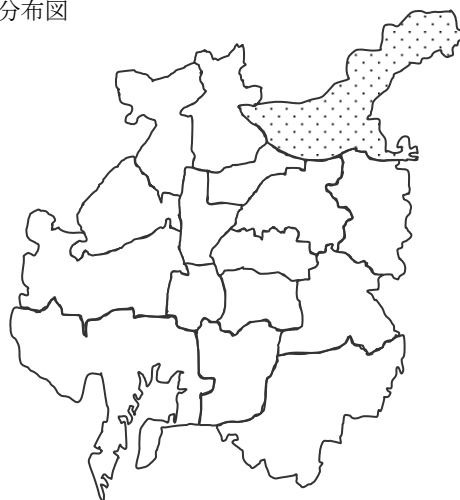
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい草地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

草地環境の消失により絶滅したものと思われる。園芸目的の採取もあったかもしれない。

【保全上の留意点】

市内には本種が生育できそうな環境が残存しておらず、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

オキナグサの名は、果時の白い残存花柱が老人の白髪のようなからである。園芸目的の採取圧が極めて大きい植物の一つで、全国的にも人目につくところではまず残存していない。基本的には、国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題である。

【引用文献】

大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.62. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草Ⅱp.229, 平草Ⅱp.70, 環境庁 p.449, SOS 旧版 p.50+図版 13, 愛知県 p.174.

（執筆 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科>

オトコゼリ *Ranunculus tachiroei* Franch. et Sav.**【選定理由】**

山間部の泥湿地に多い植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ60～100cmになり、中下部には開出する粗毛が多い。茎の基部の葉には長さ12～30cmの柄があり、葉身は2回3出複葉で裂片はしばしば更に2～3裂し、長さ7～12cm、終裂片は線状楕円形で幅5～10mmである。上部の茎葉は次第に小さく、またほとんど無柄となる。花期は7～8月、花は茎の上部の枝先にまばらにつき、黄色で直径10～15mm、花弁は5枚で楕円形である。果実は多数の分果が集まってほぼ球形の集合果となる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（志段味、井波一雄 s.n., 1937-7-15, CBM163623）に生育していた。

【県内の分布】

三河山地に点在する。尾張では少なく、瀬戸尾張旭で確認されているだけである。

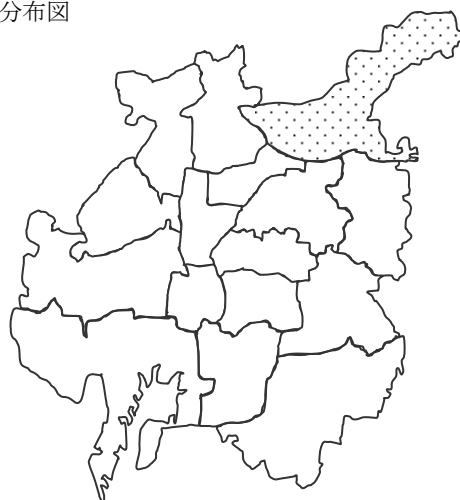
【国内の分布】

本州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山間部の泥質の湿地や休耕田などに生育する。湿地性の植物であるが、貧栄養の湧水湿地には生育しない。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

標本はよく発達した大型の個体である。丘陵地の開発により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

尾張における現在の分布状況から見て、再発見は困難と思われる。

【関連文献】

保草Ⅱp.247, 平草Ⅱp.79.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ユキノシタ科>

チダケサシ *Astilbe microphylla* Knoll

カテゴリー

【選定理由】

山地の湿った草地に多い植物で、名古屋市では過去の記録はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。根茎は斜上し、地上茎は直立して高さ 50～80cm になる。葉は基部のものには長く、上部のものには短い柄があり、葉身は 2～4 回奇数羽状に分かれ、小葉は楕円形～倒卵形、長さ 2～4cm、先端は鈍頭、辺縁にはやや不ぞろいの鋭い重鋸歯がある。花期は 7～8 月。茎の先端につく細長い複総状花序に小さい花を多数つけ、花序の軸には腺毛が密生する。花卉は線状さじ形、長さ 3～5mm、淡紅色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区の愛知用水沿いで撮影された写真が、安原（1990）に掲載されている。標本資料は残されていない。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地や丘陵地には普通に見られる植物で、尾張でも瀬戸尾張旭、長久手日進、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、岩倉西春日井で確認されている。

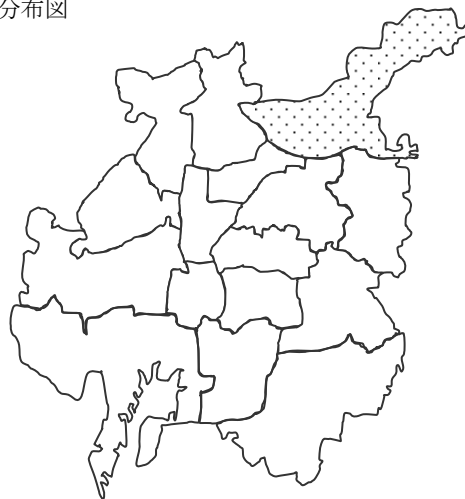
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湿った草地や林縁に生育する。しばしば谷戸田の周辺に生育している。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明。愛知用水の改修により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

県全体で見れば希少な植物ではないが、名古屋市内では里草地的な環境がほとんど残存しておらず、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

和名は乳蕈刺の意味で、チダケ（白色の乳液を出すキノコの 1 種）を採りこの草の茎に刺して持ち帰ったことに由来する。

【引用文献】

安原修次. 1990. なごや野の花 p.93. エフエー出版, 名古屋.

【関連文献】

保草Ⅱp.148, 平草Ⅱpp.165-166.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 バラ科>

キジムシロ *Potentilla fragarioides* L. var. *major* Maxim.

カテゴリー

【選定理由】

愛知県では低山地～丘陵地に点在する植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。高さ10～25cmになり、太い地下茎があるが、匍匐枝は出さない。根出葉は5～9小葉からなる奇数羽状複葉、葉柄や中軸には白色～淡褐色の長い開出毛が多い。小葉は楕円形、頂小葉と第1側小葉は長さ1.5～4cm、幅1～2cm、鈍頭、両面有毛、辺縁にはやや細かい鋸歯がある。茎葉は少数で通常3出葉となる。花期は4～5月、茎の先端に分枝した花序をつけ、直径1.5～2cmの黄色の花を多数つける。がくは5裂し、裂片は狭卵形で鋭頭、副がく片はやや短く細い。花弁は5枚で倒卵形、先端は浅い心形になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（龍泉寺ヶ丘、稲垣貫一 s.n., 1950-4-9, CBM113646, 写真は2010年版図版1図1）に生育していた。

【県内の分布】

低山地～丘陵地に点在するが、東三河北部の山地には見られず、平野部にもない。尾張では1985年以降瀬戸尾張旭、大府東浦、半田武豊、常滑、美浜南知多、春日井の6区画で確認されている。

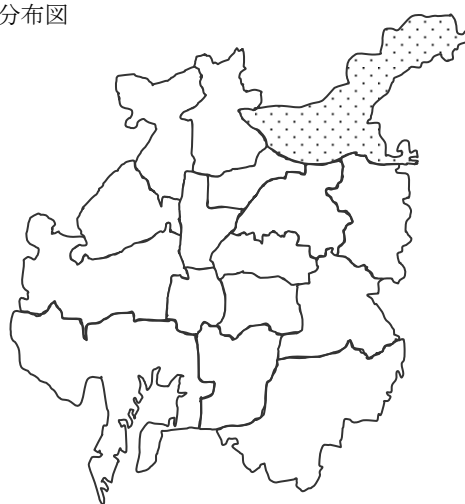
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。種としてはシベリアや中国大陸にも分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい林縁部の土手や明るい林内に生育し、時には岩場に生育することもある。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明であるが、草地環境の消失により絶滅したと思われる。

【保全上の留意点】

市内のどこかで再発見できる可能性は残されている。引き続き探索が必要である。

【特記事項】

全国的に見れば普通種であるが、愛知県ではあまり多くない植物である。

【関連文献】

保草Ⅱp.135, 平草Ⅱp.179.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 バラ科>

ミヤマワレモコウ *Sanguisorba longifolia* Bertol.

カテゴリー

【選定理由】

名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。高さ80～160cmになる。葉は互生し、根出葉や茎の下部の葉には長い柄があるが上部ではほとんど無柄になり、葉身は奇数羽状複葉、小葉は3～6対、線状楕円形～楕円状披針形、長さ4～10cm、幅0.7～2cm、先端は鋭頭～円頭、基部はくさび形～浅い心形、辺縁に鋭い鋸歯がある。花期は9～10月、花序は穂状で、長いものは5cmに達するが短いものは1cm程度、直径6～8mm、直立するか斜めに傾き、花は暗紅紫色（まれに白色）、雄ずいは花外に1～2mm伸びる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味愛知用水沿い、鳥居ちゑ子1522, 1998-10-19）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか作手、豊川、田原東部、田原西部、豊田東部、豊田北西部、豊田南西部、みよし、岡崎北部、岡崎南部、刈谷知立、安城、豊明東郷、大府東浦、小牧で確認されている。

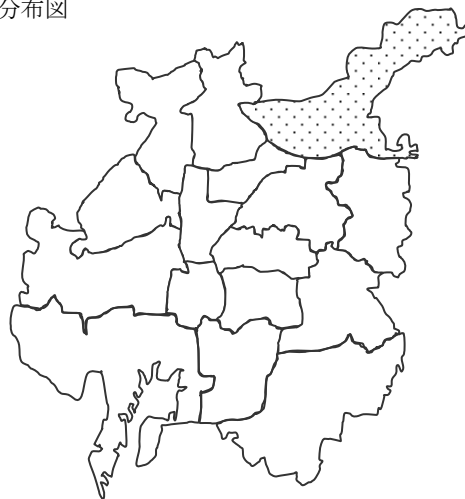
【国内の分布】

北海道（日高地方）および本州（秋田県と福島県～岐阜県の日本海側山地）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

ため池の周辺や河川敷などの湿った草地に生育する。山地の湿原にも見られる。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

個体数はもともと2～3株であった。愛知用水の改修により絶滅した。

【保全上の留意点】

県内の平野部～丘陵地に点在する植物であるが、名古屋市では生育できそうな環境がほとんど残存しておらず、再発見は困難と思われる。愛知用水の改修に際して生物多様性の保全における草地の重要性を十分意識していなかったことが絶滅の原因であり、この経験を今後の施策に生かす必要がある。愛知県全体でも近年減少傾向が著しい。

【特記事項】

2004年版レッドデータブック、2010年版レッドリストでは、ナガボノワレモコウとして掲載した。

【関連文献】

保草Ⅱp.126, 平草Ⅱp.184.
芹沢俊介. 2013. 愛知県のミヤマワレモコウ. シデコブシ 2:112-113.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 バラ科>

シモツケ *Spiraea japonica* L.f.**【選定理由】**

名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の小低木。高さ1m程度になる。葉は互生し、長さ1～5mmの柄があり、葉身は狭卵形、長さ3～6cm、先端は鋭頭または鋭尖頭、基部は円形～くさび形、側脈は4～8対で、辺縁にはまばらな鋭鋸歯または欠刻状の鋸歯がある。葉面の毛の量は変異が大きい、名古屋市のものは表面が無毛、裏面は脈上に毛を散生～やや密生する。花期は6～8月。枝先に直径3～10cmの複散房花序をつける。花は直径4～6mm、紅色から淡紅色、花弁は5枚、広卵形～円形である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

天白区（一ツ山、中島ひろみ 547, 1996-6-12）、緑区（鳴海町大清水、岡本沙矢香 327, 2001-6-18）に生育していた。

【県内の分布】

県内の分布は比較的限定されており、東三河中部、岡崎周辺、および瀬戸から名古屋市にかけて（区画としては瀬戸尾張旭、長久手、日進、豊明東郷、春日井）生育しているだけである。

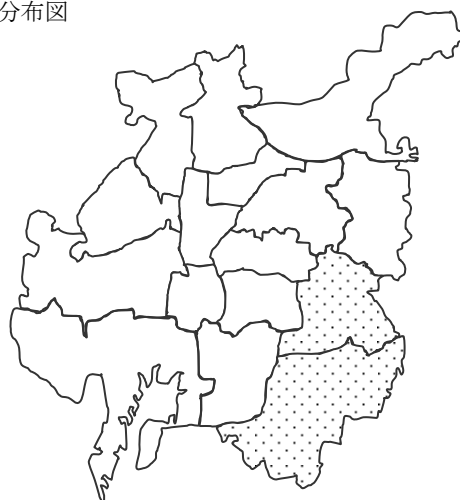
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地の草地、林縁、岩場などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

天白区ではその後確認されていない。緑区では愛知用水沿いの草地に点在していたが、改修により絶滅した。

【保全上の留意点】

愛知用水などの幹線水路わきの草地は、定期的に草刈りが行われるため遷移が進行せず、多くの草地性植物の逃避場所になっている。改修工事に際してはこれらの植物の最後の「頼みの綱」を断ち切らないよう、十分な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、下野国（栃木県）に多かったからだと言われる。

【関連文献】

保木Ⅱpp.90-92, 平木Ⅰp.183.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 グミ科>

アリマグミ *Elaeagnus murakamiana* Makino

カテゴリー

【選定理由】

名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の低木。高さ 3m くらいになる。若枝は帯赤褐色の星状毛を密生する。葉は互生し、3～6mm の柄があり、葉身は長楕円形～倒卵状長楕円形、長さ 4～8cm、先端は鈍頭または短く尖る。表面は若時淡黄褐色の星状毛が多く、裏面は銀色の鱗片があり、その上に帯赤褐色の星状毛を散生する。花期は 4～5 月。葉腋に 1～2 個の花をつける。花柄は細く長さ 8～10mm、がく筒は長さ 6～7mm、幅 2.5～3mm、裂片は広卵形で鋭尖頭、長さ 3～5mm である。果実は長さ 2.5～3cm の柄の先について下垂し、上半部は扁円錐形または半球形、下部は狭まり、長さ 6～7mm で赤熟する。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（東山、井波一雄 s.n., 1958-5-7, CBM130701）、昭和区（妙見町、犬飼 清 s.n., 1967-5-3）、天白区（半ノ木、井波一雄 s.n., 1952-5-9, CBM193967）に生育していた。

【県内の分布】

西三河北部から尾張東部にかけての丘陵地に散在するが、多いものではない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と長久手日進で確認されている。

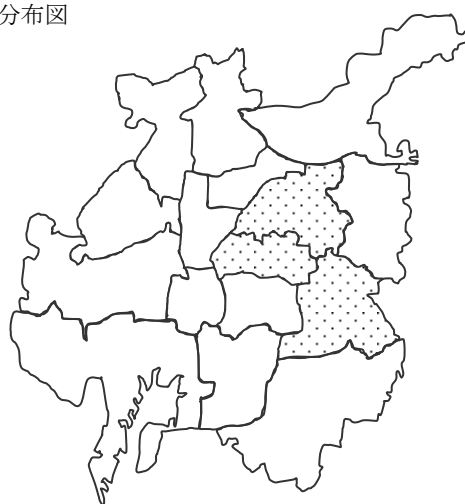
【国内の分布】

本州（静岡県西部～兵庫県東部）および四国（香川県）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の疎林内に点在する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明。丘陵地の開発により消失したものと思われる。

【保全上の留意点】

注意して探索すれば、再発見の可能性は残されている。

【特記事項】

和名は兵庫県の有馬で発見されたことに由来する。

【関連文献】

保木Ⅰp.218, 平木Ⅱp.85.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 クロウメモドキ科>

クロウメモドキ *Rhamnus japonica* Maxim. var. *decipiens* Maxim.**【選定理由】**

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の低木または小高木。枝はよく分枝し、先端は刺となる。葉は対生し、5～10mmの柄があり、葉身は倒卵形～倒披針形、長さ2～7cm、先は急尖しやや鈍端、基部はくさび形、辺縁には低い鈍鋸歯がある。側脈は3～4対で、裏面脈腋に毛がある。花期は4～5月。花は黄緑色で直径約4mm、小枝の基部の葉腋に雄花は3～6個、雌花は1～3個が束生する。果実は倒卵状球形、直径6～7mm、黒熟する。

【分布の概要】**【市内の分布】**

天白区（天白町八事、犬飼 清 s.n., 1967-11-3）に生育していた。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地に点在する。尾張では少なく、名古屋市のほかには瀬戸尾張旭、犬山、春日井で確認されているだけである。

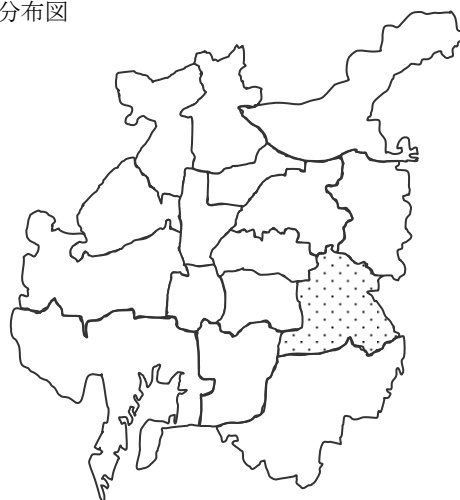
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地の林内に生育する。愛知県では点在するのみで、ほとんど群落にならない。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。丘陵地の開発により消失したものと思われる。

【保全上の留意点】

丘陵地では稀な植物で、再発見の可能性は低いと思われるが、引き続き探索が必要である。

【特記事項】

葉の大きさは変異が著しい。名古屋市産の標本は葉身の長さが2.5～4.5cmである。

【関連文献】

保木Ⅰp.252, 平木Ⅱp.51.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 トウダイグサ科>

タカトウダイ *Euphorbia pekinensis* Rupr.**【選定理由】**

草地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は高さは50～80cmになる。葉は茎頂のものを除き互生し、短い柄があり、葉身は長楕円形～楕円状倒披針形、長さ4～8cm、幅5～12mm、辺縁には微細な鋸歯がある。花期は6～7月、花枝は茎頂に輪生する葉から通常5本が散形に開出するほか、葉腋からも出る。花序の下の苞葉は菱状卵形で黄緑色、杯状花序の腺体は長楕円形で暗褐紫色である。さく果は直径3.5mm内外で、表面にいぼ状の凸起がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

緑区（鳴海町笹塚，武藤靖子 369, 1993-6-16）に生育していた。

【県内の分布】

主に低山地に点在するが、それほど多いものではない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、知多南部、江南丹羽で確認されている。

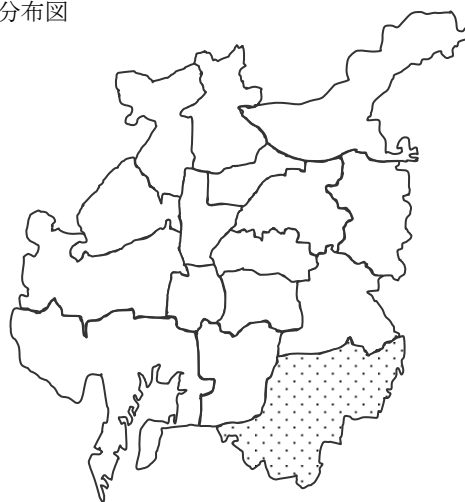
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

愛知用水わきの草地に2～3株生育していたが、用水の改修により絶滅した。

【保全上の留意点】

名古屋市内では本種が生育できそうな環境がほとんど残存しておらず、再発見は困難と思われる。愛知用水の改修に際して、生物多様性の保全における草地の重要性を十分意識していなかったことが絶滅の原因であり、この経験を今後の施策に生かす必要がある。

【特記事項】

本種に限ればすでに手遅れであるが、幹線水路沿いの草地は丘陵地の生物多様性を保全する上では極めて重要な場所である。水路の改修に際しては、適切な配慮が必要である。

【関連文献】

保草Ⅱp.80, 平草Ⅱpp.226-227.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ミソハギ科>

ミズスギナ *Rotala hippuris* Makino**【選定理由】**

全国的に減少傾向が著しい低地性の水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅
環境省2014	絶滅危惧ⅠA類

【形態】

挺水性の多年生草本。茎の基部ははい、上部は直立して円柱状、下部から枝を分け、高さ3～10cmになる。葉は5～12個輪生し、沈水葉は糸状線形、先端は短く2裂し、長さ2～3cm、水上葉は線形、先端は切形で、長さ0.5～1cm、幅0.6～1mmである。花期は9～10月、花は水面上に伸びた部分の葉腋につき、無柄、白色、がく筒は鐘形で長さ約0.6mmである。蒴果は球形で直径1.5mm、赤色をおびる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

千種区（旧田代村猫が洞、森貞次郎 s.n., 1906年, TI）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか東海知多と春日井で採集された標本があるが、そこでも絶滅した。

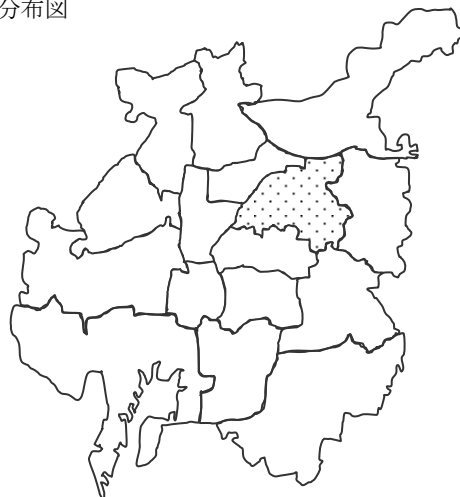
【国内の分布】

本州（関東地方～近畿地方南部）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

水のきれいな浅いため池に生育する。水田に生育することもあるという。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

注意して探索している植物の一つであるが、名古屋市を含め愛知県では現存を確認できない。水質の汚濁が絶滅の原因と思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市内で再発見される可能性はほとんどないが、愛知県全体では丘陵地のため池のどこかにまだ残存しているかもしれない。更に注意して探索する必要がある。

【特記事項】

東海知多のものは、研究者個人の手で栽培条件下で系統保存されている。

【関連文献】

保草Ⅱp.47, 平草Ⅱp.261, 環境庁 p.315, SOS 旧版 p.65, 愛知県 p.47.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.120. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.246. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 アオイ科>

ハマボウ *Hibiscus hamabo* Sieb. et Zucc.

カテゴリー

【選定理由】

美しい花をつける代表的な塩湿地性植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。愛知県全体でも生育地は少ない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の低木または小高木。枝はよく分枝し、高さ2～4mになる。葉は互生し、長さ1～2cmの柄がある。葉身は円形～広卵形、長さ4～7cm、幅3～6cm、先端は鋭頭、基部は円形またはやや心形、葉質は厚く、辺縁には細かい鋸歯があり、裏面は星状毛が密生して灰白色となる。花期は7～8月、花は枝の上部の葉腋に1個ずつつき、淡黄色で中心部は暗赤色、直径約5cm、花弁は5枚で倒卵形、先は円形で斜開し、長さ4～5cm。果実は卵形で長さ約3cm、褐色の毛が密生する。

【分布の概要】

【市内の分布】

南区（加福町貯木場跡地、高木順夫 8635, 2000-7-28）にやっと花をつけはじめた幼木が1株生育していた。

【県内の分布】

豊橋南部、田原東部、田原西部、西尾南部、美浜南知多に現存している。植栽または逸出と思われるものは、他の場所でも稀に見られる。田原市堀切の群落は、県の天然記念物に指定されている。豊橋市神野新田町にもよい群落がある。

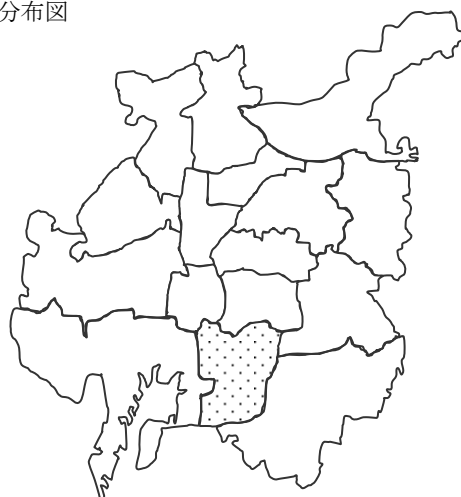
【国内の分布】

本州（関東地方南部、東海地方、紀伊半島、中国地方）、四国、九州、琉球北部（奄美大島まで）。

【世界の分布】

日本、済州島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸の塩湿地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

南区加福町の貯木場跡に幼木が1株あり、これが伊勢湾の愛知県側では唯一の個体であったが、やっと開花するようになった途端、一般廃棄物最終処分場建設のため埋め立てられて消滅した。

【保全上の留意点】

塩湿地は開発圧力の高い場所であり、特に注意して保全すべき環境の一つである。本種は海流により種子が散布されるので、多少攪乱された場所でも塩湿地状態が維持されれば、定着・生育が期待できる。加福町の個体も、そのような個体であったと思われる。

【特記事項】

この類としては、最も北に分布している種である。

【関連文献】

保木Ⅰp.229, 平木Ⅱp.71, SOS旧版p.64, SOS新版p.154, 愛知県p.388.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ジンチョウゲ科>

コガンピ *Diplomorpha ganpi* (Sieb. et Zucc.) Nakai

カテゴリー

【選定理由】

草地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の小高木。下部で多数分枝して叢生し、高さ 50～80cm になる。葉はらせん状につき、ごく短い柄があり、葉身は長楕円形、長さ 2～4.5cm、両端とも鈍頭またはやや鋭形で、全体に伏毛がある。花期は 7～9 月。多数分枝した枝先に小さい穂状花序をつけ、全体として円錐状となる。花は白色または淡紅色。がく筒は長さ 7～12mm、がく裂片は狭卵形で長さ 2～3mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味、芹沢 52685, 1989-8-23）に生育していた。

【県内の分布】

丘陵地に点在する。尾張では愛知用水沿いに生育しているだけで、名古屋市のほか常滑、美浜南知多にあったが、どの場所も絶滅状態である。

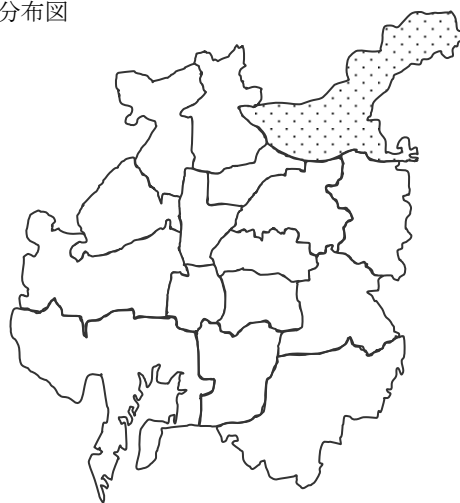
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球（奄美諸島）。

【世界の分布】

日本、台湾。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。愛知県では、幹線水路沿いの草地に生育していることが多い。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

愛知用水わきの草地に、狭い範囲であるが 20 株程度が生育しており、生育状態も良好であった。用水の改修により絶滅した。

【保全上の留意点】

名古屋市内では生育できそうな環境がほとんど残されておらず、再発見は困難と思われる。愛知用水の改修に際して生物多様性の保全における草地の重要性を十分意識していなかったことが絶滅の原因であり、この経験を今後の施策に生かす必要がある。

【特記事項】

別名イヌガンピ。樹皮の繊維は弱く、同属のガンピのように和紙の原料とはならない。

【関連文献】

保木 I pp.225-226, 平木 II pp.81-82.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 ＜種子植物 被子植物 真正双子葉類 タデ科＞

コミゾソバ *Persicaria mikawana* Hanai et Seriz.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	リスト外

【選定理由】

愛知県や岐阜県東濃地方では点在するが全国的には稀少な植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

1 年生草本。主軸は長さ 15～80cm、基部はあまり倒伏せず、閉鎖花序枝を出さない。葉は 1～3.5cm の柄があり、葉身は長さ 3～7cm、幅 2～5cm、先端は突出して鈍端、基部は浅い心形、頂裂片は卵状五角形で基部ははっきりくびれ、側裂片は葉長の割に大きくてほとんど円頭になる。花期は 8～9 月、花序は小さく、少数の花をつける。花序群も少数(しばしば 1 個のみ)の花序からなる。がくは長さ 3～4mm、帯紅色または帯緑色、そう果は淡褐色でやや光沢があり、長さ約 3mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（旧千種村，天野景従 s.n., 1910-10-23, MAK）で採集された標本がある。

【県内の分布】

津具、作手、稲武、下山、額田、岡崎南部、瀬戸尾張旭、犬山の 8 区画で現存が確認されている。

【国内の分布】

本州（福島県～兵庫県）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地～山地の、やや貧栄養の、しかし極度に貧栄養ではない湿地の、林縁や林内に生育する。愛知県では、下山の一部と岡崎南部（池金町）の北山湿地には比較的多いが、他はどこも小群落である。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明であるが、都市化に伴う開発によって絶滅したと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市内では本種が生育しそうな湿地がほとんど残存しておらず、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

2008 年に新種として記載された植物で（花井・芹沢 2008）、基準標本産地は岡崎南部の北山湿地である。

【引用文献】

花井隆晃・芹沢俊介. 2008. 日本のミゾソバ類. シデコブシ 1:3-26.

【関連文献】

愛知県 p.524.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 タデ科>

タニソバ *Persicaria nepalensis* (Meisn.) H.Gross**【選定理由】**

山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

1年生草本。茎はよく分岐して斜上し、高さ10～50cmになる。葉は互生し、中下部のものには広い翼のついた長さ5～15mmの柄があり、翼の基部は茎を抱く。葉身は卵形、長さ2～7cm、先端は鋭尖形である。花期は7～10月。枝先や葉腋に頭状に多数の小花をつけ、花被は4裂し、緑色、白色または紅色、長さ2.5～3mm、そう果はレンズ形で光沢はない。

【分布の概要】**【市内の分布】**

天白区（原天白川緑道，渡邊幸子 349, 1992-6-27）に生育していた。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と春日井で確認されている。

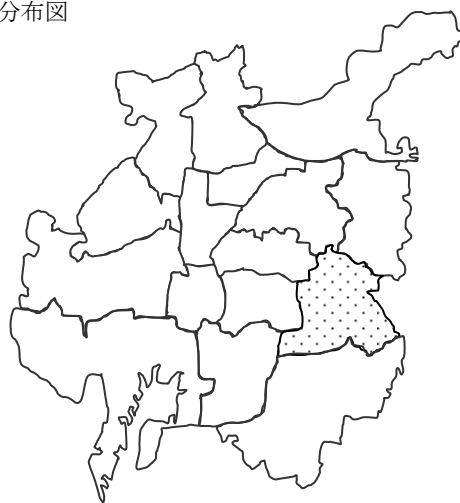
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸から北アフリカにかけて分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地の湿地や林内に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

天白川沿いの土手に高さ10～15cmの小型の個体が数株生育していたが、堤防の整備により絶滅した。天白区では、30年くらい前まではところどころに見られたらしい。

【保全上の留意点】

再発見の可能性は皆無ではない。更に注意して探索する必要がある。

【特記事項】

「こんな普通種が？」と思われる絶滅種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られるような植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【関連文献】

保草Ⅱp.307, 平草Ⅱp.21.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 モウセンゴケ科>

ナガバノイシモチソウ *Drosera indica* L.

カテゴリー

【選定理由】

日本では東海地方だけに生育する食虫植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

食虫性の1年生草本。高さ7~20cmになる。葉は互生し、狭線形、長さ4~7cm、幅1~2.5mm、先は細く糸状になり、表面に昆虫類を捕らえるための長腺毛が多い。若葉はぜんまい状に巻く。花期は7~8月、葉に対生して長さ5~10cmの総状花序を出し、3~10個の淡紅色の花をつける。花弁は5枚、長楕円形で長さ6~8mmである。花の白いものはシロバナナガバノイシモチソウ *D. makinoi* Masam.である。シロバナナガバノイシモチソウを区別した場合、狭義のナガバノイシモチソウは国レベルでも絶滅危惧ⅠA類になるはずである。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（田代村、牧野富太郎 s.n., 採集日不明, TI）で採集された標本がある。緑区鳴海町にも生育していた（小宮・柴田 1994）。

【県内の分布】

比較的最近では豊橋北部、豊橋南部、豊明東郷で確認されているが、豊橋南部は絶滅、豊橋北部と豊明東郷も人為的管理によって存続している状態である。

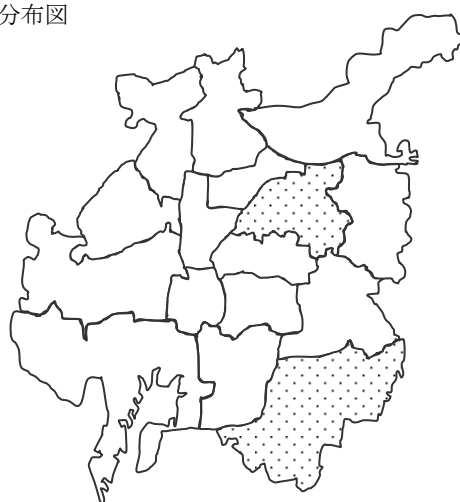
【国内の分布】

本州（東海地方）。

【世界の分布】

詳細は不明。一般に旧世界の熱帯に広く分布するとされるが、熱帯域のものは実際には日本産のものと種の階級で異なる。しかし命名規約上の問題が未解決なので、ここでは旧来の学名をそのまま使用しておく。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の、半裸地状の場所に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

緑区では宅地造成により生育地が破壊され、絶滅したらしい。

【保全上の留意点】

本種については、市内に未知の生育地があることはまず期待できない。しばしば好事家による自然湿地への播種が行われているので、再発見されても保護の対象とする必要はなく、むしろ除去の対象と考える方がよい。播種や植え込みのような付け加え行為は、その場所の本来の自然に悪影響を与え、自然環境情報に混乱をもたらすだけである。本来ないものは、「ない」のが自然の状態であることを認識する必要がある。

【特記事項】

本種ほどの希少種の場合、野外での系統保存は無意味ではない。しかしその場合は、公的機関の手で、造成地にできた湿地のような場所を使って行うべきである。

【引用文献】

小宮定志・柴田千晶. 1994. 総説ナガバノイシモチソウ. 日本歯科大学紀要（一般教育系）(23):125-155.

【関連文献】

保草Ⅱp.167, 平草Ⅱp.121, 環境庁 p.293, SOS 旧版 p.53+図版 19, 愛知県 p.91.

（執筆 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ヒユ科>

ハマアカザ *Atriplex subcordata* Kitag.**【選定理由】**

北方系の海浜植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。愛知県内においても生育地、個体数ともに少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

1 年生草本。茎は斜上または直立して分枝し、高さ 40～60cm になる。葉は互生し、有柄、葉身は三角状卵形～長卵形、長さ 2～8cm、幅 2～4.5cm、肉質、先端は鋭頭か鈍頭、基部はくさび形、辺縁には通常ふぞろいな歯牙がある。上部の葉は次第に狭く小さくなり、全縁になる。花期は 8～10 月、花は密集してかたまり、それが穂状につく。雌花の苞は果時に大きくなり、卵形～三角形、長さ 6～11mm、幅 5～9mm になる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

南区（加福町貯木場跡地、高木順夫 8979, 2000-9-30）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市以外では、豊川、豊橋南部、田原東部、田原西部の三河湾沿岸部に生育している。

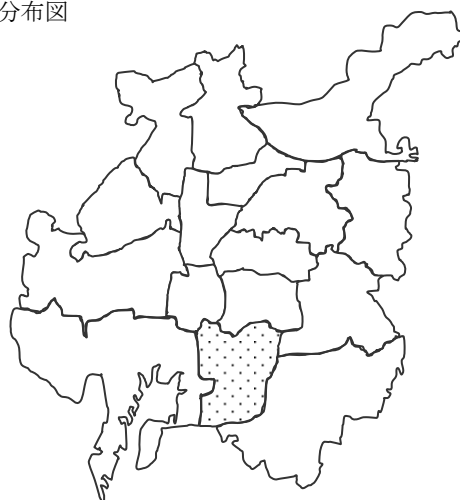
【国内の分布】

北海道および本州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、ウズベキスタン。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

海浜の塩湿地や河口部の砂地などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

高さ 1m くらいの大株が数株見られたが、名古屋市の一般廃棄物最終処分場造成工事のため埋め立てられて絶滅した。

【保全上の留意点】

名古屋市内では生育可能な環境がほとんど残されておらず、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

内湾の塩湿地やそれに隣接する砂浜は、開発圧力が高く、全国的にも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。

【関連文献】

保草Ⅱp.290, 平草Ⅱp.48, 愛知県 p.343.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ツツジ科>

ギンリョウソウ *Monotropastrum humile* (D.Don) H.Hara**【選定理由】**

林内に生育する腐生植物で、名古屋市では生育していたと言われているが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

腐生の多年生草本。全体に白色だが、乾くと黒くなる。茎は1～数本が束生し、高さ8～20cmになる。葉は鱗片状で多数つき、下部のものは披針形で鈍頭、上部のものは倒披針形で円頭、長さ7～15mmである。花期は4～6月。茎の先端に1個の花を下向きにつけ、がく片は1～3枚、長楕円形、花弁は3～5枚で長楕円状くさび形、長さ1.5～2cm、基部はややふくらんで内側に白毛がある。花柱は太く短く、上端はやや広がって辺縁が青色の柱頭となる。果実は卵球形、液質で裂開しない。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区東谷山、名東区猪高緑地などで見たという話を聞く。複数の情報があり、また誤認するおそれもない種類なので確かにあったものと思われるが、はっきりした記録にはなっておらず、また標本も残されていない。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には点在する。尾張では瀬戸尾張旭で生育が確認されている。

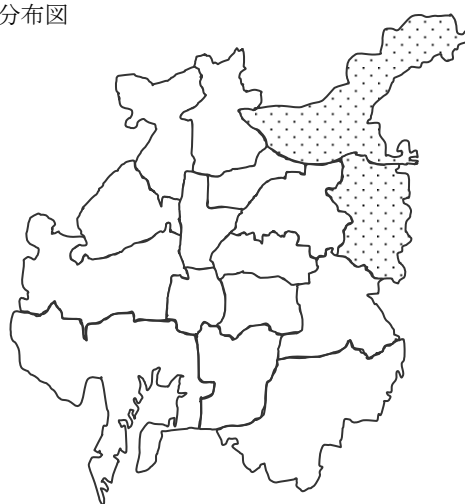
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

千島列島、樺太から東南アジア、ヒマラヤにかけて分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地のやや湿った林内に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

情報はいずれもやや曖昧で、詳細は不明である。その場所で絶滅したかどうかについてもはっきりしない。丘陵地の開発により、生育できそうな環境が激減していることは確かである。

【保全上の留意点】

何はともあれ、確実な資料が必要である。再発見の可能性はあるので、今後も注意して探索する必要がある。

【特記事項】

安全原則の立場からここに掲載しているが、確実な資料がないという点では、本来ならリストから除外すべきものである。薄暗い林の中に生え白色なので、ユウレイタケ（幽霊茸）とも呼ばれる。

【関連文献】

保草Ⅰp.235, 平草Ⅱp.6.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ツツジ科>

レンゲツツジ *Rhododendron japonicum* (A.Gray) Suringar**【選定理由】**

温帯性の植物で、名古屋市では過去に生育していたと言われているが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の低木。よく分枝して高さ1～2mになり、若枝にはやや開出する長毛がある。葉は互生し、3～5mmの柄があり、葉身は倒披針状楕円形、長さ4～8cm、幅1.5～3cm、先は鋭頭、鈍頭または円頭、下部はくさび形に細まって葉柄に流れ、葉縁や表面に剛毛がある。花期は5月、新葉の展開と同時に枝先に4～9個の花をつけ、花冠は朱橙色、漏斗形で5中裂し、長さ5～6cm、雄ずいは5本、子房は長毛が密生し、花柱は無毛である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区東谷山に生育していたというが、標本資料は残されていない。

【県内の分布】

東三河と西三河では山地に点在し、丘陵部にもいくつかの自生地がある。尾張では瀬戸尾張旭に生育しているだけである。

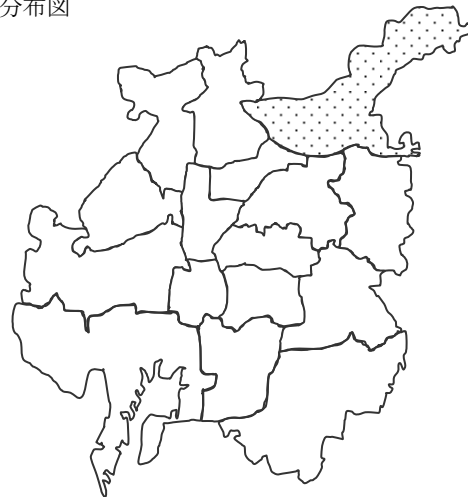
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

長野県の高原などでは草地や林縁に大きな群落を作るが、愛知県や岐阜県美濃地方では湧水湿地の林縁部に生育することが多い。名古屋市の生育地もそのような場所であつたらしい。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

高さ1mくらいの個体が2株あり、よく開花していたが、遷移の進行により湿地の森林化が進み、被陰されて消失したという。

【保全上の留意点】

よく目立つ植物なので、再発見はほとんど期待できない。早目に湿地に侵入した樹木を伐採し、日当たりのよい状態を維持すべきであった。

【特記事項】

本地域の湧水湿地に生育する温帯性植物の一例で、おそらく氷期の遺存植物と思われる。

【関連文献】

保木Ⅰp.150, 平木Ⅱp.142.

(執筆 者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 アカネ科>

ヤマムグラ *Galium pogonanthum* Franch. et Sav.**【選定理由】**

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。根は紅色を帯びる。茎は下部で分枝して立ち上がり、高さ 20～50cm、無毛で刺状突起はない。葉は4枚が輪生し、広線形～倒披針形、長さ1～2cm、先端は鋭頭、対生する2枚は長く、他の2枚はやや短い。花期は4～8月、茎の上部にまばらな花序をつけ、小花柄は長さ3～10mm、花冠は白色で4裂し、直径1.5mmほどである。果実は球形で1.2～1.5mm、やや密に上向きに曲がった短毛がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

名東区（猪高、井波一雄 s.n., 1941-7-10, CBM196082）で採集された標本がある。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地、丘陵地には点在する。尾張では少なく、瀬戸尾張旭、知多南部、犬山で確認されているだけである。

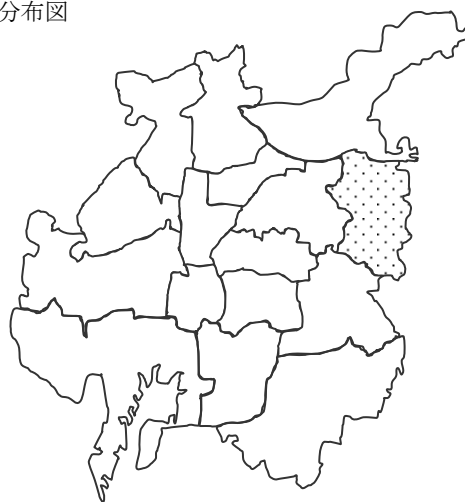
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

林縁部の草地に生育することが多い。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

標本は高さ 50cm ほどの、よく発育した個体である。丘陵地の開発により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

尾張における現在の分布状況から見て、再発見は困難と思われる。

【関連文献】

保草 I pp.112-113, 平草 III p.54.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キョウチクトウ科>

クサナギオゴケ *Cynanchum katoi* Ohwi

カテゴリー

【選定理由】

全国的に希少な植物で、愛知県が基準標本産地である。名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 30~100cm、大きい個体では上部がややつる状に伸びる。葉は小さい個体では茎の上部、大きい個体では茎の中部に集まり、対生、長さ 5~10mm の柄があり、葉身は卵状披針形、長さ 8~17cm、幅 3~5cm、先端は鋭頭、基部はくさび形、全縁、質は薄くて脈上に短毛がある。上部のつる状の部分につく葉は小形になる。花期は5~6月、花序はまばらに分枝し、全体として大きい円錐花序となり、小花柄は細く、花冠は淡紫色で直径 6~9mm、5 裂する。袋果は披針形、長さ 4~5.5cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区(旧天白村、井波一雄 s.n., 1941-7-15, CBM134868)で採集された標本がある。名古屋東山(千種区?)で採集されたものという個体の写真は、奥山(1957)に掲載されている。

【県内の分布】

新城、豊川、豊橋北部、旭、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井で確認されている。東三河南部には比較的多いが、西三河は旭町以外では確認されておらず、尾張でも生育地が少ない。個体数も、東三河以外では犬山に小群落があるが、あとは散発的に見られるだけである。

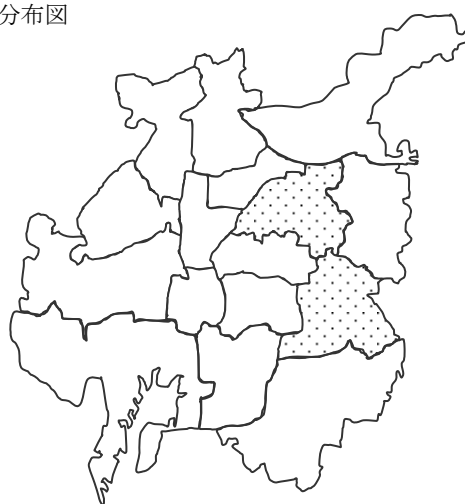
【国内の分布】

本州(関東、東海、近畿地方)、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地や低山地の落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。造林地内に生育していることもある。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。

【保全上の留意点】

愛知県における本種の生育地は、ほとんどがいわゆる里山の二次林である。名古屋市のものに限れば手遅れだとしても、適度に部分的な伐採を行い、さまざまなステージが混在する里山の二次林を全体として保全することが必要である。

【特記事項】

本種は、品野村(現・瀬戸市)で加藤秀次郎氏によって発見され、熱田神宮の草薙の剣に因んで「クサナギオゴケ」と命名された。花が緑白色のものは、シロバナクサナギオゴケ form. *albescens* (H.Hara) Ohwi と呼ばれる。愛知県では、シロバナクサナギオゴケの方が多く見られる。

【引用文献】

奥山春季, 1957. 原色日本野外植物図譜 1:pl.41. 誠文堂新光社, 東京.

【関連文献】

保草 I p.209, 平草 III p.42, 環境庁 p.515, SOS 旧版 p.73+図版 5, SOS 新版 p.74, 愛知県 p.567.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キョウチクトウ科>

コカモメヅル *Tylophora floribunda* Miq.**【選定理由】**

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

つる性の多年生草本。茎は細く、長く伸びる。葉は対生し、長さ 1~2cm の柄があり、葉身は三角状卵形~卵状披針形、長さ 3~7cm、先端は鋭尖頭、基部は心形、辺縁は全縁である。花期は 7~8 月、花序は葉腋から出て大きくまばらに広がり、小花柄は細くて長さ 4~10mm、花冠は暗紫色で 5 裂し、直径 4~5mm である。果実は双生して水平に開出し、分果は披針形で長さ 3.5~5cm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（東谷山、井波一雄 s.n., 1949-8-7, CBM161699）で採集された標本がある。

【県内の分布】

丘陵地~山地に点在するが、それほど多いものではない。尾張では瀬戸尾張旭、長久手日進、小牧、春日井などで生育が確認されている。

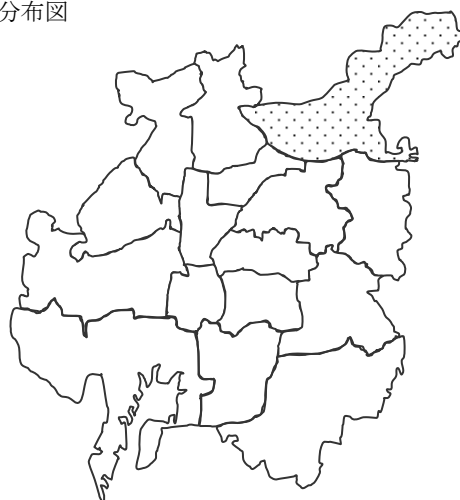
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

林縁の草地に生育することが多い。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。

【保全上の留意点】

注意して探索すれば、再発見の可能性は残されている。

【関連文献】

保草 I p.210, 平草 III p.43.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ムラサキ科>

ホタルカズラ *Lithospermum zollingeri* A.DC.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	リスト外

【選定理由】

草地性の植物で、名古屋市では過去の記録はあるが、現存を確認できない。遷移途上のやや不安定な場所に生育することが多い植物で、愛知県全体でも減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。茎は細く、開出したあらい毛があり、高さ 15～25cm、花後基部から横にはう長い枝を出し、翌年の新苗をつける。葉は互生し、葉身は狭楕円形～広倒披針形、長さ 2～6cm、幅 0.6～2cm、先端は鋭頭、基部も鋭形、濃緑色で表面に剛毛があり、辺縁は全縁である。花期は4～5月、花は上部の葉腋につき、青紫色で直径 15～18mm、花冠は5裂し、各裂片の中央には縦の白色の隆起がある。分果は白色で平滑である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区の愛知用水沿いで撮影された写真が、安原（1990）に掲載されている。標本資料は残されていない。

【県内の分布】

新城、豊川、豊橋北部、田原西部、知多南部、犬山で確認されているが、かなりの区画ですでに絶滅している可能性がある。岡崎南部で採集された標本もある。

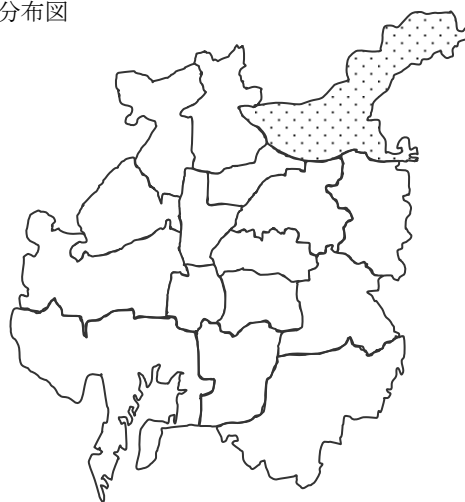
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陆。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

低山地や丘陵地の日当たりのよい草地、林道わきの崖状地などに生育する。名古屋市では愛知用水わきの草地に生育していたという。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

愛知用水の改修により絶滅したらしい。

【保全上の留意点】

愛知用水などの幹線水路わきの草地は、定期的に草刈りが行われるため遷移が進行せず、草地が全体的に減少する中で、多くの草地性植物のよい逃避地になっている。改修工事に際してはこれらの植物の最後の生育場所を奪わないよう、特に配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、点々と咲く青い花をホタルの光にたとえたものと言われる。

【引用文献】

安原修次. 1990. なごや野の花 p.40. エフエー出版, 名古屋.

【関連文献】

保草Ⅰ p.195, 平草Ⅲ p.64, 愛知県 p.407.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ゴマノハグサ科>

オオヒナノウスツボ *Scrophularia kakudensis* Franch.**【選定理由】**

山間部の湿性に多い植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。根は数本が肥厚して紡錘状となる。茎は直立して高さ 1m くらいになり、四角柱状である。葉は対生し、長さ 1~3cm の柄があり、葉身は卵形~長卵形、長さ 7~15cm、先端は鋭頭~鈍頭、基部は広くさび形~浅い心形、辺縁には多数の鋸歯がある。花期は8~9月、茎の上部に長さ 40cm に達する円錐花序をつけ、多数の花をつける。花冠は暗紅紫色、つぼ形で長さ 8~9mm である。果実は卵形、長さ 7~9mm になる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

天白区? (平針~白土~天白, 稲垣貫一 s.n., 1947-8, CBM101193) で採集された標本がある。

【県内の分布】

三河山地には点在する。尾張では少なく、瀬戸尾張旭と犬山で確認されているだけである。

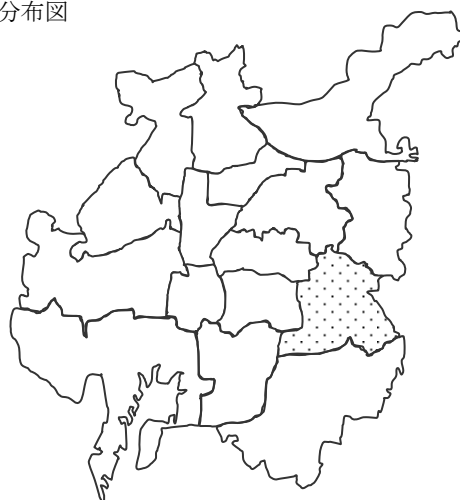
【国内の分布】

北海道南部、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

やや湿った林縁などに分布する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

標本は 2 枚続きで、茎の中上部 80cm ほどのものである。丘陵地の開発により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市では本種が生育できそうな環境が残されておらず、再発見は困難と思われる。

【関連文献】

保草 I pp.153-154, 平草 III p.100.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 シソ科>

ケブカツルカコソウ *Ajuga shikotanensis* Miyabe et Tatew. form. *hirsuta* (Honda) Murata**【選定理由】**

愛知県の丘陵地を特徴づける植物の一つで、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧IB類
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。花茎は単生して直立し、高さ 10～30cm、基部から葉をつけた長い走出枝を出す。根出葉は広倒披針形～倒卵形、長さ 2～5cm、先端は鈍頭、辺縁は少数の波状の鋸歯があり、基部はくさび状に細まって葉柄となる。茎葉は対生し、1～2 対、その上に 5～10 対の苞が続き、腋に仮輪をつくって淡紫色の花をつける。花期は 5～6 月、花冠は唇形、花筒は背面で長さ約 7mm、上唇はごく小さく、下唇は 3 裂して開出する。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（下志段味吉田、鳥居ちゑ子 621, 1994-5-8）、緑区（有松、井波一雄 s.n., 1941-5-6, CBM251395）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊田北西部、みよし、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、小牧、春日井などで確認されている。ただし豊明東郷では絶滅し、このほかにもすでに絶滅した区画があると思われる。刈谷知立で採集された標本もある。

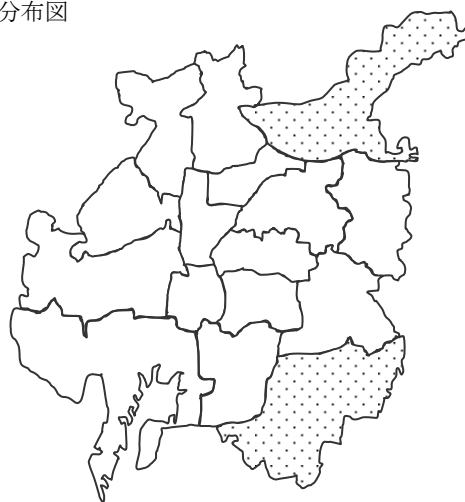
【国内の分布】

種としては南千島（色丹島）と本州に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

日当たりのよいやや湿った草地に生育する。愛知県では、丘陵地の水田のまわりの土手、草の生えた農道など、一昔前の谷戸田景観を象徴するような場所に生育している植物である。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

下志段味では谷戸田のわきの草地に小群落があったが、耕地整理によって草地が削られ、絶滅した。愛知県全体でも、一方で丘陵地の開発による生育地の破壊、他方で谷戸田の放棄による植生遷移の進行により、急激に減少している。水田の周辺にあるため除草剤が散布され、その影響で減少することもある。

【保全上の留意点】

丘陵地の谷戸田は、本種以外にも多くの絶滅危惧生物が生育しており、生物多様性を保全する上で重要性の高い場所である。谷戸田とそこでの農薬を使用しない水稻耕作の価値を、一つの文化遺産として認める必要がある。

【特記事項】

基準品種のツルカコソウ form. *shikotanensis* は全体に毛が少ないもので、愛知県には自生しない。カコソウは夏枯草の意味で、ウツボグサのことである。

【関連文献】

保草 I p.189, 平草 III p.73, SOS 旧版 p.76, SOS 新版 p.82, 愛知県 p.227.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 シソ科>

ミズネコノオ *Eusteralis stellata* (Lour.) Murata

カテゴリー

【選定理由】

低湿地性の水田雑草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧IB類
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

1年生草本。茎は高さ15～50cmで軟らかく、中央付近で多数の枝を出す。葉は3～6枚が輪生し、無柄、葉身は線形で長さ2～6cm、幅2～4mm、先端は鋭頭～鈍頭、辺縁は全縁である。花期は8～10月、茎および枝の先端に、長さ2～5cm、幅4～5mmの穂状の花序をつけ、花を密生する。花冠は白色または淡紅色、長さ約2mm、雄ずいは長さ約3mmで花外に突き出る。

【分布の概要】

【市内の分布】

北区（如意三丁目、鳥居ちゑ子 2397, 2003-10-15）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、新城、豊川、額田、瀬戸尾張旭、江南丹羽、春日井の6区画で確認されている。豊橋北部で採集された標本もあるが、ここでは現在のところ現存を確認できない。

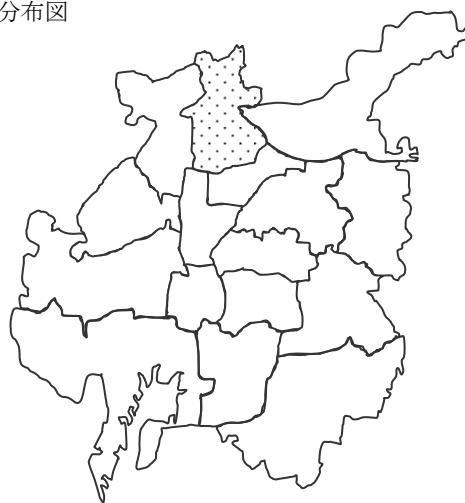
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球（徳之島）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆、東南アジア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

水湿地、湿田、休耕田などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

近年名古屋市内では見られなくなっていた植物であるが、2003年に再確認された。しかしこの場所でも、その後ビルが建てられ、絶滅した。

【保全上の留意点】

本種が生育できるような湿田は、農地改良の結果、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在では逆に、過去の稲作形態を示す文化遺産として、保全の必要性が高くなっている。このような、従来行政的に「退治目標」とされてきた環境の保全は、今後の重要な課題である。

【特記事項】

稲刈り後の水田に生育する個体は、極めて小型の状態でも花をつける。名古屋市産の植物の彩色画は2004年版図版6に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅰp.172, 平草Ⅲp.83, 環境庁p.522, SOS旧版p.76, SOS新版p.138, 愛知県p.409.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 シソ科>

ミズトラノオ *Eusteralis yatabeana* (Makino) Murata

カテゴリー

【選定理由】

低湿地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

多年生草本。茎はやわらかく、横にはう地下茎から立ち上がり、高さ 30～50cm になる。葉は 3～4 個が輪生し、ほとんど無柄、葉身は線形～広線形、長さ 3～7cm、幅 2～5mm、先端は鋭頭、全縁でやわらかい。花期は 8～10 月、茎の先端に長さ 2～8cm の穂状の花序を 1 個つけ、花を密生する。花冠は淡紅色、雄ずいは 4 本で長さ 7～8mm、花外に突き出し、花糸の中部には密に長い毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味才井戸流、芹沢 77000, 2000-10-1）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、新城、豊橋北部、額田、安城、瀬戸尾張旭に生育している。ただし安城は絶滅。このほか豊川で採集された標本もある。

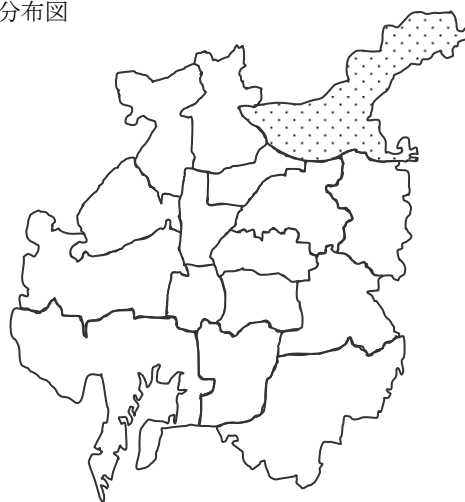
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

水湿地や休耕田に生育し、しばしば群生する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

休耕田の中に小群落があった。耕作が中止されて大形の草本が茂り確認に行けないが、絶滅したと思われる。愛知県全体ではかつては特に東三河南部では多かった植物のようで、秋には道の両側が赤くなるくらいあったというが、耕地整理により山すその水田わきの湿地がなくなり、急激に減少した。強力な除草剤が使用されなくなって一時やや増加傾向にあったが、近年再び減少している。

【保全上の留意点】

休耕田では、一時的に増加しても、休耕状態が継続して植生遷移が進行すればやがて消滅するものと思われる。存続のためには湿地状態を維持すると共に、適度の攪乱が必要である。除草剤の散布を避けることも必要である。

【特記事項】

多年生草本で地下茎が横にはうため、条件がよければ栄養的に繁殖して大きな群落を作る。

【関連文献】

保草 I p.172, 平草 III p.83, 環境庁 p.522, SOS 旧版 p.76+図版 24, SOS 新版 p.138, 愛知県 p.410.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 タヌキモ科>

ノタヌキモ *Utricularia aurea* Lour.

カテゴリー

【選定理由】

水生の食虫植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

水中に浮遊する食虫性の1年生草本。茎は長さ1.5mに達する。葉は互生し、長さ3~8cm、基部で3本の枝に分かれ、更に何回か立体的に分枝し、裂片は細くてやわらかく、多数の捕虫囊をつける。花期は7~10月、花茎は長さ7~20cmで、水面から出て直立し、先端に数個の黄色の花をつけ、花柄は長さ0.5~1.5cmで、花時には細いが、花後下向きに曲がり、先の方が太くなる。果実は両側に突起があり、幅4~5mm、先端に花柱が残存する。殖芽はつけない。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味竈池、飯尾俊介 4, 1964-8-31, 群落の写真は名古屋市公害対策局1990に掲載されている）、千種区（田代町大薮池、井波一雄 s.n., CBM135458; 覚王山、稲垣貫一 s.n., 1937-9, CBM98770）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、田原東部、藤岡、豊田東部、豊田北西部、刈谷知立、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山の9区画で確認されている。ただし刈谷知立では絶滅した。

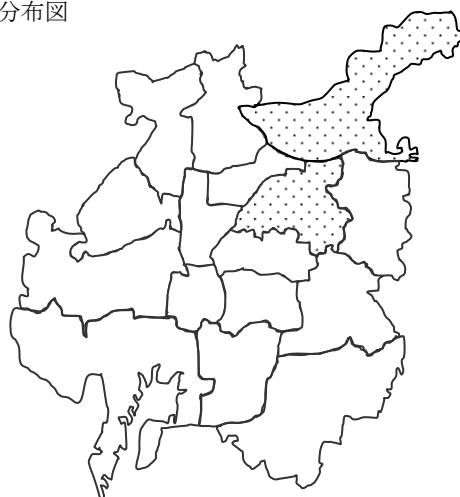
【国内の分布】

本州（関東東地方、新潟県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

東アジアからインド、オーストラリアにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地のため池に生育する。イヌタヌキモと異なり開けた場所にあるため池には少なく、水路や水田にも見られない。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明。水の汚染により絶滅したと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市内では、再発見は困難と思われる。本種に限らず止水性の水草の生育地を確保するためには、ため池の水質を保全する必要がある。

【特記事項】

イヌタヌキモ *U. australis* R.Br.からは、葉が基部から3裂し、裂片が細くてやわらかいことで区別できる。イヌタヌキモは、タヌキモに含めて国リストに掲載されていたことがあるため何かと注目されるが、愛知県では本種の方がイヌタヌキモよりずっと少なく、減少傾向も著しく、保全の必要性が高い。

【引用文献】

名古屋市公害対策局. 1990. 名古屋の淡水生物(2):pl.51. 名古屋市.

【関連文献】

保草 I p.123, 平草 III p.139, 愛知県 p.419.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.149. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.285. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 タヌキモ科>

フサタヌキモ *Utricularia dimorphantha* Makino**【選定理由】**

全国的に減少傾向の著しい水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅
環境省2014	絶滅危惧ⅠB類

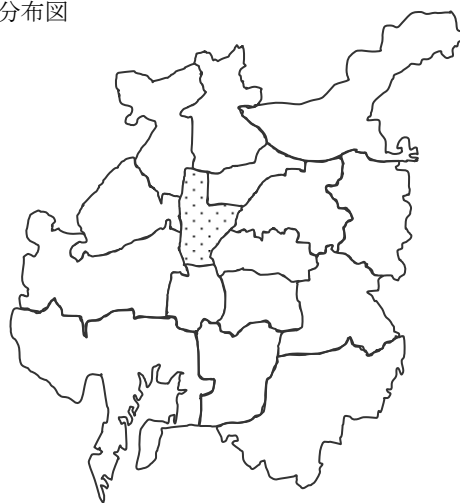
【形態】

多年生の水草。茎は長さ50cmくらいになる。葉は互生し、長さ3～6cm、毛状の裂片に立体的に分裂する。食虫植物であるが、捕虫嚢はわずかにつくだけである。花期は7～9月、通常花と閉鎖花があり、閉鎖花は葉腋に単生して短い柄があり、通常花は水上に伸びた高さ7～15cmの花茎の上部に、3～10花がつく。花冠は黄色で直径約1cm、がくは卵状楕円形で長さ約2mmである。

【分布の概要】**【市内の分布】**

中区（名古屋城堀，中井三従美 22, 1989-8-23）に生育していた。

市内分布図

**【県内の分布】**

名古屋市は県内で唯一の自生地であった。

【国内の分布】

本州（東北地方～近畿地方）。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

平野部の池沼の水中に浮遊する。現存する生育地は全国でも数ヶ所にすぎない。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

1989年に採集された標本があるが、その後見られなくなった。水質の汚濁が絶滅の原因と思われる。全国的には、食虫植物マニアによる採取も深刻と言われている。

【保全上の留意点】

水質が改善されれば、再度出現する可能性も皆無ではない。

【特記事項】

他の日本産のタヌキモ類と異なり、通常花のほか、閉鎖花をつける。学名もこの特徴に基づく。標本写真は、SOS旧版 p.82 に掲載されている。

【関連文献】

保草 I p.122, 平草 III p.139, 環境庁 p.176, SOS旧版 p.82, 愛知県 p.63.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.152. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.289. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 タヌキモ科>

ミカワタヌキモ *Utricularia exoleta* R.Br.

カテゴリー

【選定理由】

全国的に減少傾向の著しい水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

多年生の食虫性水草。茎は糸状で泥上をはい、捕虫囊をつけた地中葉で固着するが、水中を浮遊することもある。水中葉はまばらに互生し、長さ1cm程度、1～5個の裂片に分裂し、まばらに捕虫囊をつける。裂片は幅0.1～0.2mmである。花期は8～9月、高さ5～8cmの花茎を水上に伸ばし、1～3花をつける。花冠は黄色で直径5～6mm、距は前向きで下唇と同長かやや長く、がくは長さ約2mmである。殖芽は形成しない。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（田代町、井波一雄 s.n., 1937-8-18, CBM195716）、緑区（鳴海町滝の水、浜島繁隆 1075, 1968-11-2）に生育していた。

【県内の分布】

豊田北西部、瀬戸尾張旭、日進長久手、半田武豊の4区画で確認されている。ただし瀬戸尾張旭では見られなくなり、半田武豊ではごく最近の状況が確認されていない。岡崎南部と刈谷知立で採集された標本もあるが、これらの区画では現存を確認できない。

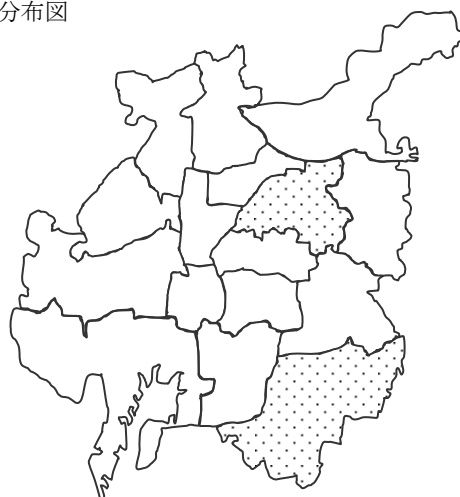
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾からインド、オーストラリア、アフリカにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

浅い池沼に生育する。愛知県の生育地は、いずれも人里に近い丘陵地のため池である。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

緑区では宅地造成により生育地が破壊され、絶滅した。

【保全上の留意点】

再発見できる可能性は低い、皆無というわけでもない。今後のことを考えると、外来のタヌキモ類を移入しないことが重要である。本種の場合は特に、オオバナイトタヌキモ *U. gibba* L. に対して注意が必要である。

【特記事項】

植物体が糸状で繊細なため、イトタヌキモとも呼ばれる。オオバナイトタヌキモは花が大きく、直径約1cmあるもので、愛知県では半田武豊、常滑、名古屋南東部などに帰化している。本種を、オオバナイトタヌキモの亜種とする見解もある。

【関連文献】

保草 I p.122, 平草 III p.139, 環境庁 p.346, SOS 旧版 p.82, SOS 新版 p.127, 愛知県 p.236.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.153. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.292. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 タヌキモ科>

コタヌキモ *Utricularia intermedia* Heyne**【選定理由】**

湧水湿地性の食虫植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生の食虫性水草。茎は泥上をはい、多数の捕虫囊をつけた地中葉で固着する。水中葉は互生して重なり合い、長さ1cm程度、二叉状に分岐して扇形となり、捕虫囊はなく、裂片は幅0.3～0.6mmで辺縁に鋸歯がある。花期は6～9月、高さ5～15cmの花茎を水上に伸ばし、1～5花をつける。花冠は黄色で直径12～15mm、距は前向きで下唇とほぼ同長、がくは長さ約3mmである。秋には茎の先端に直径3～8mmの球状～楕円状の殖芽を作り、越冬する。

【分布の概要】**【市内の分布】**

千種区（田代町竹下、井波一雄 s.n., 1937-8-18, CBM233671）、天白区（天白町八事、浜島繁隆 1078, 1968-8-25）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか豊川、豊橋南部、田原東部、藤岡、犬山で採集された標本があるが、現存が確認されているのは犬山だけである。豊橋市の葦毛湿原にも生育しているが、これは移入されたものである。

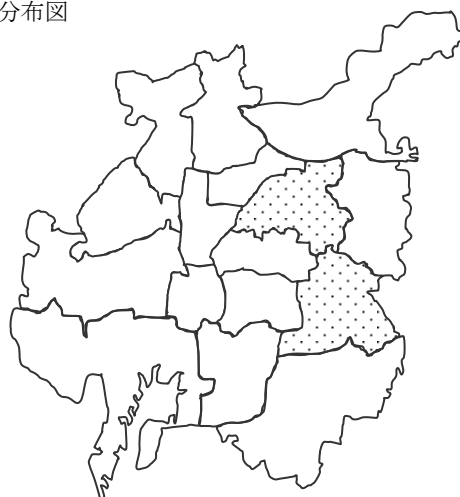
【国内の分布】

北海道、本州（三重県以北）、九州（大分県）。

【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

浅い池沼に生育する。愛知県の生育地は、いずれも湧水湿地中の浅い水たまりであった。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。

【保全上の留意点】

本種の生育できそうな湿地は、名古屋市内ではもはや残存していない。再発見は困難と思われる。

【特記事項】

愛知県では、まだ開花は確認されていない。葦毛湿原のものは、原産地も不明であり、本来は除去が望ましい。湿地はどこも同じではない。ないものは「ない」のがその湿地の個性であり、その「ない」という状態を壊す移入は、基本的には自然破壊行為である。

ヒメタヌキモ *U. minor* L.は、森林公園の尾張旭市側で採集された標本はあるが、名古屋市側では発見されていない。

【関連文献】

保草 I p.122, 平草 III p.139, SOS 旧版 p.83, 愛知県 p.58.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.152. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.290. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 タヌキモ科>

ヒメミミカキグサ *Utricularia minutissima* Vahl

カテゴリー

【選定理由】

湧水湿地性の食虫植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	絶滅危惧ⅠB類

【形態】

多年生の食虫性草本。地下茎は糸状で、まばらに捕虫囊をつける。地上葉は線形、長さ 1~3mm である。花期は8~10月、花茎は直立し、高さ 1~3cm、1~3花をつける。がくは長さ約 1mm、裂片は円形で花後も大きくならない。花冠は淡紅色で直径 2~2.5mm、距は前向きで下唇より長い。蒴果は長さ約 1mm、がくとほぼ同長である。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑区（鳴海町滝の水湿地、芹沢 30792, 1979-11-11）に生育していた。写真は浜島（1979）に掲載されている。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋南部、豊田北西部、瀬戸尾張旭（絶滅）、長久手日進、豊明東郷、半田武豊で確認されている。ただし武豊の老町田湿地以外は、どこも危機的である。

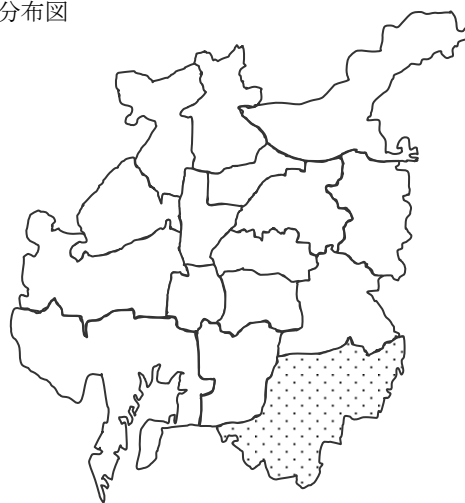
【国内の分布】

本州中部（愛知県、三重県）。

【世界の分布】

日本からインド、オーストラリアにかけて分布している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の、裸地状の場所に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

狭い範囲であるが、比較的多くの個体が生育していた。宅地造成により生育地が破壊され、絶滅した。

【保全上の留意点】

名古屋市内では、本種の生育できそうな湿地が残存していない。再発見は困難と思われるが、小規模な崖地状の湿地に生育している例もあるので、更に注意して探索する必要がある。

【特記事項】

とにかく小さい植物で、地面をはうようにして探さないとなかなか発見できない。通り一遍の調査ではまず見落としてしまうので、調査時には特に注意が必要である。

【引用文献】

浜島繁隆, 1979. 失われゆく滝の水（名古屋市）の小湿原. 植物と自然 13(12):56-57.

【関連文献】

保草Ⅰ p.121, 平草Ⅲ p.138, 環境庁 p.346, SOS 旧版 p.83+図版 19, SOS 新版 p.106, 愛知県 p.237.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キキョウ科>

ツルニンジン *Codonopsis lanceolata* (Sieb. et Zucc.) Trautv.**【選定理由】**

やや山地性の植物で、名古屋市では生育していたという記録はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

つる性の多年生草本。根は塊状にふくらむ。茎は長さ2～3mに伸び、切ると白い乳液が出る。葉は互生するが、側枝の先には通常3～4枚が集まり、短い柄があり、葉身は楕円形～長卵形、長さ3～10cm、先端は鈍頭または鋭頭、基部はくさび形、辺縁はほぼ全縁、裏面は粉白色を帯び、通常無毛であるが、白毛が多いものもある。花期は8～10月、花は側枝の先に下向きにつき、花冠はつりがね状、長さ25～30mm、淡紫褐色で内面に濃色の斑点がある。がくは5裂し、裂片は広披針形、長さ15～25mmである。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区で撮影された写真が、安原（1990）に掲載されている。標本資料が残されておらず、葉裏の毛の有無はわからない。

【県内の分布】

山地に点在している。尾張では葉裏無毛のものが瀬戸尾張旭、長久手日進、美浜南知多、犬山、有毛のものが瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育している。

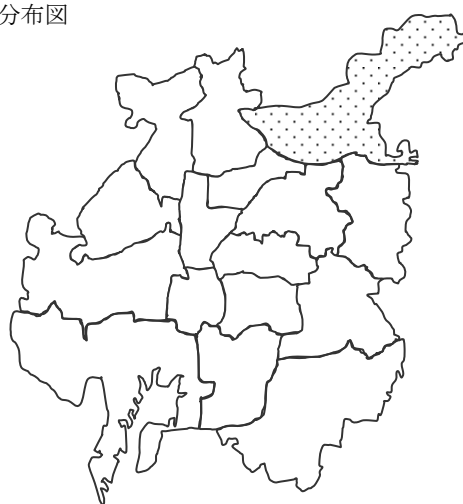
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー、アムール。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地の林縁などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。

【保全上の留意点】

ていねいに調査すれば、再発見の可能性も残されている。

【特記事項】

和名はつる植物で、根がチョウセンニンジンに似て太いからである。全体に臭気がある。

【引用文献】

安原修次. 1990. なごや野の花 p.129. エフエー出版, 名古屋.

【関連文献】

保草 I p.150, 平草 III p.92.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

ヒメシオン *Aster fastigiatus* Fisch.**【選定理由】**

湿草に生育する植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は直立し、上部で分枝し、高さ30～100cmになる。葉は互生し、葉身は線状披針形または披針形、下部のものは長さ5～12cm、幅4～15mmで有柄、両端は次第に狭くなり、辺縁には低い鋸歯がある。上部の葉は次第に小さくなる。花期は8～10月、茎の先端に多数の頭花を散房状につけ、頭花は直径7～9mm、3～8mmの柄があり、総苞は筒状、長さ約4mmである。舌状花は1列に並び、白色である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

千種区（光ヶ丘、犬飼 清 s.n., 1968-9-1）、中村区（日比津庄内川、鈴木釘次郎 s.n., 1905-9-5, CBM208072）に生育していた。

【県内の分布】

新城、豊川宝飯、豊橋北部、安城、高浜碧南、常滑、美浜南知多、犬山の8区画で確認されているが、一部の区画ではすでに絶滅していると思われる。

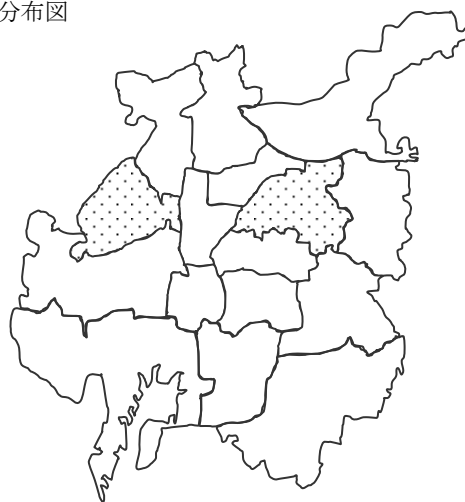
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆、ダフリア。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

川岸や堤防などの湿った日あたりのよい草に生育する。特に自然度の高い場所に限定されるわけではないが、それでいて生育地も個体数も少ない植物である。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。都市化の進行により、生育地が破壊されて絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

再発見の可能性は皆無ではない。本種の生育可能地を確保するためには、地形の改変を避けると共に、将来とも草刈り等の適切な管理を継続することが必要である。

【特記事項】

和名がヒメジョオンに似ているため情報が混乱することがあり、注意が必要である。

【関連文献】

保草Ⅰp.82, 平草Ⅲp.196, 愛知県p.424.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

ヤマジノギク *Aster hispidus* Thunb.**【選定理由】**

草地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、また減少傾向が著しい。名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	リスト外

【形態】

越年生草本。茎はよく分枝し、高さ30～100cmになる。根出葉は倒披針形で長さ7～13cm、幅10～15mm、開花時には枯れる。茎葉は互生し、倒披針形から線形、長さ5～7cm、幅4～20mm、基部はしだいに細くなる。上部の葉は小さく、線形になる。花期は9～11月、頭花は枝の先に散房状に集まってつき、直径3.5cm程度、総苞は長さ7～8mmで、総苞片は2列にならぶ。舌状花は淡青紫色でごく短い白色の冠毛があり、筒状花は長さ3.5～4mmの帯赤褐色の冠毛がある。そう果は扁平で、長さ7～8mmである。

【分布の概要】**【市内の分布】**

瑞穂区（玉水町、稲垣貫一 s.n., 1947-10-20, CBM101395, 写真は2010年版図版1図2）で採集された標本がある。

【県内の分布】

1985年以降では、鳳来南部、新城、豊川、田原東部、田原西部、稲武、足助の7区画で確認されている。ただしこれらのうちかなりの場所では、すでに絶滅している可能性が高い。最近10年間では、鳳来南部でみただけである。尾張では名古屋市の上記標本のほか、美浜南知多（内海）で1979年に採集された標本があるが、近年の生育は確認されていない。

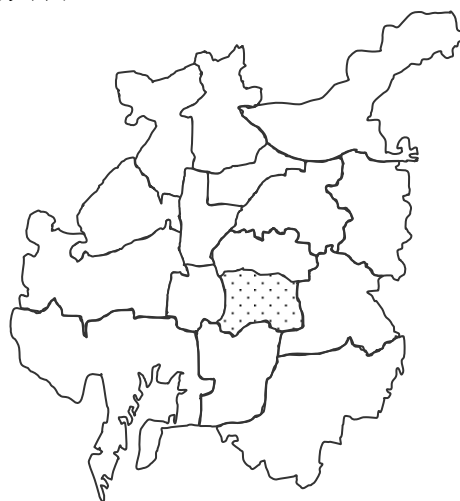
【国内の分布】

本州（伊豆半島以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地の日あたりのよい草地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明であるが、草地環境の消失により絶滅したと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市内では生育可能な環境がほとんど残されておらず、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

アレノギクとも呼ばれるが、攪乱地であってもそれなりに自然度の高い場所に生育していることが多いから、和名としては「ヤマジノギク」の方が適切である。新城や豊橋北部の超塩基性岩地には、葉も枝も著しく細い変種のヤナギノギクが生育している。

【関連文献】

保草Ⅰp.84, 平草Ⅲp.199, SOS 新版 pp.54,56, 愛知県 p.115.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

コヤブタバコ *Carpesium cernuum* L.**【選定理由】**

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は高さ 50～100cm となり、枝を開出する。根出葉は花期には枯れる。茎葉は互生し、下部のものには広い翼のある柄があり、葉身は長楕円形、長さ 7～20cm、両面に軟毛があり、辺縁には不ぞろいな低い鋸歯がある。花期は7～9月、枝先に点頭した緑白色の頭花をつけ、その基部には線状披針形の苞が多数ある。頭花は直径 15～18mm、総苞は碗状で長さ 7～8mm、総苞はすべてほぼ同長、外片先端は小さい葉状となり反曲する。

【分布の概要】**【市内の分布】**

天白区（御幸山公園、渡邊幸子 1282, 1993-9-16, NBC773）に生育していた。

【県内の分布】

山地に点在するが、あまり多いものではない。尾張では名古屋市のほか、長久手日進、美浜南知多、犬山で確認されている。

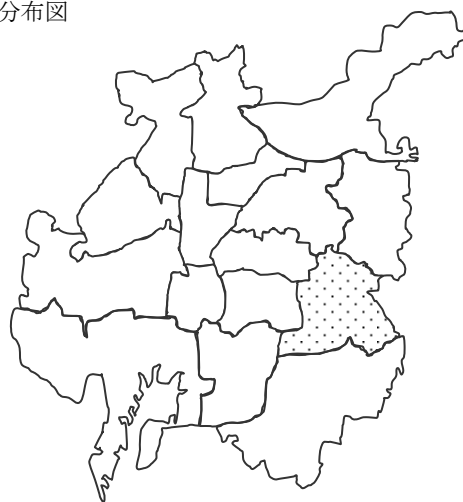
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、インドシナ、シベリア。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地の林縁や林内に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

御幸山公園に少数株が生育していたが、消失した。遷移の進行が原因と思われる。

【保全上の留意点】

残存緑地の里山的環境を、適切な管理のもとに保全することが必要である。過度の攪乱は困るが、全く放置しても里山的環境は維持できない。

【関連文献】

保草 I pp.71-72, 平草Ⅲp.202.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

リュウノウギク *Dendranthema japonicum* (Makino) Kitam.**【選定理由】**

里草地に多い植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は高さ 40～80cm になり、まばらに分枝する。葉は互生し、短い柄があり、葉身は卵形または広卵形、長さ 4～8cm、下部の葉は3深裂し各裂片は更に浅裂するが、中上部の葉は通常3中裂、先端は鈍頭、基部はくさび形、表面は緑色で短毛があり、裏面は毛が密生して灰白色となる。花期は10～11月、頭花は細い枝先に1個ずつつき、直径 2.5～5cm、舌状花は白色である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

緑区（鳴海町笹塚、渡邊幸子 1404, 1993-10-20, NBC777）に生育していた。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には広く分布する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、小牧に生育している。

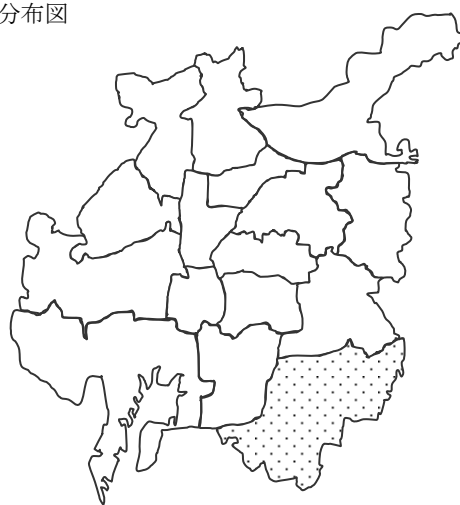
【国内の分布】

本州（福島県・新潟県以西）、四国、九州（宮崎県）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地の林縁や崖地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

みどり丘公園近くの愛知用水わきに生育していたが、土手の改修により絶滅した。

【保全上の留意点】

幹線水路わきの草地は、管理の都合上定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で草地性植物のよい生育場所になっている。改修の際には、これらの植物の生育場所を奪わないよう、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

名古屋市内に生育していた唯一の野生菊で、秋遅く開花する。和名は、茎や葉の香りが龍腦に似ているからである。

【関連文献】

保草 I p.60, 平草 III p.166.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

アキノハハコグサ *Gnaphalium hypoleucum* DC.**【選定理由】**

全国的に減少傾向の著しい草地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	絶滅危惧ⅠB類

【形態】

1年生草本。茎は直立して上部で分枝し、高さ40～100cm、白い綿毛がある。葉は多数ついて互生し、披針形、長さ3～6cm、幅2.5～7mm、表面は緑色、裏面は白い綿毛があり、基部は茎を抱く。花期は9～10月、頭花は茎の先端部に散房状に密集してつき、黄色、総苞は長さ約4mm、小花はすべて筒状花である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

千種区（東山公園、稲垣貫一 s.n., 1936-10, CBM115188）で採集された標本がある。

【県内の分布】

東三河北部の山地に点在するが、稀である。以前は西三河の低山地にも点在していたらしい。しかし尾張では、上記標本が唯一の資料である。

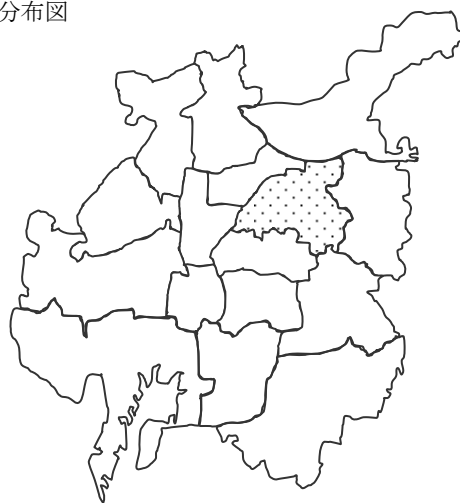
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア、インド。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地のやや乾いた日当りのよい場所に生育する。しばしば道路わきの崖状地に生育している。名古屋市でもおそらくは同様の場所に生育していたものと思われる。どうということのない場所に生育しているが、それでいてなかなか見ることができない植物である。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

標本は高さ60cmほどの個体である。森林化の進行に伴う草地の減少により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

尾張における現在の分布状況から見て、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

ハハコグサも秋に開花することがあるが、それからは全体に大型で茎の上部で分枝し、葉が多数つき、表面が緑色であることで区別できる。ハハコグサは茎の下部で分枝することはないが、茎の上部で大きく分枝することはない。

【関連文献】

保草Ⅰ pp.73-74, 平草Ⅲ p.207, 環境庁 p.357, SOS 旧版 p.87, 愛知県 p.425.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

カセンソウ *Inula salicina* L. var. *asiatica* Kitam.**【選定理由】**

草地性の植物で、名古屋市では過去の記録はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 50～80cm になる。葉は互生し、長楕円形～長楕円状披針形、長さ 4～8cm、先端は鋭頭、基部は茎を抱き、質はやや硬く、脈が目立つ。花期は 7～9 月、頭花は分枝した枝端に 1 個ずつ上向きにつき、基部に苞葉があり、黄色、直径 3.5～4cm である。総苞は半球形、総苞片は外側のものほど短く、白緑色、先端は緑色で多少なりとも葉状に開出し、辺縁以外は無毛である。そう果は長さ約 1.5mm、無毛、冠毛がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区の愛知用水沿いで撮影された写真が、安原（1990）に掲載されている。標本資料は残されていない。

【県内の分布】

豊川、豊橋北部、長久手日進、東海知多、半田武豊、常滑で確認されているが、半田武豊と常滑では絶滅し、おそらく東海知多でも同様である。

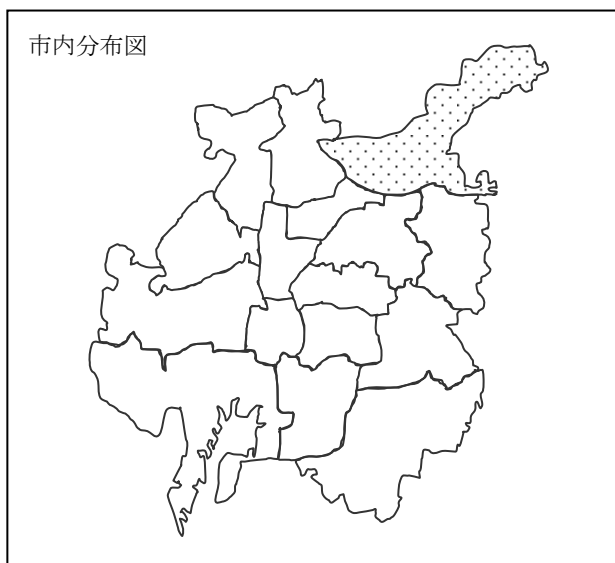
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア。基準変種は茎に毛が少ないもので、ヨーロッパからシベリア西部にかけて分布している。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

日あたりのよい乾いた草地に生育する。「湿地に生育する」と書かれている文献もあるが、通常湿地には生育しない。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

小群落があったというが、用水の改修工事により絶滅した。愛知県の他の生育地も、多くは幹線用水路わきの草地であり、改修によって次々と消滅した。愛知用水の改修に際して、生物多様性の保全における草地の重要性を十分意識していなかったことが絶滅の原因であり、この経験を今後の施策に生かす必要がある。

【保全上の留意点】

愛知用水などの幹線用水路わきの草地は、管理上の理由で定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で、多くの草地性植物の逃避地になっている。水路の改修にあたっては、このような植物の最後の生育場所を奪わないよう、特に配慮が必要である。

【特記事項】

オグルマ *I. britanica* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam. はやや湿った草地に生育し、葉が薄く、そう果の表面に毛がある。

【引用文献】

安原修次. 1990. なごや野の花 p.87. エフエー出版, 名古屋.

【関連文献】

保草Ⅰ p.70, 平草Ⅲ p.203, SOS 旧版 p.87, 愛知県 p.427.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

オナモミ *Xanthium strumarium* L.

カテゴリー

【選定理由】

愛知県では極めて希少で、全国的にも減少傾向の著しい人里植物。名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

大型の1年生草本。茎は高さ1m以上になるが、愛知県に現存するものは30cm程度である。葉は互生し、長さ4~10cmの柄があり、葉身は卵状三角形~卵状五角形、長さ6~15cm、浅く3~5裂し、基部は心形、辺縁には不揃いな欠刻状の鋸歯がある。花期は8~9月、頭花は単性で、雄頭花は葉腋から出る短い円錐花序につき、雌頭花はその基部につく。果期の雌頭花は楕円形のいが状になり、先端に2個の嘴があり、嘴を含めて長さ10~15mm、表面は毛が多く光沢がない。いがの周囲の刺はオオオナモミに比べてまばらで短く、長さ1.5~2mmである。

【分布の概要】

【市内の分布】

南区（富部、井波 一雄 s.n., 1979-11, CBM204341, 写真は2010年版図版1図3）で採集された標本がある。

【県内の分布】

現存しているのは美浜南知多の1ヶ所のみである。過去の記録としては、名古屋市のほか新城（1940年）、豊橋南部（1942年）、渥美（1963年）で採集された標本が残されている。

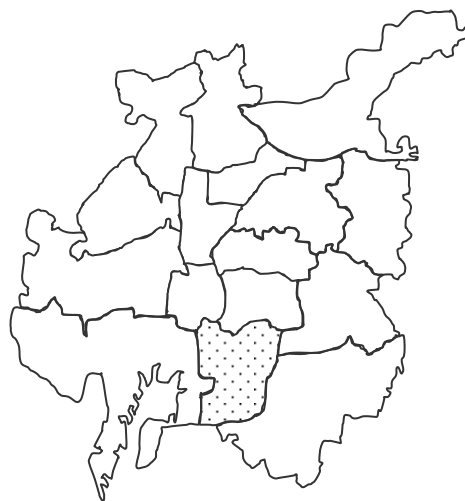
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。かつては全国各地の路傍等に普通に見られたというが、現在では容易に見ることができない植物である。古い時代にアジア大陸から帰化したものという説もある。

【世界の分布】

ユーラシア大陸に広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

路傍、空き地などの攪乱地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明であるが、近縁の帰化種であるオオオナモミとの直接競合や交雑により絶滅したと思われる。

【保全上の留意点】

全国的な状況から見て、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

愛知県ではしばらく現存が確認できなかったが、2006年に小林元男氏によって再発見された（小林・深谷2008）。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 pp.209, 266. 佐久島会, 刈谷.

【関連文献】

保草Ⅰ p.89, 平草Ⅲ p.160, 愛知県 p.250.
長田武正. 1976. 原色日本帰化植物図鑑 pp.84-85. 保育社, 大阪.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 スイカズラ科>

オトコエシ *Patrinia villosa* (Thunb.) Juss.**【選定理由】**

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。長い走出枝を出し、その先に新株をつくる。茎は高さ 60～100cm、全体に毛が多い。葉は対生し、下部のものには柄があり、葉身は頂小葉が著しく大きい羽状に深裂するか、または裂けずに鈍鋸歯縁となる。花期は 8～10 月、枝先に上部がほぼ平らの集散花序を散房状につける。花は多数つき、白色、花冠は 5 裂し、直径約 4mm、距はない。果実は倒卵形で長さ 2～3mm、小苞が発達した円心形の翼がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

天白区（御幸山、渡邊幸子 s.n., 1980-9-7）に生育していた。守山区にもあったが、標本資料を採取しないうちに消滅してしまった。

【県内の分布】

山地には普通に見られるか、丘陵地では少ない。尾張では瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、春日井に生育している。

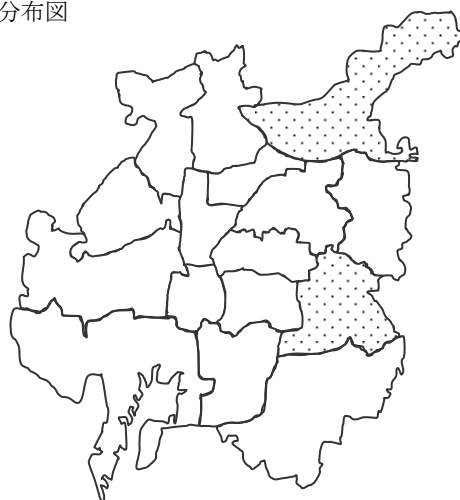
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球（奄美）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地の林縁や攪乱跡地などに生育する。オミナエシと異なり、定期的に草刈りが行われる草地に依存する植物ではない。山地ではオミナエシよりずっと多いが、丘陵地では逆にオミナエシよりずっと少ない。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

天白区では林の間の道沿いに数株生育していた。守山区では丘陵地の中の広場状の場所に数株生育していた。どちらの場所でも土地造成により生育地が破壊され、絶滅した。

【保全上の留意点】

再発見できる可能性は低い、皆無ではない。

【特記事項】

腐った豆腐のような悪臭があるため、中国では「敗醬」と呼ばれる。和名はオミナエシに似て強壮だからである。

【関連文献】

保草 I p.102, 平草 III p.104.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <小葉類 ミズニラ科>

ミズニラ *Isoetes japonica* A.Braun

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1。水のきれいなため池や谷戸田などに生育する植物で、名古屋市内では生育できる場所が著しく減少している。現存は確認できないが、まだ残存している可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧ⅠA類相当と評価した。

【形態】

夏緑性の水草。塊茎は直径 2～3cm になるが名古屋市で近年採集されたものは 1cm 程度、中心から放射状に出る 3 条の溝で浅く 3 分する。葉は束生し、円柱状、通常長さ 15～30cm になるが名古屋市に現存するものは 10～15cm、先端は次第に細くなる。葉の基部は広がり、胞子のうをつける。胞子には雌性の大胞子と雄性の小胞子がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（猪高緑地、芹沢 77437, 2001-6-9）に生育していた。かつては市内の丘陵地に点在していたと思われるが、標本資料は残されていない。

【県内の分布】

東三河では比較的多いが、西三河では現在のところ確認されていない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山（絶滅）、春日井で確認されている。

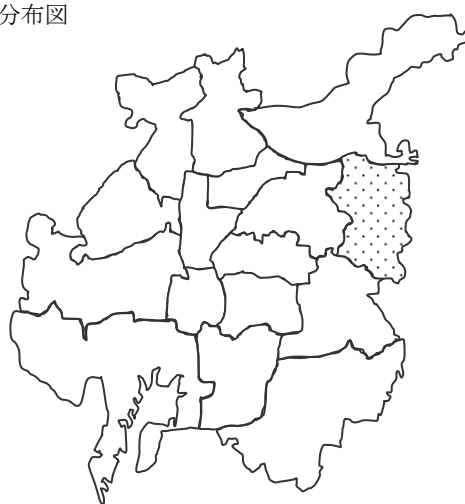
【国内の分布】

本州全域と四国北部。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

貧栄養の湖沼やため池、水路、水田などに生育する沈水～湿生植物。名古屋市では、ため池の岸の水湿地に抽水～陸生状態で生育している。県内では、ため池や流れのゆるやかな水路の水中に沈水状態で生育している場合や、休耕田などに生育している場合がある。

【現在の生育状況／減少の要因】

丘陵地の開発や除草剤の使用により減少し、現在の状態に至ったと思われる。猪高緑地では、個体数は少なく、生育状態もよくなかった。ここ 5 年以上、生育を確認できないため、すでに絶滅している可能性もある。

【保全上の留意点】

水質の維持が必要である。

【特記事項】

目立ちにくい植物で花のないホシクサ類に似ているので、調査の際には特に注意を要する。

【関連文献】

保シダ p.21, 平シダ p.56, 環境庁 p.419, SOS 旧版 p.36+図版 23, SOS 新版 p.115, 愛知県 p.502.
倉田 悟・中池敏之（編）. 1985. 日本のシダ植物図鑑 4:84-88. 東京大学出版会, 東京.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.8. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.20. 文一総合出版, 東京.

（執筆者 中村 肇）

維管束植物 <シダ植物 ヒメシダ科>

ツクシャワラシダ *Thelypteris hattorii* (H.Itô) Tagawa var. *nemoralis* (Ching) Sa.Kurata

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 3、固有度補正+1、総点 17。日華区系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。名古屋市では生育地も個体数も少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は短くはい、先端に少数の葉をつける。葉柄は長さ 17～45cm、表側に単細胞の短毛があり、裏側は無毛である。葉身は三角状長卵形、3 回羽状浅～中裂、長さ 23～50cm、幅 18～30cm、最下羽片には短い柄があることが多いが、無柄のこともある。孢子のう群はやや辺縁よりにつき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味穴ヶ洞、芹沢 83276, 2008-9-13）。

【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来北東部、鳳来北西部、作手、豊橋北部、犬山に生育している。隣接する岐阜県美濃地方には点在する。

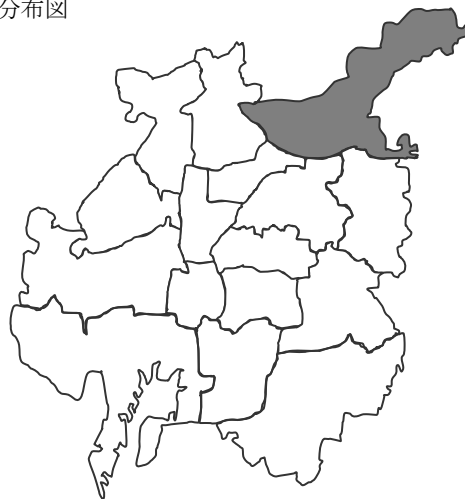
【国内の分布】

本州（愛知県、岐阜県、奈良県、広島県）、四国（愛媛県）、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

腐植質の多い林床に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、アイグロマツ造林地の林内にごく少数が生育している。開発や森林の伐採により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地は名古屋市としてはシダ植物の多い場所で、本種のほかにもシノブ、ヒメワラビ、オシダ、イワヘゴなどが生育している。生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

ヨコグラヒメワラビ var. *hattorii* とヤワラシダ *T. laxa* (Franch. et Sav.) Ching 低地型の中間のような形状をしており、時にヤワラシダ低地型の葉の切れ込みが深い個体とまぎらわしくなることがある。ヨコグラヒメワラビは深山性の植物で、低山地や丘陵地には生育していない。

【関連文献】

平シダ p.213, 愛知県 p.319.

倉田 悟・中池敏之（編）. 1983. 日本のシダ植物図鑑 3:582-585. 東京大学出版会, 東京.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 裸子植物 イチイ科>

カヤ *Torreya nucifera* (L.) Sieb. et Zucc.**【選定理由】**

個体数階級4、集団数階級4、県内分布1。名古屋市ではただ1株が残存しているだけで、定性的に絶滅危惧ⅠA類と評価した。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

常緑性の高木。高さ25mに達する。樹皮は灰褐色～赤褐色で、浅く縦裂する。葉は2列に並び、線形、長さ20～30mm、幅2～3mm、先は鋭く触れると痛い。裏面には白色の気孔帯が2条ある。花期は4～5月、雌雄異株で、雄花は前年枝に多数つき、長楕円形で長さ約1cm。雌花は前年枝の先に数個つき、うち1個が翌年の10月に熟す。種子は倒卵状楕円形、長さ20～30mm、幅10～15mm、はじめ緑色、のち紫褐色になる仮種皮に包まれる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

中区名古屋城（芹沢 78088, 2002-9-14, 剪定された枝を拾ったもの）に築城以前からあったと伝えられる古木が1株あり、国指定の天然記念物として保護されている。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には多いが、丘陵地では少ない。尾張では名古屋市のほか瀬戸尾張旭と犬山に、現在も自生のものが生育している。

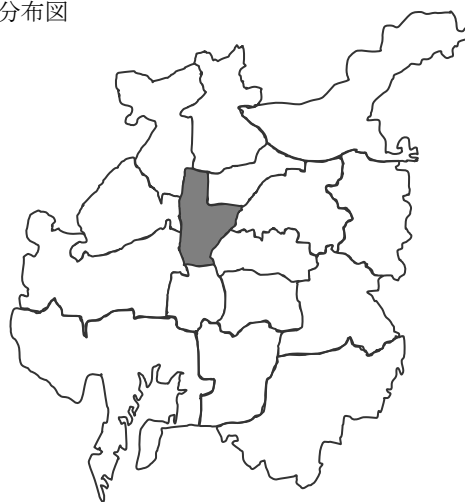
【国内の分布】

本州（宮城県以南）、四国、九州。南限は屋久島である。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

通常は山地の沢沿いなどに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

自生と伝えられているが、現在は庭園樹状態になっており、「野生絶滅」と判定の方が適切かもしれない。戦災で半分以上焼けたが、その後回復し、現在も樹勢は良好である。

【保全上の留意点】

天然記念物に指定されており、現在の管理を継続すればそれで十分である。

【特記事項】

名古屋城築城時に現在の名古屋市域に生育していたが絶滅してしまった植物は、他にもたくさんあると思われる。本種は記録が残されているためレッドデータブックに掲載したが、もし記録がなければ、名古屋市の自生植物リストから除外されたはずである。

【関連文献】

保木Ⅱ pp.452-453, 平木Ⅰ p.25.

愛知県教育委員会社会教育課. 1968. 天然記念物（植物）緊急調査報告 68pp. 同委員会.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 初期分岐群 ジュンサイ科>

ジュンサイ *Brasenia schreberi* J.F.Gmel.

カテゴリー

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1。水のきれいなため池に生育する植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。現存は確認できないが、再出現の可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧 I A 類相当と評価した。

名古屋市2015	絶滅危惧 I A 類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生の水草。根茎は底土中をはい、節から水中茎を伸ばす。浮葉は細長い葉柄の先に楕形につき、葉身は楕円形で長さ 5~15cm、幅 3~8cm、裏面は赤紫色がかかる。若芽や葉柄、葉の裏側は粘液に被われる。花期は 6~8 月、花は葉腋から出た長い柄の先端につき、直径 1.5cm、暗褐色。がく片と花弁は 3 枚ずつ 2 列に並び、ともに長楕円形、長さ 12~14mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区(上志段味東谷無名池、鈴木 淳 311, 1993-8-22)、名東区(猪高緑地塚ノ冨池、堀田 時子 s.n., 2009-8-23, NBC467 など) に生育していた。

【県内の分布】

丘陵部のため池に点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、常滑、春日井で確認されている。ただし、人為的に持ち込まれた場所も多いと思われ、どこまでが真の自然分布かははっきりしない。

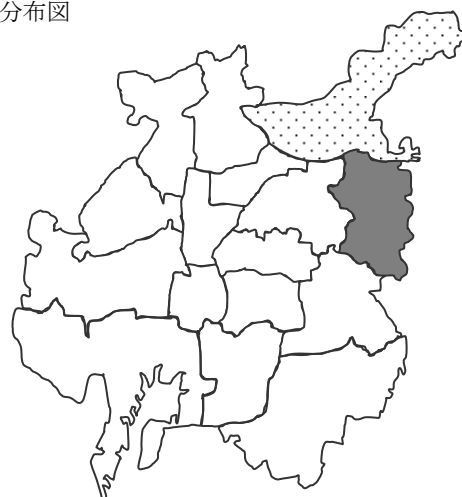
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

北アメリカからオーストラリア、アフリカにかけて広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

腐食栄養または貧〜中栄養の湖沼やため池に生育する浮葉植物。

【現在の生育状況／減少の要因】

名東区(猪高緑地塚ノ冨池)においては、2011 年に行われた改修工事に伴う水位の減少によって消滅し、2012 年以降は生育を確認できなくなった。ただし、埋土種子が残存していると思われるため、適切な攪乱によって再度出現する可能性が残されている。

【保全上の留意点】

生育地のため池の水質を維持する必要がある。また改修の際には一時退避させるなど慎重な配慮が必要であったと思われる。さらに水面を覆うように繁茂し本種を圧迫していたスイレンの継続的除去も必要である。

【特記事項】

若芽は吸い物の実や酢の物として賞味される。

【関連文献】

保草Ⅱ pp.250-251, 平草Ⅱ p.93.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.108. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.37. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 初期分岐群 スイレン科>

オニバス *Euryale ferox* Salisb.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級3、集団数階級4、生育環境階級3、人為圧階級3、
県内分布4、総点17。全国的にも減少傾向の著しい植物で、絶
滅に瀕している水草の代表的な存在である。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

1年生の水草。茎は塊状で葉を束生する。植物体全体に鋭い刺がある。ときには2mを超えるような大きな水上葉をつけるが、名古屋市に現存するものは30~40cm程度で、稀に70cm程になる。水上葉にはしわがあり、裏面は鮮やかな赤紫色で葉脈が浅状に隆起し、両面の脈上に鋭い刺がある。葉身は楕円の円形。花には水中で自家受粉して結実する閉鎖花と、水上に出て開花する開放花がある。花期は8~10月、花は直径4cmくらいで、長い花茎に頂生し、昼に開き、夜に閉じる。がく片は4枚、外側は緑色で刺があり、内側は紫色。花弁は紫色で多数。果実は鋭い刺のある楕円形で長さ5~13cm、幅5~10cm。

【分布の概要】

【市内の分布】

中区（名古屋城外堀、中村 肇 172, 2012-11-13, NBC705, 芹沢 89695, 2014-9-29, 表紙写真など）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市以外では、大府東浦（飛山池）と田原東部（芦ヶ池）で採集された標本があるが、どちらの場所でも現存を確認できない。大府東浦では域外保全された個体由来する種子の播種によって僅かに生育している場所がある。

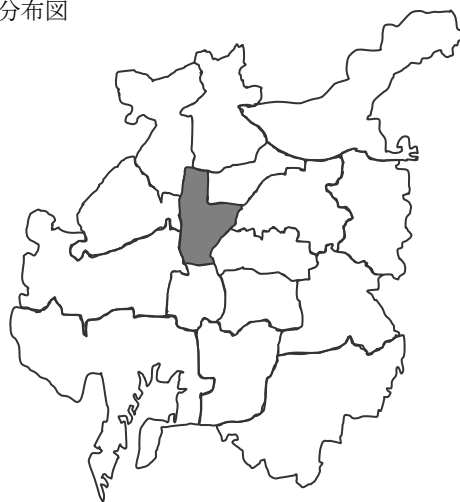
【国内の分布】

本州（宮城県以南）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、インドなど。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

やや富栄養化した湖沼やため池、河川などに生育する浮葉植物。

【現在の生育状況／減少の要因】

2012年に再確認され、名古屋城外堀北東部のヨシ帯付近で僅かに生育している。野鳥への給餌などによる水質汚濁、コブハクチョウやミシシippアカミミガメ、コイなどによる食害が懸念される。

【保全上の留意点】

種子の休眠期間が長いことから、名古屋城外堀において適切な攪乱があれば、北東部以外の場所からも出現する可能性が残されている。生育地の水質を維持するとともに、改修の際には慎重な配慮が必要である。また、生育期には急激な水位変動を避けるべきである。

【特記事項】

とげだらけで、かつては駆除に苦労した水草であつたらしい。

【関連文献】

保草Ⅱp.253, 平草Ⅱp.95, 環境庁 p.453, SOS 旧版 p.51+図版 20, 愛知県 p.89.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.109. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.39. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 初期分岐群 モクレン科>

シデコブシ *Magnolia stellata* (Sieb. et Zucc.) Maxim.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 4、
県内分布 1、補正+2（固有）、総点 16。本地域を代表する固有
種であるが、名古屋市では生育地が少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

夏緑性の小高木または低木。高さは5m くらいものが多いが、時には10m に達する。葉は互生し、長さ2~5mm の柄があり、葉身は長楕円形または倒披針形、長さ5~10cm、幅1~3cm、先端は鈍頭または円頭、基部はくさび形、やや薄い紙質で表面は無毛、裏面は淡緑色で脈上に毛がある。花は3~4月に葉が展開する前に咲き、直径7~10cm、花被片は12~18枚あってがくと花卉の区別はなく、淡紅色またはわずかに紅色を帯びた白色、縁は多少波をうつ。集合果は長さ3~7cm になり、種子は赤色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山、芹沢 74429, 1998-3-29; 吉根太鼓ヶ根、芹沢 77330, 2001-5-20; 同長廻間、鳥居ちゑ子 2259, 2003-3-27; 大森御膳洞、芹沢 51063, 1989-4-4）に生育している。野外に植栽されたものは、天白区（天白町野並）など市内の他の場所でも見られる。

【県内の分布】

名古屋市以外では、豊橋南部、田原東部、田原西部、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、岡崎南部、幸田、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井で確認されている。ただし岡崎南部では絶滅し、幸田も幼木が1株あっただけでその後確認できない。半田武豊（武豊町二ツ峯湿地）にもあったというが、この湿地は知多半島道路拡幅に伴う土砂採取によって破壊された。

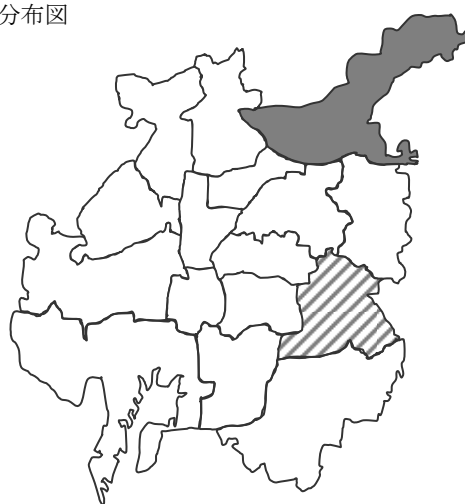
【国内の分布】

本州中部（愛知県、岐阜県美濃地方中・東部、三重県北部）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の湧水湿地やその周辺に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では東谷山北麓に比較的大きな集団があるほか、他に3ヶ所、少数個体が生育している場所があった。生育地は全体的に森林化が進行しており、後継樹が生育できる状況は失われている。現存個体も、このままではやがて被陰によって枯死するものと思われる。一方で土地造成も深刻な圧迫要因になっており、小集団のうち1ヶ所はこれにより絶滅した可能性が高い。

【保全上の留意点】

丘陵地の崩壊地がなかなか放置できない現状では、地形の改変を伴わない二次林の伐採は本種の個体群維持にとって不可欠である。萌芽力の強い樹種であるため、ある程度の株数がある場所ならば、伐採に際して本種に特に配慮する必要はない。

【特記事項】

やや矮性で花の色が濃い系統は、「ヒメコブシ」の名で広く栽培される。

【関連文献】

保木Ⅱp.219, 平木Ⅰp.106, 環境庁p.443, SOS旧版p.49+図版16, SOS新版pp.94-97, 愛知県p.344.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 初期分岐群 クスノキ科>

ヒメクロモジ *Lindera lancea* (Momiy.) H.Koyama**【選定理由】**

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1。山地に行けば普通に見られる植物であるが、丘陵地では稀少である。名古屋市では生育地も個体数も少ない。最近の調査では現存を確認できなかったが、再発見される可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧ⅠA類と評価した。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

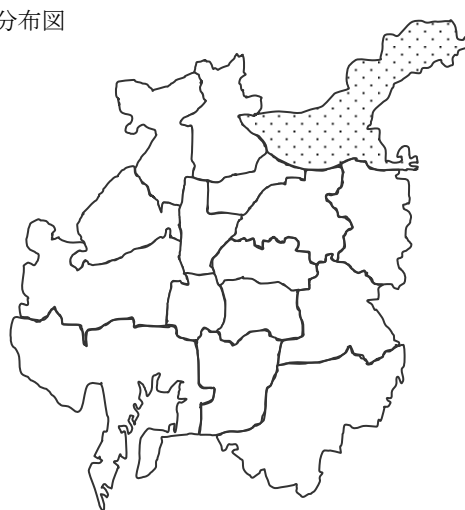
【形態】

落葉性の低木。高さ数 m になる。若枝は黄緑色で無毛。葉は互生し、長さ 0.4~1cm の柄があり、葉身は菱状長楕円形、長さ 6~10cm、幅 2~3cm、先端は鋭尖頭になる。葉裏は帯白色、若時絹毛が多く、毛は成葉でも残存する。花は 4 月に咲き、黄緑色で直径 6~7mm、3~5 個が散形につく。花柄は長さ 2~3mm で短く、花柄の毛は赤味を帯びることが多い。果実は球形、直径 5~6mm、秋に黒色に熟す。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷、鳥居ちゑ子 1520, 1998-10-19）に生育していた。

市内分布図

**【県内の分布】**

山地には広く分布しているが、東三河では標高の低い場所には稀である。西三河や尾張ではクロモジよりずっと多く、また標高の低いところまで生育している。尾張では、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、犬山、春日井で確認されている。

【国内の分布】

本州（静岡県～紀伊半島）、四国（東部）。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

自然林、二次林、人工林の下層木として生育し、沢沿いから尾根まで見られる。クロモジと同じような場所に生育し、しばしば混生するが、西三河中西部の豊田旧市域、岡崎旧市域や尾張のクロモジ類はほとんどが本種である。

【現在の生育状況／減少の要因】

1998 年には二次林内に少数株が生育していた。林の状態は特に変化してはいないので、更に探索する必要がある。

【保全上の留意点】

種子は鳥によって散布されるので、そのうちに他の場所で再出現する可能性もある。

【特記事項】

クロモジに似ているが、花序が小さく（従って秋期の花芽も細い）、小花柄の毛は赤褐色を帯び、葉柄は短く、葉身先端部は鋭く尖り、葉裏はより白色を帯びて絹毛が多いことで区別できる。ただし、葉だけの標本では識別が難しいこともある。

【関連文献】

保木Ⅱpp.192-193, 平木Ⅰp.119.
 小山博滋. 1987. クロモジ群の分類と分布. 植物分類地理 38:161-175.
 芹沢俊介. 2009. クロモジとヒメクロモジ. くさなぎおごけ(3):8-10.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 初期分岐群 クスノキ科>

ダンコウバイ *Lindera obtusiloba* Blume

カテゴリー

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1。山地性の樹木で、名古屋市では生育地も個体数もきわめて少ない。最近の調査では現存を確認できなかったが、再発見される可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧 I A 類と評価した。

名古屋市2015	絶滅危惧 I A 類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の低木。高さ数 m になる。葉は互生し、長さ 1.5～3cm の柄があり、葉身は広卵形、長さ 7～15cm、幅 5～13cm、通常浅く 3 裂し、裂片は鈍頭、基部は切形～浅い心形、裏面は帯白色で、はじめ淡黄褐色の長毛を密生する。花は葉が展開する前の 3～4 月に咲き、雌雄異株、花序は散形で小花柄は長さ 12～15mm、花被片は黄色で長さ 3mm 程度である。果実は球形で直径約 8mm、秋に赤～黒色に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷、鳥居ちゑ子 2324, 2003-5-29）に生育していた。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には普通にみられる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、春日井に生育している。

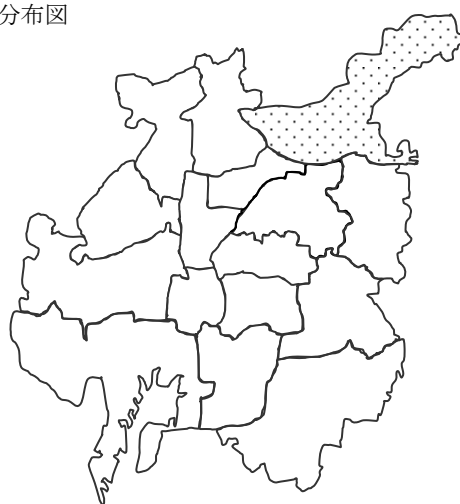
【国内の分布】

本州（関東地方および新潟県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国大陸東北部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の落葉広葉樹二次林の構成種である。

【現在の生育状況／減少の要因】

道沿いに残存した林に 1 株だけ生育していた。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

「こんな植物が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【関連文献】

保木Ⅱ pp.189-190, 平木Ⅰ p.120.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 サトイモ科>

スルガテンナンショウ *Arisaema yamatense* (Nakai) Nakai subsp. *sugimotoi* (Nakai) H. Ohashi et J. Murata

カテゴリー

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1。山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。現状は絶滅状態であるが、東谷山などには残存している可能性があるため、定性的に絶滅危惧 I A 類と評価した。

名古屋市 2015	絶滅危惧 I A 類
愛知県 2015	リスト外
環境省 2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は通常 2 個、第 1 葉の葉鞘は長さ 20～50cm、葉身は鳥足状に分かれ、小葉は 7～17 枚、葉軸はよく発達し、小葉は長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁または歯状の細鋸歯がある。第 2 葉は通常小さく、特に柄部分は短いことが多い。花期は 4～5 月、仏焰苞は葉よりやや早く開き、葉とほぼ同じ高さにつき、通常緑色、まれに帯紫色、筒部は長さ 4～7cm、口辺は狭く開出し、唇部は卵形、長さ 6～11 cm 先端は鋭尖頭、内面は微小な乳頭状突起を密生し、帯白色になる。花序は肉穂状、偽雌雄異株、付属体先端は通常急にふくらんで前屈し、幅 5～7mm になるが、時には多少ふくらむだけの個体もある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山、鳥居ちゑ子 1053, 1996-5-4）、天白区（相生山緑地、渡邊幸子 5018, 2002-4-6）に生育していた。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には普通に見られるが、丘陵地では極めて少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、小牧、春日井に生育している。

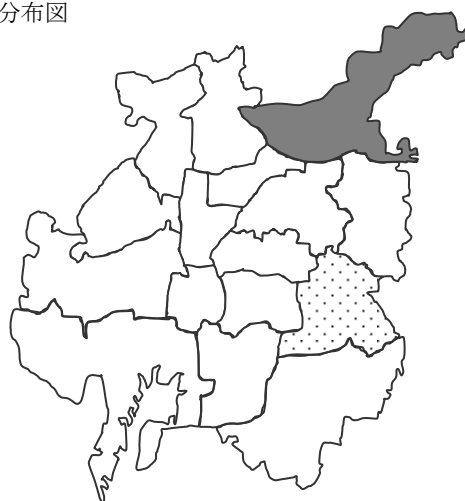
【国内の分布】

本州（静岡県、長野県南部、愛知県、岐阜県）。

【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では点在していたが、個体数は少なく、最近ほとんど見ていない。天白区では相生山緑地にごく少数の株が生育していたが、ここでも最近は見えていない。

【保全上の留意点】

相生山緑地は、周囲が市街地化された中で里山状態がよく保たれており、本種を含む多くの希少な植物が生育している。特に注意して保全していく必要がある。この場所では多くの市民団体が自然とのふれあい活動を楽しんでいるが、活動の際には「他の場所から植物を持ち込まない」という原則を厳守しなければならない。持ち込み行為があると、本種のような希少な植物が発見された場合でも、それが保全の対象かむしろ除去すべきものか、わからなくなってしまう。

【特記事項】

名古屋市内に生育するテンナンショウ類（ウラシマソウを除く）としては、唯一のものである。

【関連文献】

保草Ⅲpp.209-210、平草Ⅰp.135。

（執筆 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ヒナノシャクジョウ科>

ヒナノシャクジョウ *Burmattia championii* Thwaites

カテゴリー

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 3。森林性の腐生植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。現存は確認できないが、再発見される可能性を考慮し、絶滅危惧ⅠA類と評価した。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

腐生の多年生草本。根茎は球状にふくらみ、多数のひげ根がある。茎は直立し、白色、高さ 3～8cm である。葉は互生し、鱗片状に退化し、披針形、長さ 2～4mm である。花期は 8～10 月、花は茎の先端に 2～10 個が頭状に集まってつき、白色で無柄、外花被片は筒状に合着して 3 稜形となり、長さ 6～10mm、裂片は三角形で長さ 1.5mm 程度、内花被片はへら形で小さい。果実は蒴果で倒卵円形、長さ 2.5mm 程度である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（山田果与乃 413, 1998-8-30）で確認されている。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋北部、田原西武、豊田東部、岡崎南部、瀬戸尾張旭の 5 区画で採集されたことがある。

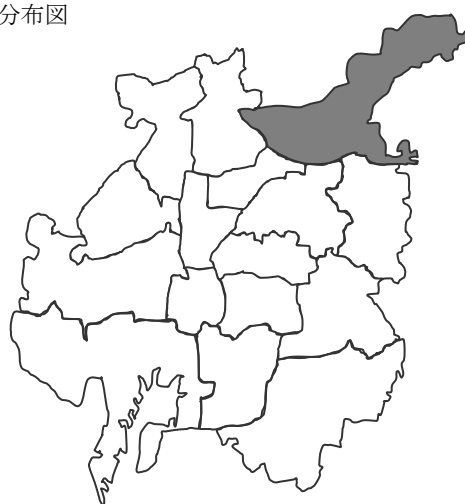
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、中国大陸南部、マレーシア、インド、スリランカ。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

林内の湿った場所の、落葉の間に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

2002 年は 5～6 株が生育していたが、2008 年には里山保全活動のために林床が踏み荒らされており、確認できなかった。その後も生育は確認できていない。

【保全上の留意点】

過去に生育が確認された場所やその周辺の森林を保全することが必要である。小型の植物で観察者やカメラマンが多く訪れるようになれば踏み荒らされる可能性が大きいので、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要であるが、一方で情報を公表しないと、知らずに踏み荒らされるリスクも増大する。

【特記事項】

小型で見つけにくい植物なので、ていねいに調査すれば新産地が追加される可能性もある。調査時には、特に注意が必要である。同じ腐生植物であるホンゴウソウは名古屋市内ではまだ発見されていないが、最近県内で確認される例が増加しており、市内でも注意して探索する必要がある。

【関連文献】

保草Ⅲp.70, 平草Ⅰp.63, SOS 旧版 p.97+図版 3, SOS 新版 p.74, 愛知県 p.445.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ユリ科>

ウバユリ *Cardiocrinum cordatum* (Thunb.) Makino

カテゴリー

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1。やや山地性の植物で、名古屋市では現存を確認できないが、再発見される可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧 I A 類と判断した。

名古屋市2015	絶滅危惧 I A 類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下に白色の鱗茎がある。若い個体は根出葉だけであるが、開花株では中空の茎が伸長し高さ 60~100cm になる。茎葉は茎の中部に数個が集まってつき、長い柄があり、葉身は卵状楕円形、長さ 15~25cm、先端は鋭頭、基部は心形、網状脈がある。花期は 7~8 月、花は茎の先端に数個総状につき、横向きで長さ 12~17cm、先はあまり開かない。花被片は倒披針形で緑白色、内面に淡褐色の斑点がある。蒴果は楕円形、長さ 4~5cm、種子は扁平で膜があり、長さ 10~13mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（翠松園、標本なし）と天白区（牧野ヶ池緑地、渡邊幸子 4799, 2001-7-30）に生育していた。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には比較的多い。尾張ではやや少なく、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、知多南部、犬山、春日井などで確認されている。

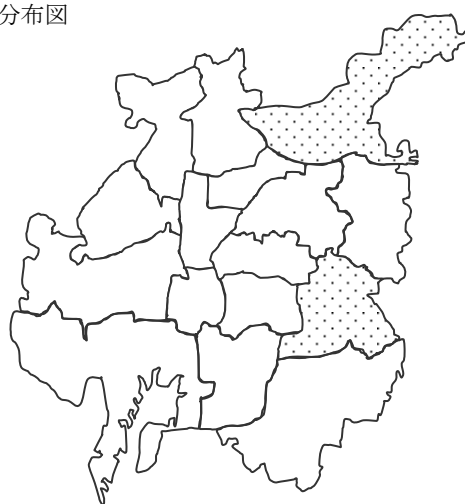
【国内の分布】

本州（宮城県・石川県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有。変種のおおうバユリは全体に大型で、花はやや小さく多数つき、千島列島南部、サハリンから東北日本にかけて分布している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の平坦な林床に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では丘陵地の中に建てられた人家のわきに小群落があったが、毎年開花する前に草刈りされ、標本を採取できなかった。天白区では牧野ヶ池緑地の中に 1 株生育していた。どちらの場所も近年見られなくなっただけで、まだどこかに残存している可能性はある。

【保全上の留意点】

生育地の地形と林を保全することが必要である。

【特記事項】

和名は姥百合で、花期に葉が枯れてなくなるのを「歯がない」にかけたからである。

【関連文献】

保草Ⅲp.126, 平草Ⅰp.39.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ユリ科>

カタクリ *Erythronium japonicum* Decne.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、
県内分布 1、総点 16 代表的な早春植物で、名古屋市では生育地
も個体数も極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下に筒状長卵形で長さ5～6cmの鱗茎がある。花茎は高さ10～20cm、葉はその下部に通常2個つき、長い柄があり、葉身は長楕円形または狭い卵形、長さ6～12cm、先は鋭頭で鈍端、基部はくさび形で葉柄に流れ、全縁で両面無毛、黄緑色で暗紫色の斑紋がある。花期は3月末～4月、花は花茎の先端に斜め下向きに1個つき、日中開花し、花被片は6枚、披針形で長さ4～5cm、紅紫色で基部近くにW字状の濃紫色の斑紋がある。蒴果は3稜形、長さ12～15mmである。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（鳥居ちゑ子 842, 1995-4-30）に生育している。

【県内の分布】

愛知県では生育地の限られた植物で、名古屋市のほか、豊根西部、東栄、設楽東部、設楽西部、鳳来北東部、新城、豊橋北部、旭、足助、藤岡、豊田北西部、瀬戸尾張旭、犬山で確認されている。

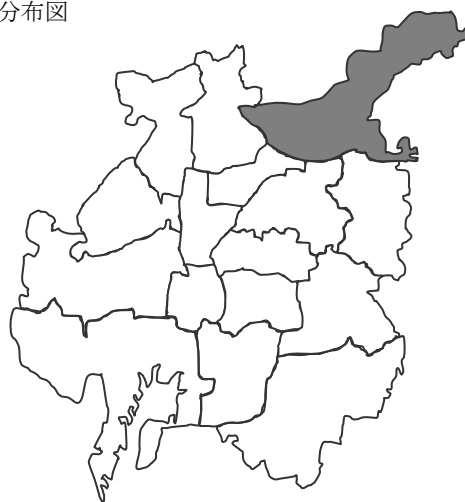
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に分布するが、四国や九州では少ない。

【世界の分布】

千島列島南部、サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陆。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

本来は山地や丘陵地の落葉広葉樹林内に生育するが、里草地に生育することも造林地の林縁などに残存していることもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では小群落があるだけで、個体数も極めて少なく、2014年は3個体開花していただいている。未開花個体も少ない。園芸目的で採取されれば、容易に絶滅してしまう。採取されなくても訪れる人が多くなれば、踏み荒らし等の攪乱が懸念される。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取や観察者・カメラマンによる攪乱を防止するため、分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、古名の「かたかご」から「かたこゆり」、さらに「かたくり」に転じたとされる。古くは鱗茎からでん粉（かたくり粉）を採取した。

【関連文献】

保草Ⅲpp.117-118, 平草Ⅰp.37.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ユリ科>

ヤマユリ *Lilium auratum* Lindl.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 1。白色の大きい花をつけるユリで、名古屋市を含む尾張では生育地も個体数も極めて少ない。評価点の合計は 15 であるが、尾張で希少であることを考慮し、絶滅危惧ⅠA類と判定する。

【形態】

多年生草本。地下に扁球形で直径 6～10cm の鱗茎がある。茎は直立することも崖などから斜めに垂れることもあり、長さ 1m 以上になる。葉は互生し、短い柄があり、葉身は披針形、長さ 12～18cm、先端は鋭尖頭である。花期は 7～8 月、花は茎の先端に 1～15 個が横向きにつき、広杯形、花被片は 6 枚、外片は広披針形、内片は楕円形で長さ 10～18cm、先端は反りかえり、白色で中央に黄色条、そのまわりに赤褐色の斑点があり、基部内面に突起がある。蒴果は長楕円形、長さ 5～8cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（芹沢 82951, 2008-7-16）に生育している。

【県内の分布】

東三河とそれに接する西三河の一部に分布している。尾張では名古屋市のほか、犬山に少数が生育している。

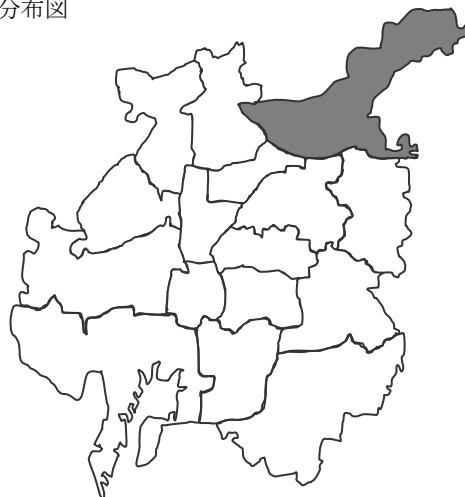
【国内の分布】

本州（東北地方～近畿地方）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の林縁や明るい林内に生育する。崖地に生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

もともとは隣接した 3 地点に 10 数株生育していたらしいが、1 地点は盗掘されてなくなり、1 地点はササに被陰されて幼株がわずかに残る状態であった。残りの 1 地点では、2008 年には花を 1 個だけつけた高さ 80cm くらいの個体が少数確認できた。未開花の幼株もあった。生育地はすぐ近くまで開発が進んでおり、いつ破壊されるかわからない状態であるが、その一方で詳細な場所を公表すれば、園芸目的の採取により瞬時にして消滅する可能性が高い。

【保全上の留意点】

何はともあれ、生育地の丘陵の地形を保全することが必要である。園芸目的の採取については、基本的には公共の資産である自然物を個人の庭に取り込もうという山草愛好家のモラルが問題である。周囲の市民が山草栽培に厳しい目を向け、「自然の植物は自然の中で」というルールを徹底させていくことが必要である。

【特記事項】

尾張や西三河西部では自生地がほとんどないが、生育地の状況からは逸出とは考えにくい。尾張に隣接する岐阜県側にも見られるので、本来の自生と考えてよいと思われる。上述したように、詳細な分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草Ⅲpp.130-131, 平草Ⅰp.40.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ユリ科>

コオニユリ *Lilium leichtlinii* Hook.f. var. *maximowiczii* (Regel) Baker

カテゴリー

【選定理由】

生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1。草地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。現存は確認できないが、幼株が残存している可能性を考慮し、絶滅危惧 I A 類と評価した。

名古屋市2015	絶滅危惧 I A 類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。地下にはほぼ球形の鱗茎がある。茎は直立し、分枝せず、高さ 70～150cm になる。葉は多数つき、無柄、葉身は線状披針形、長さ 8～14cm、幅 5～12mm、先端は鋭頭～鋭尖頭、はじめは少し白綿毛があるが、後に両面無毛となる。花期は 7～8 月、花は茎の先端に 2～10 個が斜め下を向いてにつき、花被片は 6 枚、橙赤色で濃色の斑点があり、被針形、長さ 6～8cm、強く反りかえる。蒴果は楕円形、長さ約 3cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（鳥居ちゑ子 1997, 2001-7-26）に生育していた。最近確認できないが、生育環境は残されている。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には点在するが、尾張では少なく、名古屋市のほかには瀬戸尾張旭、東海知多、常滑、春日井などで確認されているにすぎない。このうち知多半島の 2 区画では愛知用水わきの草地に生育していたが、改修によりほとんど絶滅状態である。

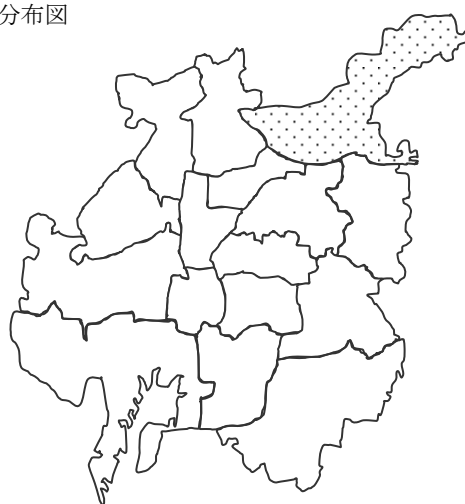
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日当たりのよいやや湿った草地に生育する。岩場に生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

もともと個体数は少なく、しかも開花した次の年にはたいていなくなってしまう。草地の縮小も圧迫要因であるが、当面はそれよりも園芸目的の採取が問題である。

【保全上の留意点】

基本的には、公共の資産である自然物を個人の庭に取り込もうという山草愛好家のモラルが問題である。周囲の市民が山草栽培に厳しい目を向け、「自然の植物は自然の中で」というルールを徹底させていくことが必要である。

【特記事項】

園芸目的の採取を防止するため、詳細な分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。オニユリ *L. lancifolium* Thunb. もしばしば逸出して野生化しているが、それからは花がやや小型で、葉腋にむかごが付かないことで区別できる。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 9 に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅲp.226, 平草 I p.41.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

ギンラン *Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume

カテゴリー

【選定理由】

生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1。明るい林内に生育する植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。しかしまだ残存しているという情報があるので、定性的に絶滅危惧 I A 類と評価した。

名古屋市2015	絶滅危惧 I A 類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 10～30cm になる。葉は 3～6 個が互生し、長楕円形、長さ 3～8cm、先端は鋭尖頭、基部は茎を抱き、平滑で縦脈が目立つ。花期は 5～6 月、花は茎の上部に数個つき、白色、苞は下位の 1～2 個はしばしば葉状になるが、他は小さい。がく片は披針形、長さ 7～9mm、先端はややとがり、側花弁は広披針形で鈍頭、がく片よりやや短い。唇弁の基部は短い距となり、唇部は 3 裂し、側裂片は三角形、中裂片は楕円形で内面に数本の隆起条がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（猪高緑地、鳥居ちゑ子 1063, 1996-5-12）に生育していた。

【県内の分布】

丘陵地から山地に生育するが、稀である。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と犬山で確認されている。

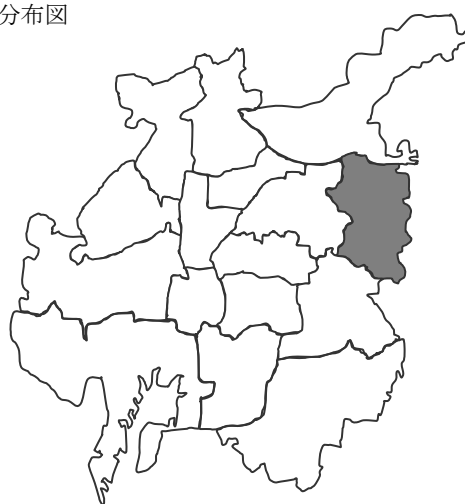
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は落葉広葉樹の林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

狭い範囲であるが、20 株程度がまとまって生育していた。毎年見られたが、周囲の樹木が伐採されて乾燥したためか、この場所では最近では出現しなくなった。

【保全上の留意点】

散発的に出現する種類なので、まだどこかに残存している可能性は高い。更に注意して探索する必要がある。

【特記事項】

葉の小さいユウシュンラン var. *subaphylla* (Miyabe et Kudô) Ohwi は、名古屋市ではまだ確認されていない。

【関連文献】

保草Ⅲp.30, 平草Ⅰ pp.207-208.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

キンラン *Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、
県内分布 1、総点 16。明るい林内に生育する植物で、全国的にも
名古屋市でも園芸目的で採取されることが多く、減少傾向が著しい。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 30～70cm になる。葉は 6～8 個が互生し、広披針形、長さ 8～15cm、幅 2～4cm、先端は鋭尖頭、基部は茎を抱き、平滑で縦脈が目立つ。花期は 4～6 月、花は茎の上部に 3～12 個つき、黄色、苞は三角形で長さ約 2mm、膜質である。がく片は卵状長楕円形、長さ 14～17mm、先端は鈍頭、側花弁は長卵形で、がく片よりやや短い。唇弁の基部はふくらんで短い距となり、舷部は 3 裂し、側裂片は三角状卵形でずい柱を抱き、中裂片は円心形で内面に数本の隆起条がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（中島ひろみ 913, 2008-5-6）にごく稀に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、津具、東栄、鳳来北東部、鳳来南部、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、田原東部、下山、小原、藤岡、豊田東部、岡崎北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、犬山、春日井で生育が確認されている。稲武、豊橋南部、足助、豊田北西部で採集された標本もある。

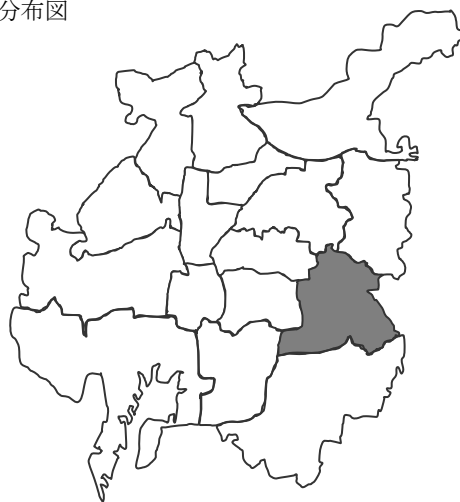
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地～山地の明るい落葉広葉樹林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市で現存が確認できるのは数株だけである。かつては市内の丘陵地二次林内に点在していたはずであるが、遷移の進行や開発に加えて花が黄色で目立つため採取され、激減したと思われる。愛知県全体ではまだかなりの区画に生育しているが、どの区画でも偶然行き当たるといふ程度の頻度で残存しているにすぎない。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。ただし本種の場合は、好事家の意図的な採取よりもむしろ一般人の行きずりの採取の影響が大きい。自然物は公共の資産であり、個人の庭に取り込んでではないという意識を、できるだけ多くの人に持ってもらうことが必要である。

【関連文献】

保草Ⅲp.29, 平草Ⅰp.207, 環境庁 p.612, SOS 新版 p.78, 愛知県 p.621.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

シュスラン *Goodyera velutina* Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 3、総点 17。愛知県では生育地が少なく、また園芸目的の採取により減少している植物で、名古屋市でも生育地、個体数共に少ない。

【形態】

多年生草本。茎は横にはい、先端は斜上して高さ 10～15cm になる。葉は数個が互生し、長さ 1～1.5cm の柄があり、葉身は長卵形、長さ 2～4cm、幅 1～2cm、先端は鋭頭、表面は紫色を帯びた暗緑色でビロード状の光沢があり、中央の白条が目立つ。葉柄の基部は葉鞘となって茎をつつむ。花期は 8～9 月、花は茎の上部に一方に偏って 4～10 個つき、淡褐色、苞は線状披針形、長さ 6～12mm である。がく片は狭卵形、長さ 7～8mm、花序の軸や子房と共に白色の短毛がある。側花弁は広倒披針形、背がく片に接してかぶと状になり、唇弁はがく片とほぼ同長、基部はふくらみ、舷部は卵形で全縁、内面に毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（村松正雄 24890, 2009-9-20）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、蒲郡、幸田、西尾南部の 4 区画で確認されている。尾張では瀬戸尾張旭（上半田川町、日比野修 814, 1992-9-14）にもあったがここでは絶滅し、名古屋市は現存が確認できる唯一の自生地である。

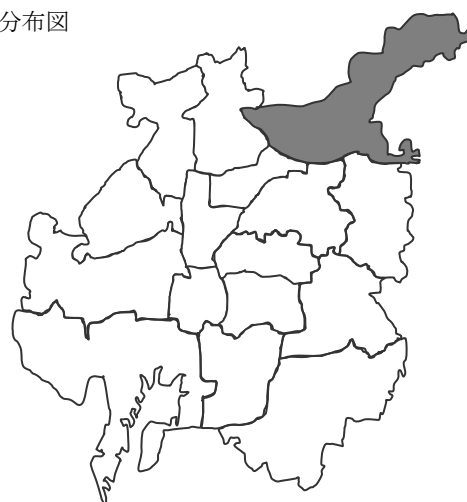
【国内の分布】

本州（関東地方南部以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は低山地の常緑広葉樹林内に生育する。名古屋市の生育地は湿地に形成された二次林である。

【現在の生育状況／減少の要因】

小群落があり、2009 年は 10 株程度が開花したが、2010 年は減少して開花株も僅かであった。瀬戸市では 2 ヶ所にあったが、山草愛好家に持ち去られたらしく、現在では全く見られなくなった。

【保全上の留意点】

開発により失われるおそれがあるが、その一方で園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

2004 年版以後の調査により、名古屋市内に生育していることが確認された。和名は、光沢のある葉の感じを繻子に例えたものである。

【関連文献】

保草Ⅲp.40, 平草Ⅰp.213, 愛知県p.490.

（執筆 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

オオミヤマウズラ *Goodyera* sp.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 2、補正+1（準固有）、総点 18。愛知県の湧水湿地を中心に分布する未記載のラン科植物。かつては比較的多い場所もあったが、近年激減している。名古屋市でも生育地、個体数共に少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は横にはい、先端は直立して高さ 25～40cm になる。葉は直立部の基部に数個が互生し、長さ 0.5～1.2cm の柄があり、葉身は長卵形～楕円形、大きいもので長さ 4～6.5cm、幅 2～2.5cm、先端は鋭頭、表面は全体緑色のことが多いが白斑が入ることもある。葉柄の基部は葉鞘となって茎をつつむ。花期は 9 月、花は茎の上部に 0.7～2cm の間隔で 8～14 個つき、白色で平開せず、花被片は長さ 10～13mm、苞は広披針形で長さ 6～17mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（芹沢 83258, 2008-9-13）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、田原西部、旭、豊田西北部、幸田、西尾南部、瀬戸尾張旭、小牧、春日井の 8 区画で生育が確認されている。

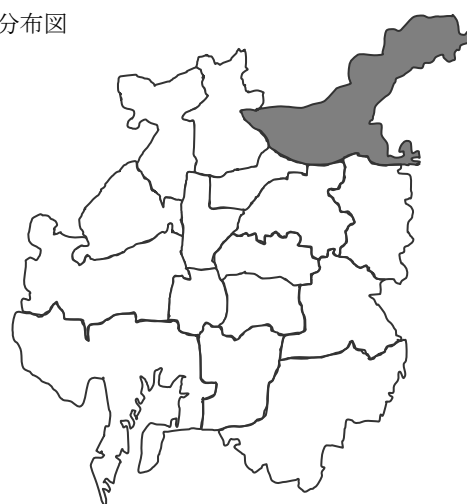
【国内の分布】

本州（関東地方南部～紀伊半島）、九州。四国にも分布していると思われる。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

愛知県では、丘陵地の湧水湿地周辺に成立する湿地林内に生育することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

1ヶ所に少数個体が生育している。この場所に限れば増減傾向ははっきりしないが、愛知県全体としては近年激減してどこも僅かに残存しているという状態になってしまった。環境がほとんど変化していない場所でも減少していることから原因としては園芸目的の採取が疑われるが、確証はない。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ミヤマウズラに似ているが、全体に大型、葉は白斑が入らないことが多く、花は大きくて平開せず、互いにやや離れてつき、花期も半月以上遅い。瀬戸市の一部ではミヤマウズラと混生しているが、形態的な差は明瞭で中間型は出現しない。山草愛好家の間では、「ガクナン」と呼ばれている。

【関連文献】

愛知県 p.490.

（執筆 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ススキノキ科>

キスゲ *Hemerocallis citrina* Baroni var. *vespertina* (H.Hara) M.Hotta**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、
県内分布 1、総点 16。草地性の植物で、名古屋市では生育できる
環境が激減している。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。根は多数束生するが、ふくらまない。葉は2列に束生し、線形、長さ40～60cmになる。花期は7～9月、花茎は高さ100～150cmになり、上部に披針形で2～5cmの苞をつけ、花序の枝は長い。花は夜咲きでわずかに芳香があり、淡黄色、花柄は長さ2～15mm、花筒は長さ2.5～3cm、花被片は6枚で長さ6.5～7.5cmである。蒴果は広楕円形、長さ約2cm、中に黒色の種子がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

天白区（保呂町天白川堤、渡邊幸子 1190, 1993-7-31, NBC760）に生育している。緑区（鳴海町諸ノ木、芹沢 77629, 2001-9-17）にも生育していた。

【県内の分布】

低山地から丘陵地にかけて点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、豊明東郷、半田武豊、岩倉西春日井で確認されている。

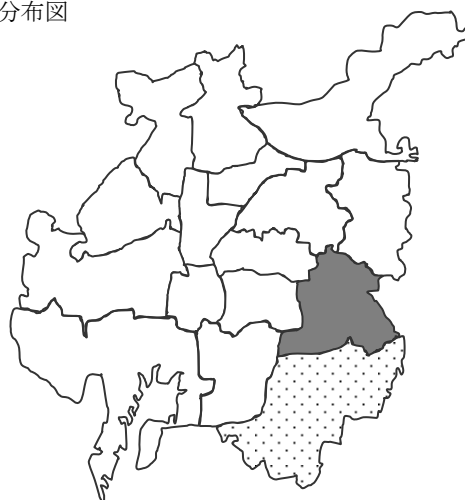
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有。基準変種は中国大陆に分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地のやや乾いた日当たりのよい草地に生育する。尾張では主として河川の堤防や幹線水路わきの草地に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

天白区では2014年現在数株が残存しているが、将来の存続はかなり危うい。花が目立つため、園芸目的の採取も懸念される。緑区では土手の改修により絶滅した。

【保全上の留意点】

幹線用水路わきや河川堤防の草地は、管理上の理由で定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で、多くの草地性植物の生育地になっている。改修にあたってはこれらの植物の生育場所を奪わないよう、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

花が夕方開花し翌朝閉じることから、ユウスゲとも呼ばれる。2014年のレッドリスト案では絶滅危惧ⅠB類として掲載したが、その後の調査により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅲp.140, 平草Ⅰp.30.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ススキノキ科>

ノカンゾウ *Hemerocallis fulva* L. var. *longituba* (Miq.) Maxim.

カテゴリー

【選定理由】

生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1。湿性の草地に生育する植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。現存を確認できないが、開花しない個体が残存している可能性を考慮し絶滅危惧 I A 類と評価した。

名古屋市2015	絶滅危惧 I A 類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。根は多数束生し、一部が紡錘状にふくらむ。葉は 2 列に束生し、線形、長さ 30～65cm、幅は変異が著しく、3mm 程度のものから 15mm に達するものまでである。花期は 6～8 月、花茎は高さ 20～90cm、小型の個体は先端に 1 個の花をつけるだけであるが、大型の個体は花序が 2 分し、10 個以上の花を順次咲かせる。花は昼咲きで芳香はなく、橙色～暗赤色、花柄は長さ 3～5mm、花筒は長さ 2～3.5cm、花被片は 6 枚で長さ 6～8cm である。通常結実しない。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区(小幡緑地、芹沢 56215, 1990-8-8)、千種区(東山、犬飼 清 s.n., 1959-6-10)、天白区(八事裏山、西川勇夫 190, 1992-7-20)、緑区(鳴海町神の倉、渡邊幸子 2692, 1996-9-16)で採集された標本がある。

【県内の分布】

山地に点在している。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、犬山、春日井に生育している。

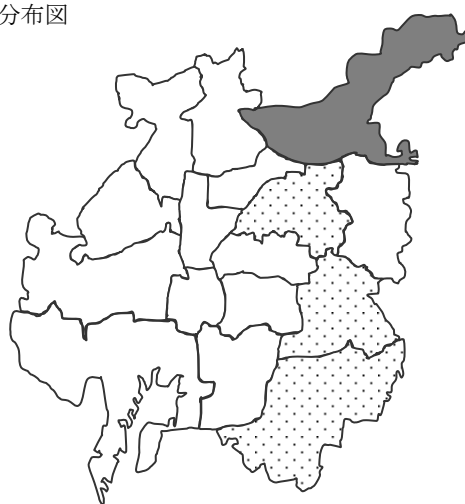
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陆。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地のやや湿った草地に生育する。愛知県では、しばしば湧水湿地周辺部に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

最近はどこ場所でも見ていないが、被陰されて開花しない個体がどこかに残存している可能性がある。緑区では神ノ倉の水田の畔に生育していたが、埋め立てられて絶滅した。

【保全上の留意点】

湿地周辺の森林を伐採し、ひらけた状態を維持することが必要である。

【特記事項】

花が濃赤色のものは、ベニカンゾウと呼ばれることがある。愛知県の湿地にはこの型が多い。2014 年のレッドリスト案では絶滅危惧 I B 類として掲載したが、その後の情報集約により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅲp.141, 平草Ⅰp.31.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ガマ科>

ミクリ *Sparganium erectum* L.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 4、総点 17。低地性のやや大型の水草で、愛知県では 3 ヶ所に生育しているだけである。名古屋市の群落は 3 ヶ所の中で最大であるが、開発が迫っている。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

多年生の水草。地中を横にはう根茎がある。茎は立ち、高さ 60～150cm になる。葉は 2 列に互生して立ち、線形、長さ 50～120cm、幅 7～20mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁、裏面に稜があって断面は三角形になり、下部は葉鞘となる。花期は 6～8 月、雌雄同株、茎の上部の葉腋から枝を出し花序となる。各枝の下側に 1～3 個の雌性頭花、上側に多数の雄性頭花をつける。雌性頭花は無柄、球形、果期に直径 2～3cm になり、果実は紡錘形、長さ 6～9mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味才井戸流、芹沢 82963, 2008-7-16）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊明東郷と春日井に各 1 ヶ所生育している。

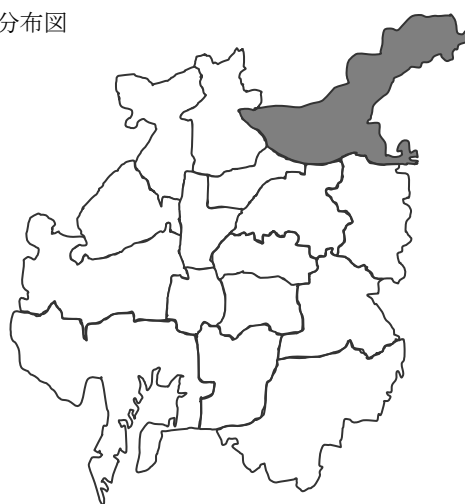
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

北半球に広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湖沼や河川、水路などに生育する抽水植物で、流水域では沈水形となることもある。名古屋市の生育地は水路である。豊明東郷（豊明）はため池、春日井は小河川に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山高校わきに大きな群落があるほか、2～3 ヶ所に小群落がある。守山高校わきの群落は 10 年前には確認できなかったもので、近年に限れば増加傾向にあると思われるが、開発や水質汚濁により失われるおそれも大きい。

【保全上の留意点】

周辺の地形を含め、生育地全体を保全することが必要である。

【特記事項】

2004 年版以後の調査により、名古屋市内に生育していることが確認された。才井戸流はミクリのほかヤマトミクリ、ナガエミクリも生育しており、愛知県内で最もミクリ類の多様性に富む場所である。和名は、果序の形状がクリに似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅲp.419, 平草Ⅰp.142, 愛知県 p.465.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.77. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.50. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

ケタガネソウ *Carex ciliato-marginata* Nakai

カテゴリー

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1。名古屋市では現存が確認できないが、まだどこかに残存している可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧 I A 類と評価した。

名古屋市2015	絶滅危惧 I A 類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。匍匐枝を出し、やや密な群落を作る。茎は高さ 5~12cm、まばらに軟毛があり、基部の葉鞘は淡褐色である。葉は披針形、幅は 1~2cm、3 脈が目立ち、両面と辺縁に軟毛がある。果期は 4~5 月、小穂は 3~5 個、頂小穂は雄性で卵形、長さ 5~10mm、側小穂は雌性で、頂部に少数の雄花をつけ、卵球形で長さ 4~8mm である。苞はふくらんだ鞘となり、長さ約 5mm である。果胞は楕円状倒卵形、長さ 3.5mm、緑色で短毛があり、嘴はごく短い。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味森林公園，芹沢 77220, 2001-4-28; 中志段味吉田洞，鳥居ちゑ子 2331, 2003-6-13）に生育していた。

【県内の分布】

低山地～丘陵地に点在し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、小牧で確認されている。

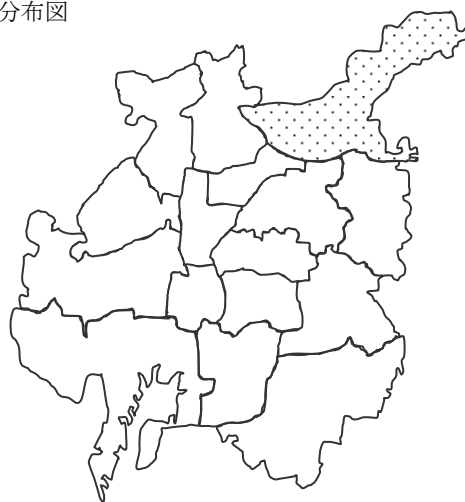
【国内の分布】

本州（中部地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の明るい林内や林縁、やや乾いた草地などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

上志段味の道路に接した二次林の林縁に小群落があったが、道路の拡幅によって失われた。中志段味の林内にも小群落があったが、ここも現存を確認できない。

【保全上の留意点】

本種のような目立たない植物は、工事などの際に無視されてしまうことが多い。特に注意が必要である。

【特記事項】

葉は幅広く、タガネソウとともに、他のスゲ類とは著しく異なっている。

【関連文献】

保草Ⅲpp.294-295, 平草Ⅰp.154.
 吉川純幹. 1958. 日本スゲ属植物図譜 2:202-203. 北陸の植物の会, 金沢.
 勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.149. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

ウマスゲ *Carex idzuroei* Franch. et Sav.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 4、
県内分布 2、総点 16。低湿地性の植物で、名古屋市では生育地が
少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。長い匍匐枝を出し、小さい株を作る。茎は高さ 40～60cm、基部の葉鞘は淡褐色で、一部が暗赤紫色となり、後に多少繊維状に分解する。葉は細い線形、幅 4～8mm である。果期は 5～6 月、小穂は 4～5 個でやや離れてつき、上部の 1～2 個は雄性、線形で長さ 2～4cm、下部の 2～3 個は雌性、長楕円形で長さ 2～3cm、緑色、下部の雌性小穂には短柄がある。雌鱗片は卵形で、長さ約 5mm。果胞は狭卵形、長さ約 10mm、長い嘴がある。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

中川区（戸田西三丁目、永田晴美 922、
2000-6-8）、港区（藤前五丁目、高木順夫 10148、
2002-4-27）に生育している。

【県内の分布】

平野部に生育しており、名古屋市のほか豊
川、豊橋北部、安城、知多南部、犬山、岩倉
西春日井、稲沢、あま大治、海部西部の 9 区
画で確認されている。

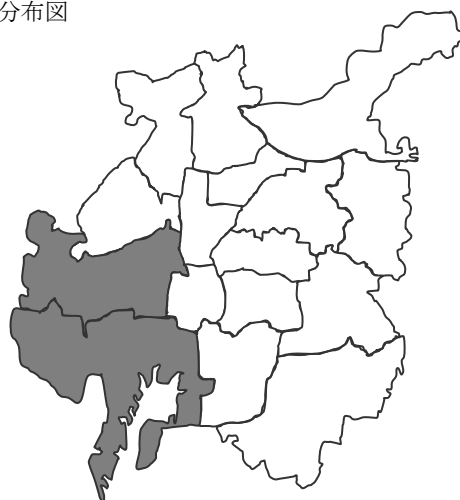
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸中部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部の低湿地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

中川区は小群落があったが、最近の状況は確認されていない。港区では日光川河口近くに大きな群落があったが、ヨシが繁茂して被陰され、僅かに残存するにすぎない。

【保全上の留意点】

河川敷やその周辺に残存する低湿地は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所である。河川改修に際しては、その状態が失われないよう、十分配慮する必要がある。

【特記事項】

果胞が大形で、この点で他種から容易に識別できる。

【関連文献】

保草Ⅲp.297, 平草Ⅰp.150.
吉川純幹. 1958. 日本スゲ属植物図譜 2:250-251. 北陸の植物の会, 金沢.
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.326. 文一総合出版, 東京.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

ニシノホンモンジスゲ *Carex stenostachys* Franch. et Sav.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、
県内分布 3、総点 17。西日本系の植物で、愛知県は分布域の太平
洋側の東限にあたる。名古屋市では生育地がきわめて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。匍匐枝はなく、大きい株を作る。茎は高さ 30～50cm、3 稜があり、基部の葉鞘は栗褐色～黒褐色で硬く、やや繊維に分解する。葉は細い線形、幅 2～3mm である。果期は 4～5 月、小穂は 3～4 個、最下のものはやや離れてつき、頂小穂は雄性、線形で長さ 2～3cm、側小穂は雌性で円柱形、長さ 1.5～2cm、直径約 3mm、柄は葉鞘中にあるか、伸びても短い。苞は小さい葉状または刺状で、長さ 8～20mm の鞘がある。果胞は紡錘状楕円形、長さ約 3mm、短毛があり、先端の嘴はやや短い。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（大森八竜、鳥居ちゑ子 1595、1999-5-26）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、藤岡、犬山、春日井の 3 区画で確認されている。

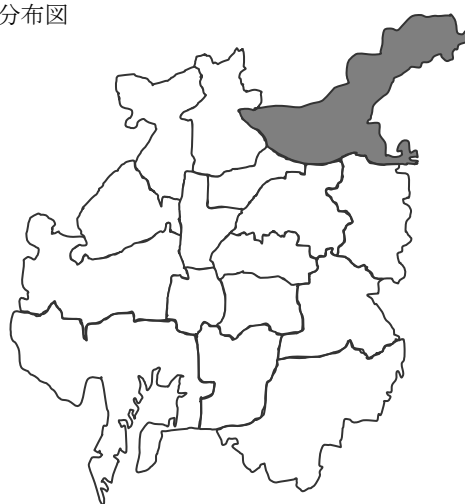
【国内の分布】

本州（中部地方以西）に分布する。北陸地方西部や近畿地方に多い。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地～低山地の林内や林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

二次林の林縁部に生育しているが、市民グループの除草作業により、極めて危機的な状況である。

【保全上の留意点】

「きれいな花」ばかりをかわいがる自称保全活動は、悪意はないと思うけれども、往々にして生物多様性に対する深刻な脅威となる。保全活動を行う際には、生物多様性全般に対する目配りが必要である。

【特記事項】

鈴鹿山脈まで行けば最も普通に見られるスゲ類の一つである。

【関連文献】

保草Ⅲp.271, 平草Ⅰp.159.
吉川純幹. 1958. 日本スゲ属植物図譜 2:154-155. 北陸の植物の会, 金沢.
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.212. 文一総合出版, 東京.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

ヒメアオガヤツリ *Cyperus extremiorientalis* Ohwi

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 4、総点 18。湿地性の植物で、愛知県では名古屋市が唯一の自生地である。名古屋市でも生育地はきわめて少ない。

【形態】

1 年生草本。茎は束生し、高さ 3～5cm、基部は赤紫色を帯びる。葉は茎の下部につき、幅 1mm 程度である。花期は 9～10 月、花序は茎の先端につき、頭状で球形～広卵形、長さ幅ともに 7～10mm、苞は数個あって葉状、長さ 3～6cm である。小穂は淡緑色、披針形～広披針形、長さ 3～5mm、やや扁平で、鱗片は 2 列につく。果実は長楕円形、縁は鋭形であるが翼はない。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（猪高緑地、芹沢 78213, 2002-10-4）に生育している。

【県内の分布】

県内では現在のところ名古屋市で確認されているだけである。

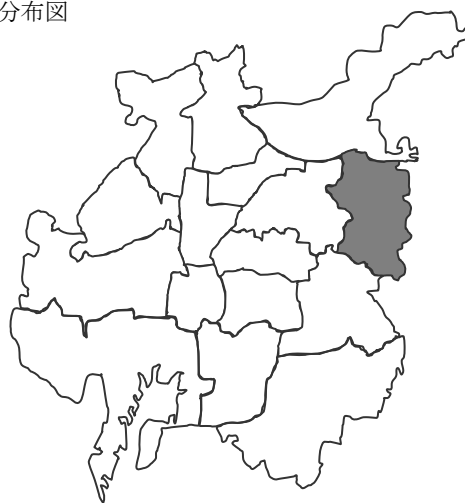
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本からインド、オーストラリアにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

干上がったため池の岸に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

2002 年には少数株が干上がった底土上に散在していた。その後も時折注意しているが、水が引かず確認できない年も多い。

【保全上の留意点】

緑地公園内のため池なので、池自体は当面は現状通り残されると思われる。時折水を落とすなど、ため池の適切な管理を継続することが必要である。

【特記事項】

シロガヤツリ *C. pacificus* (Ohwi) Ohwi に似るが、小穂の鱗片は基部まで 2 列につく。

【関連文献】

保草Ⅲp.245, 平草Ⅰp.184, 愛知県 p.288.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

セイトカハリイ *Eleocharis attenuata* (Franch. et Sav.) Palla

カテゴリー

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 3。湿地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。現存は確認できないが、どこかに残存している可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧ⅠA類と評価した。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

1 年生または多年生の草本。明らかな匍匐枝はない。茎は束生して株をつくり、細い円柱形、高さ 30～50cm、直径約 0.7mm、葉は茎の基部について葉鞘のみに退化し、赤褐色である。花期は 7～10 月、小穂は茎の先端に 1 個つき、長卵形～卵形、長さ 7～10mm、直径 3～4mm、淡褐色、鱗片は広卵形、長さ約 2.5mm、先端は鈍頭、全体に薄質で淡色である。果実は倒卵形、3 稜があり、淡茶色に熟する。刺針状花被片は 6 個、果実よりわずかに長く、逆向きの小刺がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑区（久方三丁目、渡邊幸子 4553, 2000-10-9）で採集されたことがある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、新城、豊橋北部、田原、小牧、海部西部の 5 区画で確認されている。

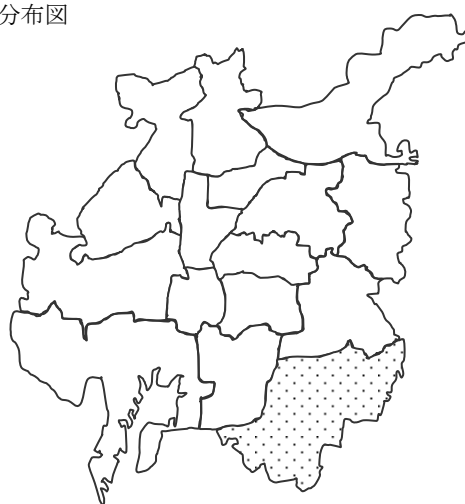
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ニューギニア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

ため池の岸などの湿地に生育する。愛知県では、谷戸田の畔、河川堤防の湿った場所などに生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

意識して採集されたものではなく、その後も確認できないため、詳細は不明である。開発により減少して、現在の状態に至ったものと思われる。愛知県全体でも、生育地はいずれも人の手が入りやすい場所で、開発等により消滅する危険性が高い。

【保全上の留意点】

おそらくはあちこちで出現と消失をくり返しているものと思われる。湿地的環境の全体的な保全が必要である。

【特記事項】

幅広い卵形の小穂が特徴である。

【関連文献】

保草Ⅲp.227, 平草Ⅰp.172, 愛知県 p.476.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

トネテンツキ *Fimbristylis stauntonii* Debeaux et Franch. var. *tonensis* (Makino) T.Koyama**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、
県内分布 3、総点 16。全国的に稀少な低湿地性植物で、名古屋市
でも生育地が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

1年生草本。茎は細く、束生し、やや扁平で、長さ7～30cmになる。葉は叢生し、線形、幅約2.5mmである。花期は8～10月、花序は複散形状で、枝は長さ2～3.5cm、苞は葉状で2～3個つき、花序より短い。小穂は単生し、長楕円状卵形、長さ3～5mm、直径約2.5mm、黄褐色～赤褐色、鱗片は卵状披針形、長さ1.5～2mm、先端は短くとがる。果実は短い円柱形で長さ約1mm、花柱は宿存性で花後伸長して鱗片より長くなり、そのため小穂は毛に包まれたように見える。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（中志段味安田池、高木順夫 22133、
2013-8-23、NBC725）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、半田武豊、
犬山、春日井で確認されている。

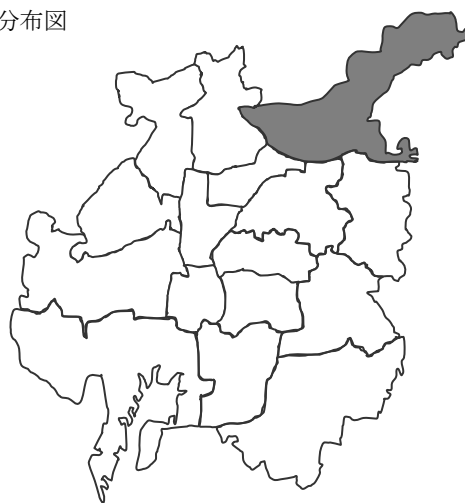
【国内の分布】

本州（関東地方～近畿地方）にまれに生育
する。

【世界の分布】

日本固有。基準変種のハタケテンツキは花
後花柱が伸長しないもので、本州（栃木県）、
九州、朝鮮半島、中国大陆に分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

干上がったため池の岸などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

1ヶ所のため池で確認されている。個体数は年による変動が大きく、水が引かない年には全く出現しないこともあると思われる。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物や低湿地性生物の重要な生活場所になっている。現在本種が確認されているため池は、他の植物も多く確認されており、水辺地形や水質を注意して保全する必要がある。

【関連文献】

保草Ⅲp.232, 平草Ⅰp.174, SOS旧版p.107, 環境庁p.605, SOS新版pp.119,120, 愛知県p.479.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イネ科>

ヒメタイヌビエ *Echinochloa crus-galli* (L.) P.Beauv. var. *formosensis* Ohwi**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 4、総点 16。雑草的な植物であるが、愛知県でも名古屋市でも極めて稀少である。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	リスト外

【形態】

あまり大きい株にならない1年生草本。稈は直立し、高さ50～60cmになる。葉身は斜上し、線形、長さ8～15cm、幅5～7mm、先端は鋭尖頭、鮮緑色で縁に狭い白色部がある。花期は愛知県では10月、花序は長さ5～7cm、幅1～3cm、枝は3～5本で、密に小穂をつける。小穂は淡緑色、卵形で長さ2～3mm、芒はない。

【分布の概要】**【市内の分布】**

緑区（大高緑地公園，芹沢 89062, 2013-10-16）に生育している。天白区（八幡山）にもそれらしいものがあるが、小穂がかなり脱落した標本なので、今後の調査で確認する予定である。

【県内の分布】

愛知県では今回の調査で初めて記録された種類で、現在のところ他の場所では確認されていない。ただし特殊な環境に生育する植物ではないので、注意して探索すれば他でも発見できる可能性はある。

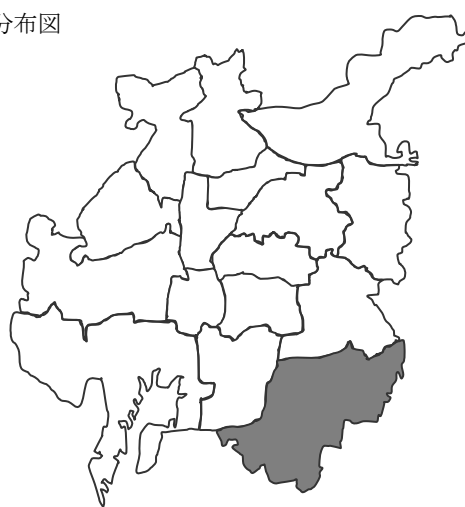
【国内の分布】

本州（関東以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本から東南アジア、インドにかけて広く分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

水湿地に生育する。名古屋市の自生地は人工的に整備され、ハナショウブが植栽された湿地であった。

【現在の生育状況／減少の要因】

1m 四方ほどの範囲に、イヌビエと混生して生育していた。過去からの増減は不明である。

【保全上の留意点】

雑草的な植物であるから、現実問題として保全は難しい。まずは愛知県での分布状況を正確に把握する必要がある。場合によっては、生育地外での系統保存を考えてもよい。

【特記事項】

イヌビエやタイヌビエに比べ植物体は全体に細く、鮮緑色である。ヒメイヌビエからは水湿地に生育することで異なる。

【関連文献】

長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 pp.574-575. 平凡社, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イネ科>

コウボウ *Hierochloa odorata* (L.) P.Beauv. var. *pubescens* Krylov**【選定理由】**

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 2。草地性の植物で、名古屋市では生育地がきわめて少ない。現存は確認できないが、まだ残存している可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧 I A 類相当と評価した。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧 I A 類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。根茎は細く、長く横にはい、まばらに稈を出す。稈は直立し、高さ 20～45cm になる。葉は基部のものは線形、長さ 10～30cm、幅 2～5mm、稈上の葉は少数が互生し、披針形、長さ 1～4cm、幅 3～7mm、葉鞘には下向きの毛があり、葉舌は高さ 1.5～3mm である。花期は 4～5 月、円錐花序は広卵形、長さ 4～8cm、枝は開出し、小穂は広倒卵形、長さ幅とも 4～6mm、黄褐色で光沢がある。小花は 3 個、そのうち下の 2 個は雄性、上の 1 個は両性である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

中川区（富田町供米田，高木順夫 s.n., 1993-4-25）に生育していた。

【県内の分布】

平野部から山地まで生育しているが、少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と春日井で確認されている。

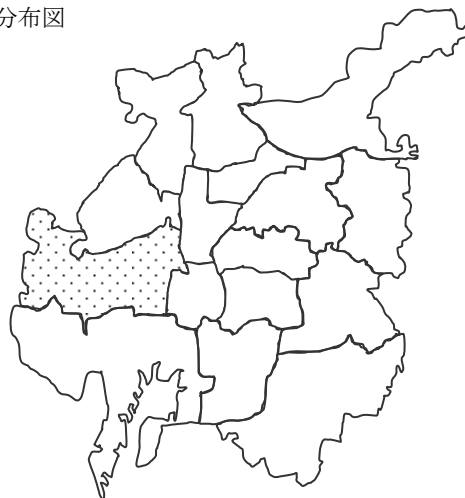
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、シベリア。基準変種はヨーロッパに分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地の日当たりのよい草地や林縁に生育するが、愛知県ではしばしば河川堤防の草地に生育している。名古屋市の生育地も戸田川の堤防であった。

【現在の生育状況／減少の要因】

数 m の範囲に群落があった。現地の状況に大きな変化はないが、最近の確認できない。

【保全上の留意点】

河川の堤防は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、平野部では貴重な草地的環境になっている。適切な管理を継続すると共に、改修などを計画する際には、身近な自然の確保という点も考慮する必要がある。

【特記事項】

和名は香茅で、乾燥すると香気があることに由来する。

【関連文献】

保草Ⅲ p.347, 平草Ⅰ p.118.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 pp.268-269. 平凡社, 東京.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 メギ科>

ヒメイカリソウ *Epimedium youngianum* Fisch. et C.A.Mey.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 1、補正+1（開発切迫）。名古屋市では 1 ヶ所で生育が確認されているだけで、しかもその場所が大きな開発圧にさらされている。県内分布までの評価点の合計は 15 であるが、危機的状況を考慮して補正值 1 を加え、絶滅危惧 I A 類と判定する。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧 I A 類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。硬質の短い地下茎がある。地上茎は数本が束生し、伸長すると高さ 20～40cm になる。葉は 2 回 3 出、あるいははじめ 2 出し、それぞれに 3 小葉をつけることが多いが、一定しない。小葉は卵形～卵状楕円形、長さ 3～8cm、先端は通常鋭頭、基部は深い心形、少数の刺毛状の鋸歯がある。花期は 4 月。総状花序に数個の花をつけ、花は白色、花弁は 4 個で、長さ 8～15mm の距がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（芹沢 51072, 1989-4-4）に生育していた。

【県内の分布】

丘陵地に点在しており、名古屋市のほか、蒲郡、田原東部、田原西武、藤岡、豊田北部、幸田、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、美浜、犬山、小牧、春日井で確認されている。額田にもあったが、標本を作成する前に盗掘され、消失してしまった。

【国内の分布】

本州西部、四国、九州。愛知県は分布域の東限にあたる。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

海岸近くの丘陵地の、林縁や明るい林内に生育することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

10 数株の小群落があったが、ごく最近の状況は確認できていない。個体数は見込み値である。「保護」と称して他の場所に移植するため採取する人もいるらしく、それによる集団の破壊も懸念される。

【保全上の留意点】

生育地が開発されればもちろん絶滅するが、開発されなければネザサなどに被陰されて衰退すると思われるし、管理を行えば今度は園芸目的の採取が懸念される。包括的な保護対策が必要である。適切な保護対策がとられるまでは、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。自然環境下への移植は、真の保全にならないだけでなく移植先の自然状態を破壊するため、原則として行ってはならない。どうしても人為的な系統保存を行う必要が生じたときには、公的機関の手で、管理が行き届く場所で行うべきである。

【特記事項】

名古屋市域で生育が確認されている唯一のイカリソウ属植物である。バイカイカリソウとイカリソウの交雑に起源する植物であるが、それなりの歴史性を持つと判断されるため、独立種として扱う。

【関連文献】

保草Ⅱp.202, 平草Ⅱp.90.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科>

カザグルマ *Clematis patens* C.Morren et Decne.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1、総点 16。湿地周辺の自然を象徴する植物の一つで、開発圧力の高い場所に生育しており、園芸目的の採取も無視できない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

つるになる落葉性の半低木。葉は対生し、羽状複葉、小葉は3～5枚、卵形で先はとがり、基部は円形または浅い心形、長さ4～8cm、ときに3裂するが鋸歯はない。花期は5～6月、1～3対の葉をつけた枝の先に1個の花を頂生する。花は上向きに平開し、直径7～12cm、がく片は通常8枚、淡紫色のものもあるが愛知県ではすべて白色、狭倒卵形、上部は広がり、先端は急に細まって鋭尖頭になる。そう果は広卵形で長さ5mm、残存花柱は3～4cmで強く曲がり、黄褐色の長毛がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（鳥居ちゑ子 1931, 2001-5-7）にわずかに残存している。安原（1990）にはよく花のついた写真が掲載されている。緑区（滝の水、浜島繁隆 s.n., 1971-5-18）にも生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、東三河、西三河、尾張の16区画に分布する。ただし渥美半島には少なく、知多半島からは知られていない。

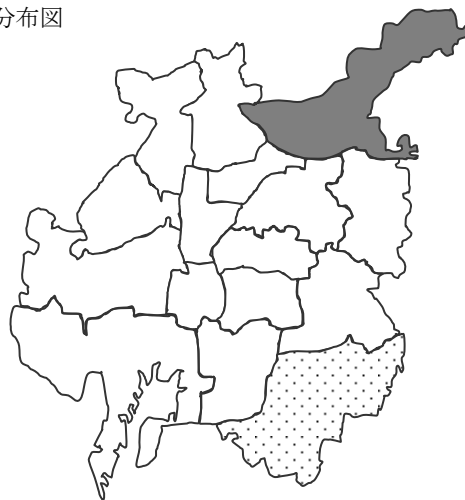
【国内の分布】

本州、四国、九州北部。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

湿地周辺の林縁、湿った土手などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

開発により生育地が破壊されたり、園芸目的で採取されたりして、現在の状態に至ったものと思われる。現生育地では湧水のある林縁に、小群落を作って生育している。茎葉は比較的によく茂っているが、着花数は少ない。遷移の進行により、被陰されて衰退することが懸念される。

【保全上の留意点】

丘陵地の崩壊地がなかなか放置できない現状では、地形の改変を伴わない二次林の伐採は本種の個体群維持にとって不可欠である。園芸目的の採取やカメラマン、観察者による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

園芸的には、遺伝子資源の確保という点で重要である。園芸植物のクレマチスは、本種などから交配により作出されたものである。名古屋市産の植物の彩色画は、2004年版図版4に掲載されている。

【引用文献】

安原修次. 1990. なごや野の花 p.46. エフエー出版, 名古屋.

【関連文献】

保草Ⅱp.226, 平草Ⅱp.73, 環境庁 p.447, SOS 旧版 p.50 (シロバナカザグルマとして), SOS 新版 p.103, 愛知県 p.351.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キンポウゲ科>

スハマソウ *Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai form. *variegata* (Makino) Kitam.**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 3、補正+1（開発切迫）、総点 17。名古屋市では 1 ヶ所で生育が確認されているだけで、しかもその場所が大きな開発圧にさらされている。

カテゴリー

名古屋市 2015	絶滅危惧 I A 類
愛知県 2015	準絶滅危惧
環境省 2014	準絶滅危惧

【形態】

常緑性の多年生草本。匍匐する根茎がある。根出葉は根茎の先に束生し、長い葉柄があり、やや三角形で基部は心形、幅 3～6.5cm、3 浅～中裂し、裂片は広卵形で先は鈍形である。花期は 3～4 月、高さ 10～15cm の花茎の先端に、直径 1～1.5cm の花を 1 個頂生する。花のすぐ下には、がくのように見える小さい茎葉が 3 枚輪生する。がく片は 6～10 枚、白色、披針形～卵状披針形である。ミスミソウ form. *japonica* からは、根出葉の裂片の先端が鈍頭で、茎葉の裂片の先端が鈍頭～円頭となることで区別される。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（芹沢 51071, 1989-4-4）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、西三河と尾張の一部地域（区画数にして 4 区画）に生育している。ミスミソウは東三河の一部地域に生育している。

【国内の分布】

本州（山形県、宮城県以南）および四国。

【世界の分布】

日本固有とされている。種としてはヨーロッパと東アジアに隔離的に分布している。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

通常落葉広葉樹の二次林内に生育するが、造林地内に生育していることもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数はかなり多かったが、園芸目的の採取により著しく減少した。生育地の丘陵はすぐ近くまで造成により破壊されており、その点でも極めて危機的な状況にある。

【保全上の留意点】

生育地が開発されればもちろん絶滅するが、開発されなければネザサなどに被陰されて衰退するし、ササ刈りなどの管理を行えば今度は園芸目的の採取が懸念される。包括的な保護対策が必要である。適切な保護対策がとられるまでは、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

スハマソウとミスミソウは通常品種の階級で区別される植物で、環境省のレッドデータブックでは一括してミスミソウの名で評価されている。しかし愛知県のレッドデータブックでは、県内の分布域が異なるため、両者を別のものとして評価している。名古屋市には狭義のミスミソウが分布していないので、両者を区別してもしなくても、評価は同じである。

【関連文献】

保草Ⅱ p.230, 平草Ⅱ p.70, 愛知県 p.534.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 アリノトウグサ科>

タチモ *Myriophyllum ussuriense* (Regel) Maxim.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 2、総点 16 汚染されていないため池に生育する植物で、
名古屋市では生育地が極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

多年生で抽水性の小形の水草。陸生型となることもある。茎は下部で分枝し、上部は直立して枝はなく、水中にあるものは長さ 50cm くらいになることがあるが、水上に出て湿地にはえるものは高さ 5~20cm である。水中葉は 3~4 個輪生し、披針形~広披針形、羽状深裂し、長さ 1.5~2cm、裂片は糸状線形である。花期は 6~8 月、花序は茎の先端につき、穂状、水面から出て直立し、花は淡紅色で小さく、雌雄異株、花序の葉は針形となって、羽裂しない。水中のものは、冬も植物体の一部が枯れずに残る。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味吉田、鳥居ちゑ子 1872, 2000-10-1）に生育している。守山区の他の場所（吉根平池、飯尾俊介 21, 1964 年）、千種区（覚王山猫ヶ洞池、沢井輝男 s.n., 1932 年）で採集された標本もある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、豊橋北部、田原東部、みよし、瀬戸尾張旭、長久手日進、半田武豊、常滑、犬山で確認されている。尾張東部から知多半島にかけての丘陵地には比較的多いが、他では極めて少ない。西三河では、現在のところ確認されていない。

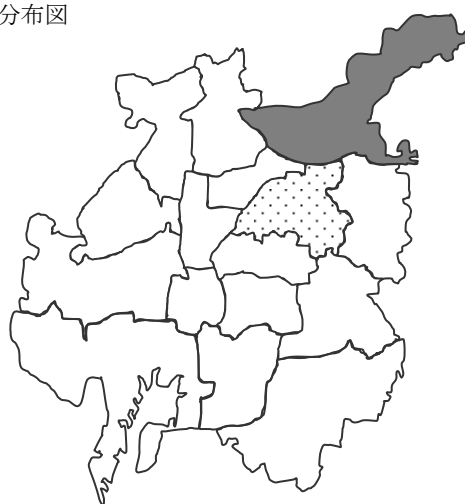
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸東北部、アムール、ウスリー。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の浅いため池などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

滝ノ水池の池畔に小群落があった。池自体は将来も存続すると思われるが、現在の水質が維持されなければ、本種の存続は困難である。

【保全上の留意点】

滝ノ水池は本種以外にもオオトリゲモ、ツクシクロイヌノヒゲなど名古屋市では希少な植物が生育しており、周辺の丘陵地と共に、現在の水質と環境を維持すべき場所である。

【関連文献】

保草Ⅱp.36, 平草Ⅱp.270, 愛知県 p.556.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.136. 文一総合出版, 東京.

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.236. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 マメ科>

イヌハギ *Lespedeza tomentosa* (Thunb.) Sieb. ex Maxim.

カテゴリー

【選定理由】

生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 2。全国的に減少傾向の著しい草地性植物で、名古屋市でも生育地、個体数ともに極めて少ない。現存は確認できないが、どこかに残存している可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧ⅠA類と評価した。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

多年生草本。高さ60～150cmになり、全体に褐色をおびた斜上する毛がある。葉は互生し、下部の葉には長さ2～4.5cmの柄があり、葉身は3出葉、頂小葉は楕円形～長楕円形、円頭、長さ3～6cm、幅1.5～3cmである。花期は7～9月、茎の先端や上部の葉腋から出た枝の先に長い総状花序をつける。花は黄白色で、多数つき、長さ8～10mmの蝶形花、がくは5深裂し、長さ約6mmである。通常花のほか、閉鎖花が葉腋に集まってつく。豆果は卵形で、長さ4～5mmである。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷、高木順夫 8984, 2000-10-1; 吉根庄内川堤防、鳥居ちゑ子 2440, 2004-9-21）に僅かに生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、稲武、鳳来北西部、豊川、豊橋北部、豊田東部、西尾北部、東海知多で確認されている。ただし東海知多では絶滅した。

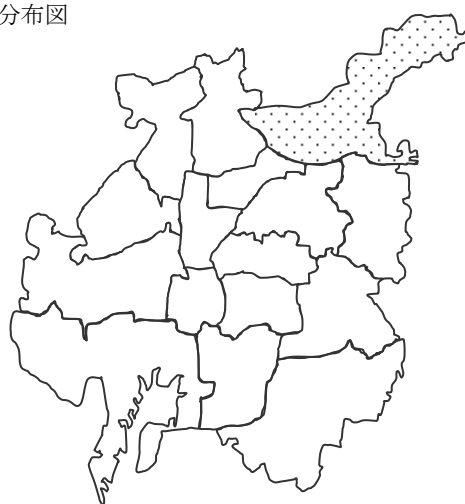
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、インド、ヒマラヤ。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい草地に生育するが、たいていはどの場所でも個体数が少なく、散在的に生育しているだけである。しばしば用水わきの草地に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

どちらの場所でも1株確認しただけであるが、いかにも本種が生育しそうな場所であったことから偶産種とは考えず、本書に掲載した。上志段味では、遷移の進行により低木が繁茂し、消失した。吉根ではその後確認できないが、生育環境は残っている。愛知県全体で見ても、採草地が利用されなくなったため、本種が生育できるような場所は著しく減少している。東海知多では愛知用水わきの草地に小群落があったが、改修工事により消滅した。

【保全上の留意点】

草地の保全が必要である。特に幹線水路わきの草地は多くの草地性植物の逃避場所になっており、改修工事の際には十分な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、植物体が直立し、全体に黄褐色の毛が多い状態に由来するものと思われ、おそらくネコハギに対する名である。

【関連文献】

保草Ⅱp.97, 平草Ⅱp.206, 環境庁 p.479, SOS 旧版 p.60+図版 13, SOS 新版 p.87, 愛知県 p.374.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 イラクサ科>

ミヤコミズ *Pilea kiotensis* Ohwi

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 4、補正+1（分布東限）、総点 17。西日本系の植物で、
名古屋市では1ヶ所に生育しているだけであり、これが愛知県で
唯一の自生地である。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	リスト外

【形態】

多汁質の1年生草本。茎の下部は地上をはって枝を分けるとともに不定根を出し、上部は斜上または直立して高さ20～30cmになる。葉は対生し、長さ6cmに達する柄があり、葉身は卵形、長さ4～9cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形で左右非対称、片側は外に凸、片側は内に凸の曲線になり、辺縁には4～8個の大きい鋸歯がある。花期は9～10月、集散花序は葉腋から出て、茎の先端部につくものは雄花が多く、直径8～15mm、下のものほど長い柄があって全体として茎頂に集まり、それより下の葉腋につくものは雌花が多く、柄は短い。花序の柄は片側に毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（鳥居ちゑ子 2198, 2002-9-21）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市が県内では唯一の自生地である。

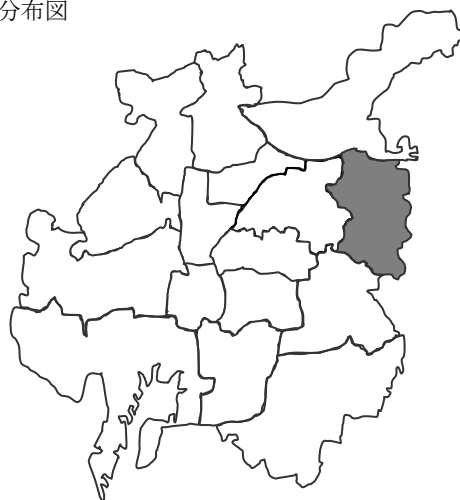
【国内の分布】

本州西部と九州北部。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの湿った林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

小川の岸に小群落がある。現地は名古屋市内では奇跡的に開発を免れた、やや深山的な感じのする場所である。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全すること、川に生活排水が流入しないよう注意し、水質を維持することが必要である。目立たない植物なので園芸目的の採取は考えにくい、希少ということで多くの人に知られるようになれば、観察者や写真撮影者の踏み荒らしも懸念される。

【特記事項】

全国的に見ても希少な植物で、分布域の東限にもなっており、名古屋市の植物の中ではマメナシに次いで保全上の重要性が高い植物と思われる。名古屋市産の植物の彩色画は2004年版図版2に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅱpp.334-335, 平草Ⅱp.5, 環境庁 p.435, 愛知県 p.85.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ニシギギ科>

ウメバチソウ *Parnassia palustris* L. var. *multisetata* Ledeb.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、
県内分布 1、総点 16、湧水湿地に生育する温帯系の植物で、名古屋
市では生育地が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。根茎は短く直立し、数個の長柄のある根出葉と 1～15 本の花茎を束生する。葉身は卵形または広卵形、長さ幅とも 1.5～4cm、全縁、先端は円形で僅かに尖り、基部は心形である。茎葉は 1 個で、無柄、基部はやや茎を抱く。花期は 10 月、花は高さ 15～60cm の花茎の先端に 1 個つき、白色で直径 2～2.5cm、花弁は通常 5 枚、全縁、仮雄ずいは糸状に 15～22 裂する。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷山、鳥居ちゑ子 1168, 1996-11-4）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育している。

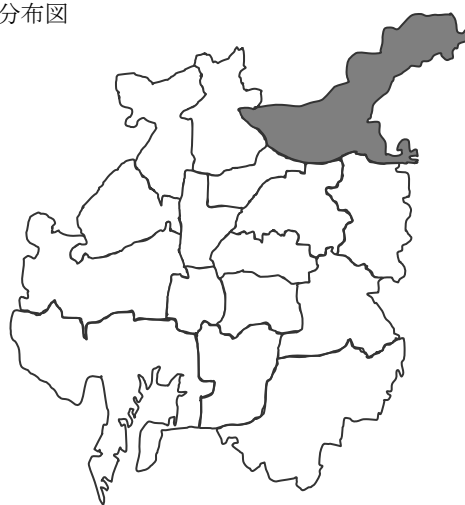
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

東アジア北部に分布する。種としては北半球の温帯～寒帯に広く分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

丘陵地から高山までの、日当たりのよい湿地に生育する。山地では湿地と言うほどでないやや湿った草地に生育していることもあるが、愛知県の丘陵地では生育地は湧水湿地に限られる。

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地の周辺は近年道路や駐車場が整備され、交通量も次第に増加しており、生育状況は徐々に悪化している。園芸目的の採取や観察者・カメラマンによる攪乱も懸念される。

【保全上の留意点】

名古屋市東部を含む愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、絶滅危惧種も多く、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。また、湿地が小さい場合は周囲の森林を伐採し、光条件を確保する必要がある。森林の伐採は、水収支の回復という点でも重要である。「森林を伐採すると水が枯れる」と心配する人もいるが、実際には話が逆で、森林化が進むと蒸散量が増加し、湿地の水が枯れてしまう。

【特記事項】

湿地の花の中では、リンドウやヤマラッキョウとともに、最も遅く咲くものの一つである。和名は花の形が梅鉢紋に似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅱp.144, 平草Ⅱp.154.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ミカンソウ科>

ヒトツバハギ *Securinega suffruticosa* (Pall.) Rehder var. *japonica* (Miq.) Hurus.**【選定理由】**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 3、総点 18。名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の低木。高さ2～3mになる。葉は互生し、3～6mmの柄があり、葉身は長楕円形、長さ4～7cm、先端は鋭頭または鈍頭、基部はくさび形、辺縁は全縁で小さく波打ち、両面無毛、表面は緑色、裏面は白色を帯びる。花期は6～8月。雌雄異株で、雄花は葉腋に多数束生し、雌花は葉腋に1～5個つく。蒴果は扁球形で、直径4～5mmになる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（中志段味庄内川堤防、芹沢 77892, 2002-7-1）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋市から渥美半島にかけてと瀬戸尾張旭、春日井に生育しているが、多いものではない。

【国内の分布】

本州（中部地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

丘陵地の林縁や疎林内、草地などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

庄内川の堤防に、少数の個体が生育していた。最近を確認していないが、生育環境は残っている。

【保全上の留意点】

河川の堤防は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、平野部では貴重な草地的環境になっている。堤防の改修に際しては、身近な自然の確保という観点も含めて、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、全体にハギに似ているが葉が単葉だからである。

【関連文献】

保木 I p.339, 平木 I p.263.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ミソハギ科>

ヒメミソハギ *Ammannia multiflora* Roxb.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 16。水田雑草で、名古屋市では生育地が極めて
少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

1年生草本。茎は直立し高さ20～40cm、無毛で4稜がある。葉は対生し、ほとんど無柄、葉身は長楕円形、長さ2～5cm、先端は鈍頭～鋭頭、基部はやや耳状で茎を抱く。花期は9～11月、花は葉腋に密につき、直径約1.5mm、がく筒は鐘形でやや4稜があり、花弁は4個で小さく、倒卵形、淡紫色。雄蕊は4個である。蒴果は球形で直径約2mm、紅紫色、不規則に裂けて多数の種子を出す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味才井戸流付近、村松正雄 26191, 2011-10-2）に生育している。守山区の他の場所（小幡米野、福岡義洋 1993, 1992-10-2）で採集された標本もある。

【県内の分布】

東三河中南部には比較的多いが、西三河では少ない。尾張では稀で、名古屋市のほかは長久手日進で確認されているだけである。

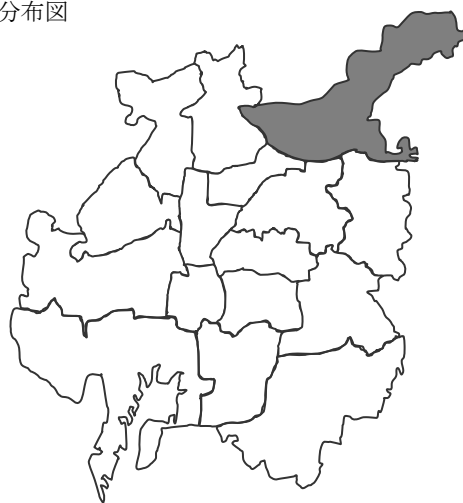
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

アジア、アフリカ、オーストラリアの熱帯～暖帯に広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

水田や湿地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

標本は高さ 70cm に達するよく発達した個体だが、株数は僅かであった。小幡米野では最近の状況は確認されていないが、宅地化が進んでいるので、この場所ではすでに絶滅した可能性が高い。

【保全上の留意点】

才井戸流は、水の恵みを象徴するような場所であるにもかかわらず、水源部に産業廃棄物処分場が設置され、土地区画整理事業も進行している。生物多様性という点では名古屋市で最も重要な場所の一つで、地形的にも貴重であり、可能な限り保全策を講じる必要がある。

【特記事項】

名古屋市でも普通にみられる帰化植物のホソバヒメミソハギ *A. coccinea* Rottb.からは、葉が幅広く、基部があまり耳状に張り出さず、花弁が小さいことで区別できる。

【関連文献】

保草Ⅱ pp.46-47, 平草Ⅱ p261.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ミソハギ科>

ヒメビシ *Trapa incisa* Sieb. et Zucc.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 4、総点 18。名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

1 年生の水草。茎は地中から長く伸びて水面に達し、節から羽状に分裂した根状の沈水葉を出す。浮水葉は茎の先端に放射状に叢生し、葉柄は長さ 0.5～5cm、中央部は長楕円状にふくらみ、浮きぶくろとなり、葉身は広卵状菱形、幅 1～2cm、上部の辺縁はあらい欠刻状の鋸歯となり、裏面の脈上にはまばらに毛がある。花期は 7～10 月、花は葉腋から出た柄の先に 1 個ずつつき、白～淡紅色（今回名古屋市で確認した個体は白色であった）、直径 6～8mm。果実は石果で倒三角形、幅約 20mm、4 個の刺がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

中区（名古屋城外堀，芹沢 89707，
2014-9-29）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊田東部の 3 ヶ所のため池で確認されているだけである。

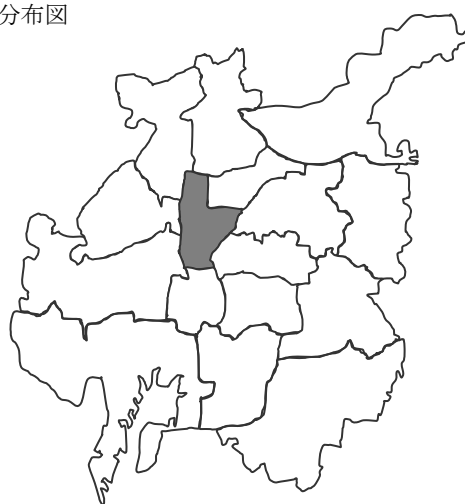
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

東アジア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部や丘陵地の池沼に生育する浮葉植物。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋城の外堀で僅かに生育している。外堀では春にヒシ属の芽生えが多数確認されるが、夏になるとほとんど消えてしまう。外堀に堆積する植物遺骸の中からは本種の果実が複数確認されるが、調べた範囲では発芽能力を失っていた。

【保全上の留意点】

生育地の水質を保全する必要がある。ヒシ属は水草の中では比較的汚染に耐性があるが、本種だけは汚染に弱いらしく、全国的に減少傾向が著しい。愛知県においてもかつては点在していたと思われるが、標本は残されていない。過去の記録はコオニビシ *T. japonica* Flerov var. *pumila* (Nakano) Kadono と混同されている可能性があり、再検討が必要である。

【特記事項】

今回得られた標本は、典型的なヒメビシに比べると、果実の刺がやや太く短い。しかし底土中の植物遺骸の中から出てきたものは、典型的な本種の果実であった。

【関連文献】

保草Ⅱp.45，平草Ⅱp.262，環境庁 p.492，愛知県 p.208。
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.129．文一総合出版，東京。
角野康郎．2014．ネイチャーガイド 日本の水草 p.250．文一総合出版，東京。

（執筆者 中村 肇）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 モウセンゴケ科>

イシモチソウ *Drosera peltata* Thunb. var. *nipponica* (Masam.) Ohwi**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、
県内分布 1、総点 16。全国的に減少傾向の著しい食虫植物で、
名古屋市では僅かに残存しているにすぎない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

食虫性の多年生草本。地下に球形の塊茎がある。地上茎は高さ 10～30cm、はじめは根出葉があるが、花期にはなくなる。茎葉はまばらに互生し、長さ 10～15mm の細い葉柄があり、葉身は三日月形で幅 4～6mm、基部は湾入し、表面と辺縁に昆虫類を捕らえるための長腺毛が多い。花期は 5～6月、茎の先端のまばらな総状花序に、2～10 個の白色の花をつける。花弁は 5 枚で広倒卵形、長さ 6～8mm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷、鳥居ちゑ子 1313, 1998-5-9; 大森八竜、鳥居ちゑ子 342, 1993-5-14）、千種区（田代、井波一雄 s.n., 1933-7-1, CBM127129）、天白区（天白、井波一雄 s.n., 1941-5-22, CBM127121）、緑区（桶狭間、瀧崎吉雄 s.n., 1953-6-14）などで採集された標本があるが、これらの場所ではいずれも現存を確認できない。現在残存しているのは、守山区の他の 1ヶ所にすぎない。

【県内の分布】

西三河と尾張の丘陵地に点在する。東三河では極めて稀で、1ヶ所に少数の個体が生育しているだけである。新城、豊橋北部、豊橋南部、幸田などでは、過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

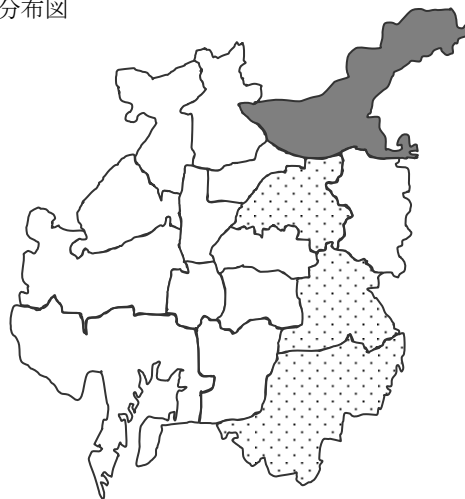
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球（西表島）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

丘陵地の湿地やその周辺のやせ地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市東部の丘陵地には点在していたはずであるが、開発により生育できる環境が失われ、現在の状態に至ったものと思われる。守山区愛知用水沿いでは、用水の改修により絶滅した。緑区滝の水湿地では、宅地造成により生育地が破壊され、絶滅した。現在残存が確認されている生育地は 1ヶ所にすぎない。園芸目的の採取も深刻で、他地域では市町村誌ではっきり生育地が示されたことが、絶滅の引き金になったのではないと思われる例もある。

その一方で、一部の湿地では、市民グループ等の手でもととはなかった場所への移入が行われ、本来の自然状態に対する大きな脅威となっている。自然環境下への移植は、原則として行ってはならない。本来ないものは、「ない」のが自然の状態であることを認識する必要がある。

【保全上の留意点】

湧水湿地やその周辺のやせ山を、水源部の地形を含めて保全する必要がある。その一方で園芸目的の採取や観察者・カメラマンによる攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、葉の腺毛に小石がつくからだと言われる。

【関連文献】

保草Ⅱp.167, 平草Ⅱp.121, 環境庁 p.464, SOS 旧版 p.54, SOS 新版 p.111, 愛知県 p.357.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 アジサイ科>

コガクウツギ *Hydrangea luteo-venosa* Koidz.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 4、総点 18。西日本系の植物で、愛知県は近畿地方以西と伊豆半島をつなぐ、地理的に重要な自生地である。名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の小低木。高さ 1.5m 程度になる。葉は対生し、長さ 2~5cm の柄があり、葉身は長楕円形~広倒披針形、長さ 3~5cm、先端は鋭頭、基部はくさび形、葉縁には 3~4 の低い鋸歯がある。表面はしばしば脈に沿って黄斑がある（愛知県のものはない）。花期は 6~7 月で、2~3 対の葉のある短枝の先端に、10~20 花からなる直径 2~7cm の集散花序をつけ、うち 1~2 個は白色の装飾花、残りは淡黄緑色の通常花である。装飾花のがく片は 3~4 枚で、卵形~ほとんど円形、大きいものは長さ 2cm に達する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根太鼓ヶ根、芹沢 81345, 2007-5-20）に数株が点在して生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほかには豊橋北部に 1 ヶ所、少数の個体が生育しているだけである。

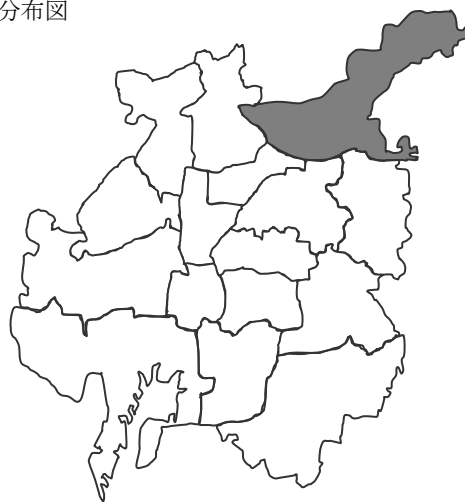
【国内の分布】

本州（伊豆半島、愛知県、近畿地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

暖帯域の丘陵地、低山地の斜面に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

数株が点在している。生育地は名古屋市内では自然度の高い場所で、植栽されたものとは考えにくい。近くに森林公園があるため、二次的に逸出した可能性は完全には否定できない。周辺は開発が進んでおり、その点でも将来の存続が懸念される。

【保全上の留意点】

僅かに残った丘陵地の地形を保全することが必要である。

【関連文献】

保木Ⅱp.118, 平木Ⅰp.171, 愛知県 p.184.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 アジサイ科>

イワガラミ *Schizophragma hydrangeoides* Sieb. et Zucc.

カテゴリー

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 1。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。現存は確認できないが、調査が不十分であることを考慮し、定性的に絶滅危惧 I A 類と判定した。

名古屋市2015	絶滅危惧 I A 類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性のつる性木本。幹は太いものでは直径 5cm 以上になる。葉は対生し、長さ 3~12cm の柄があり、葉身は広卵形、長さ 5~16cm、幅 5~10cm、先端は鋭頭、基部は切形または浅心形、葉縁にはやや大きな鋭鋸歯があり、脈腋に密毛がある。花期は 5~7 月。本年枝の先に直径 10~20cm の散房花序をつける。装飾花のがく片は 1 枚だけが発達し、白色で広卵形、長さ 16~35mm になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根太鼓ヶ根、鳥居ちゑ子 1968, 2001-6-17）に生育していた。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育している。

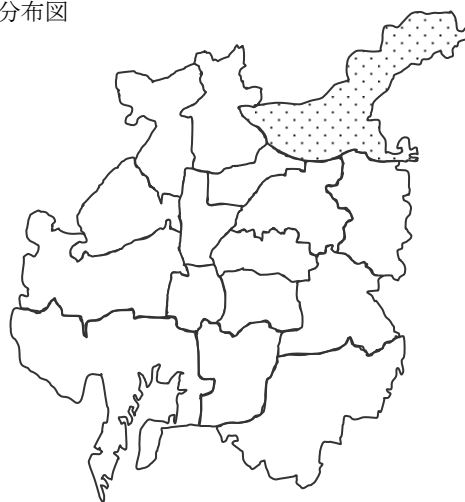
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、鬱陵（ウルルン）島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内や林縁に生育し、しばしば他木にからみついて高く伸びる。

【現在の生育状況／減少の要因】

未開花の幼木が地上に小さなかたまりで生育していた。この場所は駐車場造成のため破壊されたが、周辺のどこかにまだ残存しているかもしれない。以前は開花するような株もあったらしい。

【保全上の留意点】

吉根では、都市化により丘陵地そのものが消滅しつつある。何はともあれ、丘陵地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

「こんな普通種が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。ツルアジサイに似るが、葉の鋸歯があらく、装飾花のがく片が 1 枚だけ発達することで区別される。

【関連文献】

保木 II p.110, 平木 I p.165.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 リンドウ科>

コケリンドウ *Gentiana squarrosa* Ledeb.**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 3、総点 17。愛知県では生育地が少なく減少傾向も著しい、小型の草地性植物である。名古屋市でも生育地、個体数共に少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

小型の越年生草本。茎は高さ 3～10cm、よく分枝し、基部に狭菱卵形～卵状菱形で長さ 2～4cm の根出葉がロゼット状につく。茎葉は小さく、卵形で長さ 4～10mm、対生し無柄、基部は合着して短い鞘になる。花期は 3～5 月、がく筒は長さ 4～6mm、裂片の上部は反曲し、先端は刺状となる。花冠は筒状、長さ 10～15mm、淡青色、先端は 5 裂し、裂片の間に小型の副片がある。さく果は残存する花冠の外に突き出る。

【分布の概要】**【市内の分布】**

千種区（月ヶ丘，鳥居ちゑ子 2314, 2003-5-23）。ただし最近では生育地が立ち入り禁止になっており、存否を確認できない。

【県内の分布】

県中西部（尾張、西三河）では、名古屋市以外の産地は知られていない。東三河では、新城、豊川宝飯、豊橋北部で確認されている。

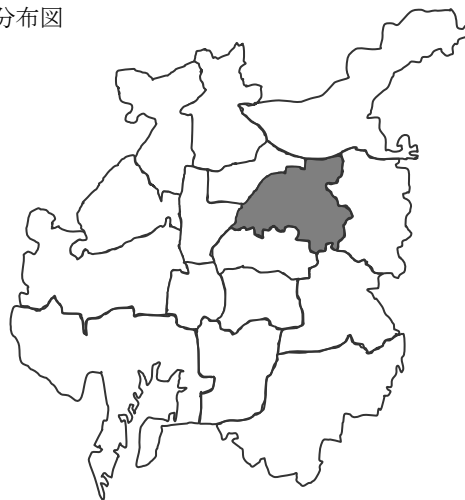
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸、インド北部、シベリア。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

日当たりのよい草地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

数 10 株生育していたが、小型の草本なので、個体数階級を 3 と評価した。小型の植物だけに、大型の草本が繁茂すればすぐに消滅してしまう。愛知県内でも、現在本種が生育している場所は水田周辺の草地や河川の堤防、池の周辺など、定期的に草刈りが行われるような場所に限られている。

【保全上の留意点】

生育地を、丈の低い草地状態のまま保全することが必要である。

【特記事項】

名古屋市のものは根出葉が小さく、東三河のものやや異なっている。愛知県では、小型のリンドウ類として本種の他にフデリンドウとハルリンドウが生育している。このうちフデリンドウは、全国的にはそれほど少ない植物ではないが、名古屋市では確認されていない。ハルリンドウは、市内でもあちこちの湿地に生育している。

【関連文献】

保草Ⅰ p.219, 平草Ⅲ p.30, SOS 旧版 p.70, SOS 新版 pp.131,133, 愛知県 p.402.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キョウチクトウ科>

スズサイコ *Cynanchum paniculatum* (Bunge) Kitag.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	国リスト
環境省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1。全国的に減少傾向の著しい草地性植物で、愛知県ではまだかなり残存しているが、名古屋市では生育地も個体数も少ない。現存は確認できないが、再発見される可能性を考慮し、絶滅危惧ⅠA類と評価した。

【形態】

多年生草本。多数のやや太いひげ根がある。茎は細く、直立して上部はやや傾き、高さ 40～100cm になる。葉は対生して斜上し、ほとんど無柄、葉身は狭披針形～線状長楕円形、長さ 8～16cm、幅 0.7～2cm、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁である。花期は 7～8 月、茎の先や上部の葉腋から長い柄のある花序を出し、集散状にまばらに花をつける。花冠は黄褐色で 5 裂し、裂片は開出して長さ 5～8mm、副花冠は直立し、卵形、鈍頭で、ずい柱より短い。果実は袋果で細長い披針形、長さ 5～8cm、種子は卵形で狭い翼があり、長さ 4～5mm、先端に長い白毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味稲堀田新田、鳥居ちゑ子 1980, 2001-6-28）、天白区（島田天白川堤、渡邊幸子 3202, 1997-8-25）に生育していた。

【県内の分布】

主として丘陵部に点在し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、常滑、知多南部、犬山、江南丹羽、岩倉西春日井の 8 区画で確認されている。濃尾平野中央部では確認されていない。

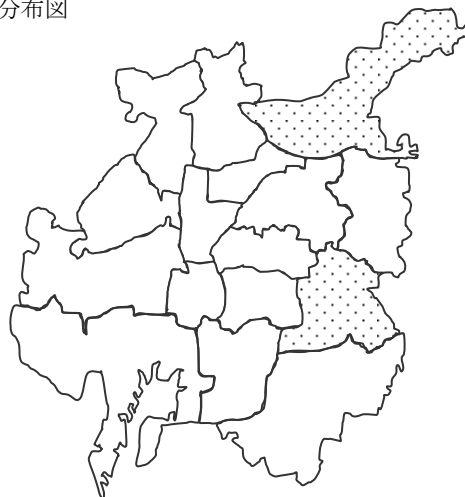
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日あたりのよい草地に生育する。点在するが、大きな群落は作らない植物である。愛知県では、丘陵部～低山地の谷戸田周辺の里草地に点在している。平野に近い部分では、河川の堤防や水路わきの草地などに生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

天白区では天白川の堤防に少数株が生育していたが、最近では確認できない。守山区では野添川の堤防に小群落があったが、堤防の改修により消失した。

【保全上の留意点】

河川の堤防は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、平野部では貴重な草地的環境になっている。堤防の改修に際しては、身近な自然の確保という観点も含めて、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、つばみが鈴に似て、全形が薬用のミシマサイコに似ているからである。2014 年のレッドリスト案では絶滅危惧ⅠB類として掲載したが、その後の情報集約により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅰ p.206, 平草Ⅲ p.40, 環境庁 p.515, SOS 新版 p.82, 愛知県 p.632.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 シソ科>

シマジタムラソウ *Salvia isensis* Nakai ex H.Hara

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
県内分布 1、補正+2（固有）、総点 16。本地域の湧水湿地を特
徴づける植物の一つで、名古屋市では生育地が極めて少ない。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

多年生草本。茎は四角形で直立し、高さ 20～80cm、下部には開出する長毛がある。葉は対生し、1～2 回羽状複葉、茎の下部に集まることが多い。小葉は卵形で、葉の先端のものが大きく、側羽片はやや小形、辺縁には鈍鋸歯があり、質は一般に薄い、蛇紋岩地のものはやや厚く、脈は表面でくぼむ。花期は7～8月、茎や枝の先に長い穂状の花序を作る。花はややまばらに輪生し、がくは長さ 5～6mm、花冠は淡青紫色、長さ 1cm 内外、筒部内面の中央に輪状に毛があり、雄ずいは曲がらず、花外に突き出る。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷、鳥居ちゑ子 673, 1994-7-16）に生育している。名東区（猪高緑地、鳥居ちゑ子 1014, 1995-10-21）、緑区（鳴海、岡田善敏 s.n., 1944-10-10）で採集された標本もある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来南部、新城、足助、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、半田武豊、常滑、知多南部で確認されている。豊橋市から渥美半島にかけてと犬山市から春日井市にかけてでは発見されていない。

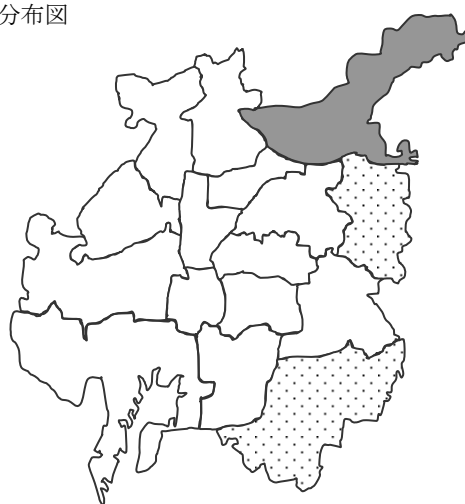
【国内の分布】

本州（岐阜県、愛知県、三重県）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

東三河と三重県では、蛇紋岩地の疎林内や半裸地状の場所などに生育する。西三河、尾張と岐阜県では、湧水湿地周辺の林内に生育することが多いが、湿地内の日当たりのよい場所、水田わきの湿った草地などに見られることもある。比較的耐陰性のある植物で、湿地性植物の中では森林化が進行してもかなり遅くまで林内に残存しているが、それでもあまり暗いところでは生育できない。

【現在の生育状況／減少の要因】

狭い範囲にかなりの個体が生育しており、周辺にも少数個体があったが、被陰のために個体数が減少し、花つきも悪くなってしまった。

【保全上の留意点】

丘陵地の湧水湿地を、周辺の林を適宜伐採しながら維持することが必要である。

【特記事項】

集団間の遺伝的分化や広義ナツノタムラソウ *S. lutescens* Koidz.との関係について、今後更に検討する必要がある。花の形態は、ナツノタムラソウ類とほとんど異ならない。名古屋市産の植物の彩色画は 2004 年版図版 7 に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅰ p.168, 平草Ⅲ p.81, 環境庁 p.524, SOS 旧版 p.77+図版 17, SOS 新版 p.110, 愛知県 p.575.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ハマウツボ科>

コシオガマ *Phtheirospermum japonicum* (Thunb.) Kanitz**【選定理由】**

生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1。名古屋市では生育地が極めて少ない。現存は確認できないが、再度出現する可能性があるため、定性的に絶滅危惧 I A 類と評価した。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧 I A 類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

半寄生の一年生草本。全体に軟らかい腺毛が密に生える。茎は直立し、高さ 30～70cm になる。葉は対生し、4～10mm の柄があり、葉身は三角状卵形、長さ 2～3.5cm、羽状に深裂し、下部の裂片は更に切れ込み、辺縁には不規則にとがった鋸歯がある。花期は 9～10 月、花は茎の上部の葉腋に 1 個ずつつき、花冠は淡紅紫色、長さ約 2cm、外面に軟毛と腺毛がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷，鳥居ちゑ子 798, 1994-10-15）、名東区（猪高緑地，鳥居ちゑ子 2525, 2006-10-10）で記録されている。

【県内の分布】

三河山地には比較的多いが、低山地や丘陵地には少ない。尾張では名古屋市のほか、長久手日進、東海知多、美浜南知多、犬山で確認されている。

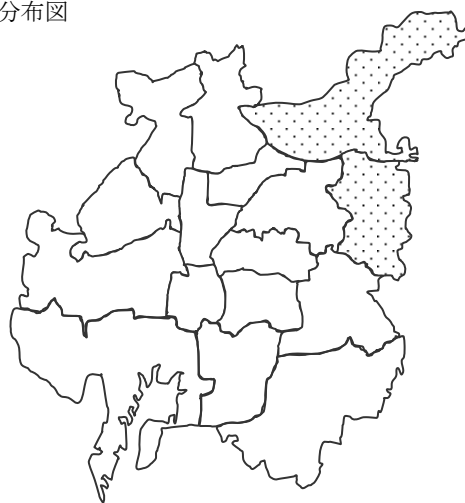
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

日当たりのよい草地や半裸地に生育する。しばしば林道わきの崖地などに見られる。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では愛知用水わきの林縁に 10 数株生育していたが、15 年近く前にすでに見られなくなった。名東区では遊歩道わきに 20 株程度が生育していたが、この場所でもその後見られなくなった。

【保全上の留意点】

攪乱地や伐採跡地などに生育することが多い植物なので、そのうちに再度出現する可能性もある。さらに注意して探索する必要がある。

【特記事項】

2014 年のレッドリスト案では絶滅危惧 I B 類として掲載したが、その後の情報集約により評価が変更された。東海地方の固有植物の一つであるミカワシオガマ *Pedicularis resupinata* L. var. *microphylla* Honda は、森林公園の尾張旭市側には生育しているが、名古屋市内では生育が確認されていない。

【関連文献】

保草 I p.135, 平草 III p.115.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 タヌキモ科>

ムラサキミミカキグサ *Utricularia uliginosa* Vahl

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、
県内分布 1、総点 16。湧水湿地性の食虫植物で、名古屋市では生
育できる環境が激減し、僅かに残存しているだけである。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

小型の食虫性の多年生草本。地下茎は糸状で、まばらに捕虫囊をつける。地上葉はへら形～倒披針形、長さは柄を除いて2～3mmのものから3cmを越すものまでである。花期は8～9月、花茎は直立し、高さ5～15cm、上部に1～4花をつけ、花には長さ2～8mmの花柄がある。がくは広卵形で長さは花時に2～3mm、膜質、花後4～5mmに伸長して耳かき状の宿存がくとなり、蒴果をつつむ。花冠は淡藍紫色、長さ3～6mm、距は長さ2～3mm、下向きで、先端はやや前方に曲がる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味森林公園、芹沢 56227, 1990-8-8; 小幡緑地、芹沢 56209, 1990-8-8）に生育している。天白区（八事裏山、渡邊幸子 1415, 1993-10-28）にも生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、設楽西部、作手、豊橋北部、田原東部、田原西部、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、瀬戸尾張旭、豊明東郷、半田武豊、常滑、犬山、春日井で確認されている。

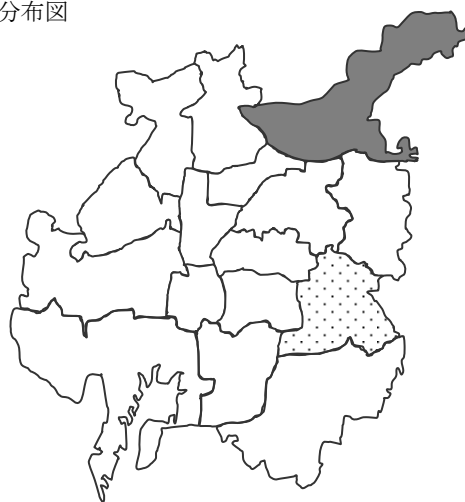
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本から東南アジア、インド、オーストラリアにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の、裸地状の場所に生育する。ミミカキグサやホザキノミミカキグサよりも湿潤な場所に多く、しばしば浅い水中に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

開発等による湧水湿地の減少に伴い、現在の状態に至ったものと思われる。近年の夏の高温乾燥傾向によって、同属の他種以上に大きな影響を受けている。天白区八事裏山では多数の個体が生育していたが、遷移の進行によって大型の草本に被陰され、最終的には東海豪雨によって湿地が埋没して見られなくなった。

【保全上の留意点】

生育地である湧水湿地を保全する必要がある。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形もあわせて保全する必要がある。また、本種の場合は特に湿潤な場所に生育しているので、周辺部の森林を伐採し、水収支の回復や湿地の縮小防止を図る必要がある。その一方で、踏み荒らし防止のため、湿地自体にはなるべく立ち入らないようにする配慮も必要である。

【関連文献】

保草Ⅰ p.121, 平草Ⅲ p.138, 環境庁 p.532, 愛知県 p.581.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キキョウ科>

キキョウ *Platycodon grandiflorum* (Jacq.) A.DC.**【選定理由】**

生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1。全国的に減少傾向の著しい代表的な草地性植物である。名古屋市では最近ほとんど確認されておらず、定性的に絶滅危惧ⅠA類と評価した。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

多年生草本。根茎は太い。茎は直立し、高さ 50～100cm になる。葉は茎の下部では対生または 3 輪生、上部では少しくずれて互生し、無柄または短い柄があり、葉身は狭卵形、長さ 4～7cm、幅 1.5～4cm、先端は鋭頭、辺縁に小さい鋭鋸歯があり、表面は無毛、裏面は短毛があつて粉白色をおびる。花期は 7～8 月、茎の先端部に 1～数個の花をつけ、花冠は青紫色で広鐘形、先は 4～5 裂し、直径 4～5cm である。雄ずいは 5 個で、雌ずいより先に熟す。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（下志段味吉田、鳥居ちゑ子 2336, 2003-7-2）、名東区（猪高緑地、鳥居ちゑ子 1986, 2001-7-13）、天白区（菅田三丁目、伊藤晶子 140, 2003-7-18 など）、緑区（鳴海町水広下池付近、芹沢 77575, 2001-9-8）で採集された標本がある。しかし緑区ではすでに絶滅、他の場所でも最近ほとんど確認されていない。

【県内の分布】

全国的には減少傾向が著しいが、愛知県ではまだ比較的多く残存しており、尾張では名古屋市のほか瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、半田武豊、常滑、犬山、春日井の 8 区画で確認されている。

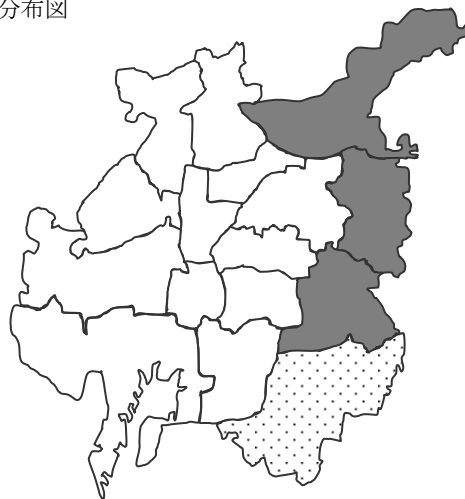
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球（請島）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウズベキスタン。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市ではもともと個体数が少なく、林縁部の草地、ため池の周辺などに僅かに残存しているだけであった。丘陵地の開発、草地の利用停止などが減少の最大要因であるが、個体数の減少につれて、園芸目的の採取も目につくようになった。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地（いわゆるボタ）には、本種以外にもさまざまな草地性植物が生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。また、河川の堤防や幹線用水路わきの草地は、管理上の理由で定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で、多くの草地性植物の逃避地になっている。堤防や水路の改修にあたっては、このような植物の最後の生育場所を奪わないよう、特に配慮が必要である。

【特記事項】

秋の七草の「朝貌」は、本種のことだと言われている。

【関連文献】

保草Ⅰ p.91, 平草Ⅲ p.149, 環境庁 p.538, SOS 新版 p.83, 愛知県 p.586.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 スイカズラ科>

オミナエシ *Patrinia scabiosaefolia* Fisch.

カテゴリー

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、
県内分布 1、総点 16。代表的な草地性の植物で、名古屋市では僅
かに残存しているだけである。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は高さ 70~120cm で、下部にまばらにあら毛がある。葉は対生し、下部のもの
には柄があり、葉身は羽状に深〜全裂し、頂羽片が最も大きく、長楕円状ひし形〜線状楕円形、長
さ 2~6cm、鋭頭〜鋭尖頭、側羽片は 1~3 対である。花期は 8~10 月、枝先に上部がほぼ平らの集
散花序を散房状につける。花は多数つき、黄色、花冠は 5 裂し、直径 3~4mm、雄ずいは 4 本であ
る。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑区（渡邊幸子 6443, 2012-10-19）に生育
している。守山区（大森、犬飼 清 s.n.,
1953-9-10）、千種区（覚王山、沢井輝男 s.n.,
1932-8-6）で採集された標本もある。守山区
の森林公園に続く県有林で撮影したという写
真は、安原（1990）に掲載されている。

【県内の分布】

山地、丘陵地に広く生育しているが、濃尾
平野中央部には見られない。尾張では名古屋
市のほか、瀬戸尾張旭、豊明東郷、東海知多、
半田武豊、常滑、知多南部、犬山、小牧で確
認されている。

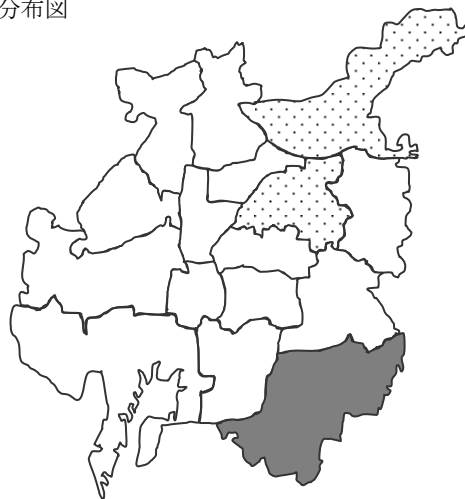
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、シベリア東部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では、遷移の進行による草地の消失か、土地造成に伴う生育地の破壊によって絶滅した
ものと思われる。緑区でも 2014 年には 2 株確認できただけである。

【保全上の留意点】

愛知用水などの幹線用水路わきの草地は、管理上の理由で定期的に草刈りが行われるため、全体的
に草地が減少する中で、多くの草地性植物の逃避地になっている。水路の改修にあたっては、こ
のような植物の最後の生育場所を奪わないよう、特に配慮が必要である。

【特記事項】

秋の七草の一つで、漢字で女郎花と書く。

【引用文献】

安原修次. 1990. なごや野の花 p.120. エフエー出版, 名古屋.

【関連文献】

保草 I p.102, 平草 III p.147.

（執筆者 芹沢俊介）